+R 未来を生みだす人になる。
立命館大学
RITSUMEIKAN

立命館

父母教育後援会だより

A Magazine for Parents' Association Members of Ritsumeikan University

2009年度
夏号
2009 Summer Issue

CONTENTS

父母教育後援会春のオープンカレッジ …… 02
父母教育後援会総会 …… 16
都道府県父母教育懇談会 …… 20
Campus Landscape …… 24
立命館のゼミナール訪問 …… 26
海外留学について …… 30
図書館だより …… 32
キャンパスライフレポート …… 34
データに見る学生実態 …… 36
シャトルバスのご紹介 …… 38
輝いてます、ときの人 …… 39
親が気になる就職のポイント …… 40
キャリアオフィスからのインフォメーション …… 43
就職活動の流れと大学のサポート …… 44
エクステンションセンターってどんなところ？ …… 46
保健センター健康通信 …… 48
学生のスポーツ＆イベント …… 50
学園トピックス …… 52
オール立命館校友大会2009のご案内 …… 54
各種講座のご案内 …… 56
学生部による「誌上相談室」 …… 57
こんな場合はここへ …… 58

OPEN COLLEGE 2009

in Kinugasa Campus & Biwako Kusatsu Campus

衣笠・BKCにて同時開催

2009年度父母教育後援会

春のオープンカレッジ

5月17日（日）、衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで「2009年度春のオープンカレッジ」が開催されました。
当日は、新緑の季節に似合わぬあいにくの雨模様にもかかわらず、
約2500名が訪れ、キャンパスは大いに賑わいました。
「学生生活講演会」、「大学院進学説明会」、「進路・就職講演会」、「就職相談会」、
「スキルアップ説明会」、「留学説明会」、「キャンパス＆課外活動見学会」といった各プログラムには、
多くの父母が参加。お子さまの学生生活や進路への高い関心が伺えました。
また前日の16日（土）には「父母教育後援会総会」が行われ、今年度の事業計画と予算案が承認されました。

学生生活講演会

衣笠

思春期から大学時代にあたる青年期までは、子どもは揺れ動きながら成長する時期です。
立命館大学文学部春日井敏之教授が、「思春期・青年期のゆらぎと支援」と題して、
温かいまなざしと言葉で、親は子どもとどう向き合い、どう接し、自立を応援していけばいいのか語りました。

気遣いの人間関係にゆれる大学生たち

現代の大学生は、日々「気遣いの人間関係」の中で生活しています。それも仲の良い友達同士といった「親密圏」で気を遣う傾向にあります。一方で例えば車中でお年寄りに席を譲るといった、公共の場での気遣いは苦手です。こうした態度は、他者を大切にするというよりはむしろ「自分が傷つきたくない」という気持ちの表れです。私の教え子の中にも、「必要以上に他人を気遣い、結局自分自身が疲れてしまう」と訴える学生がいます。原因としては、他者との「つながりの実感」が希薄なことがあげられます。相手との間に確かな「つながり」を実感できれば、些細なことで気を遣う必要などないからです。

「つながりの実感」を育てる学童期・思春期

「つながりの実感」は、通常学童期に「遊ぶことと働くこと」の体験を通して育まれます。遊びながら仲間と心を通わせ、また大人の手伝いをすることで褒められ、「認められた」という実感を得るのです。しかし現代の子どもは大勢の友達と遊んだり、手伝いをした経験が乏しく、「つながりの実感」を育てる機会を逸してしまう人が少なくありません。

続く思春期葛藤の時期に、子どもは自分の弱さを認め、「助けて」と言える能力や関係を構築します。この時期にはまた、親に対する「負の感情」も芽生えます。例えば親が「良かれ」と思って将来のレールを敷いてやったり、「勉強がんばれ」などと励ましたりすることにも、子どもは反発を覚えたりしながら、親からの精神的な自立を図り、自己の解体と再編をしていくのです。子どもが葛藤を経て次のステップに進むためには、心に芽生えた負の感情を誰かに受け止めてもらうことが必要です。「こんな気持ちだった」「辛かった」「嫌だった」と誰かに打ち明けることで、振り回されていた自分の気持ちに区切りをつけたり、相対化したりして、成長していくのです。

ところが、すべての子どもがこの過程を思春期に経験できるとは限りません。うまく表現できないまま思春期を過ぎ、時には青年期になって、ようやく負の感情を吐露できるようになる子どももいます。たとえ大学生になったとしても、今となってはどうにもならないことや気持ちを誰かに聴き届けてもらう体験が必要なのです。

子どもの気持ちを「聴き」「認めて」後押しを

「遊ぶことと働くこと」の体験が乏しく、「負の感情」を聴き届けてもらえないまま青年期を迎えた若者には、自己肯定感が低いという傾向が見られます。他者との比較や競争で得られる「能力レベル」の肯定感ではなく、「存在レベル」で自分を肯定する気持ちが不足しています。

親の接し方として重要なことは、一つには、「ここまで成長してくれて嬉しい」と子どもにきちんと伝えることです。お互いが、お互いにとって意味のある大切な存在であると知ることが、自己肯定感を育てます。また、自立のためには、「心の居場所」も必要です。安心して自分が出せて、受容されていると感じることができれば、そこから飛び立っていくことができるのです。二つには、「上手な聴き手」になることです。それも言葉を急がず、態度や雰囲気すべてで聴き取ろうとする姿勢が求められます。三つには、「子どもを認める」ことです。具体的には、「褒める、励ます、頼る」「ねぎらう、赦す、守る」という姿勢とかかわり方が重要です。最後は、求められる援助は可能な範囲でしてやりながら、子どもを信じて見守ること。親が子どもをコントロールするのではなく、後ろからそっと背中を押してやるのが親の役割ではないでしょうか。

こうした姿勢は、子どものキャリア形成、進路選択においても大きな役割を果たします。仕事は、目的ではなく手段です。保護者の皆さんには、どうか結論を急がず、何のために生きるのか、働くのかと同時に、どのように社会とつながって生きるのかを問い、子どもが自ら答えを出すのを見守り、応援してやってほしいのです。

学生生活講演会

BKC

BKC会場では、入学センター部長の岡本直輝 経営学部教授が登壇。
「大学で伸びる学生の力」と題し、学生たちが持つ力を伸ばすために大学が取り組んでいること、学生がすべきことを中心に話をしていただきました。

大学での学びには主体性が必要

立命館大学の学生たちが、日頃何を感じ何を考え、どのようなことで苦労しているのか、ぜひこの機会にご両親にご理解していただければと思います。

まず高校と大学で大きく変わる環境について考えてみます。高校には固定の教室があり、固定の机があり、固定のロッカーがあります。教室で待っていれば、先生が様々な情報を教えてくれます。それが大学になると、固定の教室や机はなく、自分の居場所は自分で作らなければいけない状況になります。仲間と情報を共有する場所も作らなければなりません。さらに、より多くの情報を入手しサービスを受けるために、大学の様々な施設や機能を知り、自らそこへ出かけて行く必要があります。

先生も、高校のように職員室に集まっているのではなく、用事があるなら一人ひとりが持つ研究室を訪ねなければなりません。訪問しても留守で、居場所が分からないこともよくあります。このように、高校とは大きく異なる大学の“学び”にすぐ馴染む学生もいれば、戸惑いを感じる学生もいます。後者の学生に共通しているのは「受け身の学び」を主体としており、未知の世界に自ら飛び込む力を持っていないのです。

大学での“伸びる学び”とは

就職活動では、学部で身につけた専門知識だけでなく、チャレンジ精神や積極性、チームワークといった“人間力”も重視されます。よくご父母から就職相談を受けますが、私はいつも「会社選びより、大学生活を仲間と精一杯過ごすことが一番大事」と答えます。仲間と共に目標に向って作ったプログラムを実践し、互いに評価する“学び”が重要なのです。仲間と汗や涙を流すことが学生を成長させる一番の薬だと思います。それを最も効果的に経験させてくれるのが、課外活動です。その重要性を1回生に伝える大きな役割を果たしているのが立命館の「オリター」や「エンター」という制度です。オリターという学生たちが様々な角度から先輩として教え、立命館での学びを出発させます。

立命館独自の学び合いプログラムでは、仲間と共に挑戦することを教えます。その中で、仲間の能力を評価することが大切です。「彼の○○という点が凄い」、「彼女の頑張りを見習わなければ」と友人を認め高く評価する力は、学生を驚くほど成長させます。すなわち「仲間を作る力」=「学生を伸ばす力」なのです。

ご父母の方々のサポートも重要

大学での様々な経験は、楽しいことより失敗や苦労の方が多いです。そうした経験が、学生の課題解決能力を向上させてくれるのです。特に仲間と共に流した汗や涙は、仲間と課題に積極的に取り組み、挑戦する高い士気（学ぶ姿勢）を養ってくれます。もし、学生が友人と流した汗や涙を自慢げに話したら、ぜひ「いい友達を持ったね!」と褒めてあげて下さい。仲間と共に夢や学ぶ苦しさを語り合うことが学生の夢を実現させます。国家公務員Ⅰ種をはじめとする難関試験に挑戦する場合においても、一人で挑戦しなくてはなりません。自分の頑張りが見えなくなるどころか不安ばかりが先行します。その時に仲間との励まし合いが重要になります。ぜひご父母の方々も結果ではなく、苦労した過程を評価してあげて下さい。

今後立命館大学は、独自の学び合いプログラムをさらに発展させなければならないと考えています。特に「どのように勉強したらいいですか?問題集はないのですか?」と高校の学びから発展できずに悩む学生への支援を、さらに強化する必要があります。そのためのご指摘を、ご父母から頂ければと願っています。

進路・就職講演会（1～3回生対象）

衣笠

2007年、企業の若手社員分析から「シュガー社員」の実態をあぶり出し、命名した田北百樹子氏。企業や社会から大きな反響を受け、一躍時の人となりました。

講演では、シュガー社員にならず、企業から求められる人材となるためのヒントが語られました。

家庭、教育、社会がシュガー社員を生む

まず私が命名したシュガー社員は、「ヘリ親依存型」「俺リスペクト型」「プリズンブレイク（Ⅰ・Ⅱ）型」「ワンルームキャパシティ型」「私生活延長型」の5つのタイプに分類できます。これらは順に、親がすぐ子どもの手助けをする、「自分が一番」と思いこみ、他人の価値観を受け入れられない、短期に転職を繰り返したり、苦手なことを断るなどすぐ逃げる、キャパシティが小さく、マニュアル以外の事態に直面するとパニックに陥る、私生活を仕事にも持ち込むといった特徴があります。こうした人材は当然、企業から受け入れられません。そんなシュガー社員にならないためには、大学時代に「社会で働く自分」を見出す意識が必要です。

シュガー社員が生まれる背景には、3つの要因があります。一つには、過保護な親の存在です。二つ目には、厳しく指導する教師が少なく、個性を重視するあまりに、自己主張ばかりする子どもを育ててしまう学校教育にも問題があります。三つ目には、内定取り消しや派遣切りなど、人材を軽んじる企業や、それに対する不満も、シュガー社員を生む温床となる傾向は否めません。

シュガー社員は概して「依存心が強い」「自己決定しない」「飽きっぽい」「お手伝いが苦手」「反論から始まる」「人を認めない」といった資質を持っています。また「成果がでない」「希望の部署ではない」「動いて怒られた」「苦手な人がいる」「雑用が多い」「親が後押ししてくれる」といった環境で、その性質が顕著になります。

企業から期待される人材になるために

いまや大学を卒業したからといってすぐ就職できるという時代ではありません。経済不況もあいまって、企業では、すぐ企業に貢献できる即戦力や、「人にしかできないこと」、すなわちコミュニケーション力など人的質を重視する傾向が強まっています。企業が必要とするのは、自らの力で前に踏み出す力、「なんとかなる」と物事を軽視せず、とことん考え抜く力、そして組織の中で力を発揮する「チームで働く力」です。

では企業から期待される人材とはどのような人材なのでしょうか。経験から分析すると、そうした人材には次のような共通点が見られます。「自分が将来何をしたいのかが明確」で、「そのためにどうしたらいいのかを真剣に考え」、最終的には「自己決定によって企業を選択できる」点です。こうした人材なら、どんな企業に勤めても、またたとえ途中で転職することになっても、企業から求められるにちがいありません。

もちろんシュガー社員だけに問題があるわけではありません。経営基盤が不安定で過酷な仕事を課すにもかかわらず給料は安い、さらには人間関係がめちゃくちゃであるなど「ブラック企業」と呼ばれる企業もあります。そうした企業を避けることも、シュガー社員とならない防御策でしょう。

自分の意思で進路を決定することが重要

社会に旅立つ子どもを持つご父母の皆さんには、まずは親が、就職は最終ステージではないことを認識し、子どもの相談には乗っても最終決定は子どもに任せることをお願いしたい。手出しをせず、「ガマンする」ことが何より重要だと認識していただきたいと思います。

大学時代はかけがえのないものです。勉強だけでなく、遊ぶことからも得るものや成長できることがたくさんあります。しかしそれだけに終始しないでほしい。自分の進路はたとえ思い通りにいかなくても、「すべての原因は自己に起因する」という責任感を持ち、「最後は自分の意思で決める」。それがシュガー社員とならず、自分自身が希望の進路を進むすべとなるはずです。

進路・就職講演会（1～3回生対象）

BKC

人事・採用のアウトソーシングとコンサルティングを手がける、株式会社トライアンフ代表の樋口弘和氏をお招きし、「これからの時代を担う若者に求められる生き方・働き方」をテーマに、企業が求める人材像や、親がすべきことなどについて語っていただきました。

時代と共に変化する キャリアの価値観

最初に、就職活動中の子どもたちと、どのようなスタンスでつき合うべきか、考えてみたいと思います。父母の皆さんが社会に出た当時、職場で最も尊敬した上司を思い出してください。見ていない振りをして、しっかり見ていてくれた。約束を必ず守ってくれたし、守らなければ厳しく叱ってくれた。そんな人ではなかったでしょうか？ 社会に子どもを送り出す親として、甘やかし過ぎることなく、よく見てあげて、ここぞという時に叱る、そんな尊敬すべき上司のように振舞えば良いのでは、と思います。

皆さんが就職した高度成長期は、「明日は必ず良くなる」と、世の中全体が信じて疑わなかった時代。「一から修行し、10年は教わることがあるだろう」と、長いスパンで人生を捉えることができました。一方今の学生たちは、物心ついた時から世の中の成長が鈍化しているのを見てきました。企業に人生を預けるわけにはいかない、自分のキャリアは自分で考えなければいけないと感じ、キャリアの目標は2～3年後。つまり、短いスパンでの転職は、我慢強さが足りないのではなく、企業を信用できなくなったということが大きな理由なのです。このように、時代とともにキャリアに対する価値観が、大きく変化しています。

企業が求めるのは 組織行動が出来る人材

私が採用試験の面接で学生に聞くのは、就職活動中の苦い経験や、その苦しみをどのように乗り切ったかという話です。もし他に就職活動をしていない学生だったら、大学受験についての話を聞きます。いずれにしても、「濃密な時間に、やるべきことをどのようにやり切ったか」というところに最も注目します。

企業が求める一番の能力は「主体性」と「自主性」です。もう一つは「相手の顔色を読める」という資質です。例えば面接で、サークル活動や塾講師などのアルバイトに力を入れたとアピールする人がいますが、仲の良い友達ばかりと過ごし、生きてきた資産で何とかしようとしたり、マニュアルを読めばできることしかしてこなかった人に、社会で必要な主体性のある「組織行動」を取れる人が多いとは思いません。むしろ自分よりレベルが高い人や、異質な考え方を持った人に積極的に関わろうとする学生には「組織行動」の可能性を感じます。

社会で伸びる秘訣は 好奇心と素直さ

現在、入社3年目で新入社員の3割が辞め、そのうち初年度に辞める人は8割に上るといわれます。企業選びの際、自分を育ててくれそうだと感じたり、働いている自分をイメージできる「直感力」が足りない学生は、企業選びに失敗します。仕事とは、会社から命令で与えられるところからスタートします。やりがいがあるか、やりたかったことかは関係なく「やるべき仕事」の中に面白さを発見し、できる仕事を増やす。その結果としてやりがいや充実感が生まれる。これが正しいキャリアアップなのですが、それに我慢できない学生が、早期離職してしまうのです。

また社会で伸びる秘訣は、いかに自らの好奇心と向上心で先輩や上司を見、仕事と向き合えるかです。そして周りに「助言してあげたい」と思わせるのはもちろん、自己を客観的に理解し、自己管理できる「自己認識」、すなわち「素直さ」。それから自尊心で凝り固まらず、何が起きても安定してパフォーマンスを上げられる「やわらかさ」も大切です。

こうした物事の基本原理を、経験豊富なご両親が話して聞かせるだけで、就職活動する学生たちには非常に役に立つのではないかと思います。

就職相談会（4回生以上対象） 衣笠

全体会では、キャリアセンター平井部長よりこの大不況の中で企業側の人事計画が遅れている現状を踏まえながら、2009年度の求人情報に始まり、一人ひとりを徹底サポートする学生支援および、対策内容について具体的に説明されました。その後の学部ごとの個別相談会では、就職活動に関する不安や疑問点などについて質疑応答が行われました。

万全の準備サポートと学生の希望傾向について

まず各企業の人事計画が例年より遅れている中、エントリーシートや筆記試験段階で不採用とされている実状が語られました。また「OBの情報が通用しなくなり、役員との顔合わせ＝最終面接で不合格となるるケースも報告されています。こうした状況から、公務員志望者が増えています」と、厳しい現状が述べられました。一方内定報告では、就職活動が後半を迎える今後、より一層厳しくなるであろうという見通しが語られました。「全体的に『大手志向』『安定志向』の学生が増えています。こうした実情を踏まえ、今後も引き続き学生の把握に力を注ぎ、一人ひとりに合ったカウンセリングを行っていく予定です」と、キャリアセンターの支援計画が語られました。

「自己決定」を促す窓口相談

次に「自分で考えて、自分で決める」姿勢を第一に実施されているサポート内容について説明が行われました。①窓口相談について、②企業の歩き方講座（エントリー可能な企業の探し方、大学キャンパスウェブの使い方など）、③模擬面接の実施、④学内企業説明会などが挙げられ、「学生には、これらを利用しながら、自分に合った企業を探してほしい」と述べられました。

また「周りの友達が内定を取り出すと、どうしても焦りやすくなります。それが諦めや投げ出し、『自分を受け入れてくれる会社なんでないのではないか』といった過剰な不安を引き起こすことがあります。家庭ではそれらを助長するような発言などに気をつけてあげてください」と注意点もアドバイスされました。

続いて、学部ごとに分かれて個別相談会が実施されました。

就職相談会（4回生以上対象） BKC

昨年以上に厳しさを増した採用戦線の最中にあって、キャリアセンター高山副部長よりキャリアセンターによるきめ細かな支援策と2009年度の求人状況についての説明がありました。その後行われた学部別相談会では、日夜学生の就職活動をサポートするキャリアセンターの職員がアドバイスを行いました。

変化を遂げつつある採用状況の最前線

2009年度の採用戦線の現状と今後の支援内容に関して、キャリアセンターより報告されました。「メディアではネガティブな情報ばかりが報道されていますが、採用状況はめまぐるしく変化しています。特に今年は、従来よりも面接を重視して本人の資質をじっくり見る傾向にあります。昨年度の経験があまり参考にならず、ギャップに戸惑う学生が増えているようです」と解説。「モチベーションが下がったり、不安を感じた時には、まずキャリアセンターへ相談するよう勧めてください。またお子さまの相談に乗る際は、ストレスを与えるのではなく、なるべく聞き役に徹してあげてください」と、厳しい現状を乗り切るためのアドバイスが加えられました。

昨年度と肩を並べる8400件以上の求人量

「大卒生の求人倍率は、昨年度の全国平均で2.14倍。今年は0.5ポイントのダウンで1.62倍です。従業員1000人以上の大手企業の求人倍率は0.2ポイント減、1000人以下の企業で0.6ポイント減っています。なお本学の求人数は、昨年で9000件以上、本年度も8400件以上（5/17現在）あることからほとんど去年と変わらない状況といえるでしょう」との解説の後、今後の支援策が述べられました。「一人ひとりにじっくり向き合う窓口対応、自分に合った会社選びのための企業の歩き方講座、実践さながらの模擬面接、学内企業説明会など具体的なサポートで、長い人生を見据えた進路設計を支援しています。また社会問題化している内定取り消しや条件変更の申し入れに関しては、一人でなんとかしようとせず、キャリアセンターへ報告してください」と説明されました。

続いて、各学部ごとに個別の相談会が行われました。

大学院進学説明会

「研究者養成」というかつての役割から、いまや大学院は社会や企業が求める高度職業人、高度教養人の養成という役割を期待されるようになってきました。

文社系学部においても、大学院へ進学する学生の割合は、年々増えつつあります。

衣笠キャンパスにおいて文社系大学院と法科大学院（ロースクール）に分かれて開かれた進学説明会には数多くの父母が出席。関心の高さがうかがえました。

文社系大学院

立命館大学では文社系はもちろん、すべての学部に博士課程が設置され、加えて前期・後期課程一貫の先端総合学術研究科や、公務研究科、応用人間科学研究科、言語教育情報研究科といった、学部とは独立した大学院も配置されています。説明会では、春日井敏之教学部副部長から文社系大学院の現状が述べられました。「主に研究者養成だった一昔前とは異なり、文社系大学院は、いまや高度職業人、高度教養人を養成する機関と認識されています」とされ、社会に出ることを想定し、現場で通用する実践力に磨きをかける学生が増えていることが説明されました。それに伴って、立命館の大学院においても「知識基盤社会と言われる現代社会にあって、知識、情報、技術、理論を得て、国際社会の抱えるさまざまな現代的な課題に対応し得る人材を育成することをめざした大学院教育に力を入れている」ことが強調されました。

文社系学部生の大学院進学率については、例年20数％であり、そのうち約1割が後期課程に進学することが説明されました。また近年は、大学院で専門性を高め、専修免許などの高度な資格を取得して教育現場へ出ていく学生が多いことも説明されました。

大学院修了後の就職状況にも話は及びました。「学部生にはない知識や技能、人間性などが評価されることが多い」とされた上で、就職希望者の就職決定率が90％を超える実績が報告されました。一方で大学院生への期待から評価が厳しい現実もあり、目的意識を持った進学が必要とも語られました。その他、充実した奨学金制度についても紹介されました。

Student's Voice

社会学研究科
博士課程後期課程
1回生
間庭 大祐さん

学部は経済学部でしたが、社会科学への関心が膨らみ、社会学研究科に進学しました。現在は、批判的実在論という学問の潮流から、公共性について研究しています。先行研究から自分なりの視点や研究の意義を見出し、独自の研究を展開する。そうした自発的な学びが大学院の面白さです。今後は博士号取得に向け、論文制作や学会発表など研究活動に真摯に取り組むつもりです。

Student's Voice

国際関係研究科
博士課程前期課程
2回生
樋口 勝也さん

国際機関で働きたいという目標を持っている私にとっては、修士号の取得は必須条件。本学に進学して何より良かったのは、DMDP※で、立命館大学とオランダの大学の両方の学位取得をめざせることです。オランダに1年間留学し、世界各国の学生と接したり、立命館大学で社会人経験者と一緒に勉強したりと、本研究科に進学したことで得た多様な人との関係が大きな財産です。

Student's Voice

先端総合学術研究科
博士課程（一貫制）
3回生
櫻井 悟史さん

一つの学問にとらわれず、多角的な視点から研究できるのが、先端総合学術研究科の魅力です。研究者志望の私にとっては、博士号取得を視野に入れて学べる一貫制にも惹かれました。現在、日本で死刑執行を担う刑務官の問題について研究。机と本棚が用意され、図書館では書籍を100日間で100冊借りられるなど、サポート体制が整っているので、思う存分研究に打ち込めます。

Student's Voice

公務研究科
修士課程
2回生
今井 達也さん

私は社会に出る前に、より深く学び、考えたいと大学院に進学しました。現在子どもの教育に関心を持ち、小学校や児童養護施設、小児科病棟など現場での活動を通して研究しています。来春からは民間の教育機関で働く予定です。就職活動では、学部生以上のスキルや知識が求められるのが現実。目的意識を明確にして大学院へ進学することが希望の進路獲得につながります。

法科大学院（ロースクール）

司法制度改革に伴い、「地球市民法曹」の養成を掲げて開校した立命館大学法科大学院は、この春、第4期生を迎えました。説明会では、自らも教鞭を取る和田真一副研究科長が登壇し、法科大学院の内実を説明しました。

立命館の法科大学院は、150名と定員と定めています。内訳は、法律知識を持つ既修者のための2年修了コース100名、法律を学んだ経験のない未修者が履修する3年修了コースが50名です。

次いで「基礎から段階的に法律の力を身につけるカリキュラム」が紹介されました。「3年修了コースの初年度は、法律の基礎を凝縮して学ぶ、濃密な授業が行われます。2年次には基礎知識を前提とした演習が始まり、最終年には、本学の特長である実務総合演習があります」と解説。大学の教員と現役の裁判官を含めた実務家教員とが一緒になって現在的な法律問題に取り組む実務総合演習については詳細が説明されました。また先端・展開科目として「先端・企業法務」「国際・公共法務」「生活・人権法務」の3プログラムを用意し、専門性の養成を可能にしていることにも触れられ、各分野にはすべて専門教員を配置するなど、教授陣が充実している立命館の強みが明かされました。和田副研究科長からは「新司法試験では、法律知識はもちろん、法律的な思考力や読み、書く力も試されます。読む、書くといった能力は一朝一夕では身につきません。学部時代からこうした力を継続して育み事が重要になります」といった教員ならではのアドバイスも語られました。続いて、法科大学院への入試資格や試験内容、入学後の数々の奨学金についても説明されました。

合格率に話が及んだ際は、2008年度は合格者59名と全国の大学で第9位だったものの、合格率は3～4名に一人と依然狭き門であることが判明。その現状を踏まえ、「司法試験合格者及び専門職を目指す法科大学院修了者へのサポートが今課題となっています。立命館大学でも、教員が学生一人ひとりと面接してアドバイスするほか、キャリアセンターが法科大学院生向けの就職支援を企画しているなど、支援体制を整えていくつもりです」と述べられました。

質疑応答では、試験対策として正課の授業以外の勉強法について質問があがりました。それに応えて、学生同士の自習グループに教員が参加して指導したり、長期休暇中に勉強会を催すほか、エクステンションセンターが対策講座を開講していることが紹介されました。

OB's Voice

法科大学院
（2年修了コース）
2006年3月修了
佐藤 邦男さん

学習環境と設備が整っているのが、本学の法科大学院のいいところ。充実した図書館や教室のほか、自習室も完備されています。何より多様な専門やご経歴の先生が大勢いて、非常に熱心に指導してくださったのが大きな力となりました。難関の新司法試験への挑戦は、リスクを伴います。勉強も厳しく、生半可な気持ちでは通用しません。子どもが司法試験を志望した時、親御さんは、それをやり遂げる決意があるかどうかを見極め、意志が強いならぜひ後押ししてあげてほしいと思います。
現在私は、日本司法支援センター（法テラス）に所属しています。金銭的な問題から法的支援を受けられなかった人を支援する新しい試みのセンターです。私は主に障害を持った人の国選弁護を担当。将来は過疎地での弁護活動をしたいと考えています。

※ DMDP（Dual Mastar's Degree Proglam）
大学院共同学位制度。立命館大学の大学院に所属しながら海外の提携大学院に1年間留学することによって、最短2年間で2つの大学院の修士号を同時に取得できる制度

大学院進学説明会

びわこ・くさつキャンパスでは、理工学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科（MOT大学院）、経済学研究科、経営学研究科について進学説明会が催されました。

理工学系はもちろん、経営や経済の高度な専門知識を備えた人材の必要性が高まっている近年、大学院への進学はキャリア形成の上でも重要性を増しています。

説明会ではそうした社会背景とともに、教育内容や就職状況について説明が行われました。

理工系・ＭＯＴ大学院

まず理工系大学院について、深川良一教授から概要が説明されました。理工系大学院は、例年約600名、学部生の約40％が前期課程に、後期課程にも90名以上が進学する立命館大学で最大の研究科です。「基礎科学力や情報処理能力、問題解決能力に加えて、近年は理工系でもコミュニケーション能力、とりわけ英語力の必要性が叫ばれています。また専門性を究めるだけでなく、それが実社会でどのように用いられているかを深く認識することも求められます。大学院では、こうした能力養成に努めています」と述べられました。具体的なプログラムとして、コーオプ演習が紹介されました。「企業にインターンシップに赴き、企業が抱える現実課題の解決に取り組みます。問題解決能力がつくとともに、実社会を垣間見ることもできます」と解説されました。

大学院進学後の進路については、2つの道が想定されます。一つは、高度専門職業人として民間企業に就職したり、国家公務員になる道です。一方で、後期課程を経て研究者になる道もあります。近年は、さらに高度な人材として後期課程修了者が民間企業から求められている現状が紹介されました。就職状況については、大手企業就職者や、国家公務員（Ｉ）種合格者が顕著なことが報告されました。その他入学試験や奨学金制度の充実ぶりについても詳しい説明がなされました。

続いてMOT大学院について、青山 敦教授が紹介しました。「立命館は、関西で唯一本格的にManagement of Technology（技術経営）を学べる大学院で、学部からの進学生、社会人、留学生が在籍しています」と解説されました。経営においても技術力をベースにした戦略的なマネジメントが不可欠な現代、経営と技術の両方の知識を持った高度な人材が求められています。「ほぼ100％という非常に高い就職率がその事

実を物語っています」と裏づけられました。その一端を示す特徴的なプログラムとして「プラクティカム」があげられました。「我々教員と企業とが共同で設定した課題を3か月～半年と長期にわたって解決する企業実習プログラムです。学生は、企業に出向いて指導を受けるだけでなく、自ら課題を解決し、最終的には報告書を提出したり、発表します。そうした活動を通してコミュニケーション能力や社会性など、ビジネススキルが鍛えられます」と述べられました。

その他、カリキュラムや奨学金などについても説明されました。

経営学研究科

2010年、経営学研究科は3つのコースを新設する予定です。佐藤典司副学部長（大学院担当）から、新しい取り組みの概要とその背景が解説されました。「現代は『知識社会』といわれます」と始めた佐藤副学部長は、「以前の農業社会は、働いた分だけ価値が生まれました。しかし現代は情報を活用し、知識や知恵に変えた者が、価値を100倍にも1万倍にも増やせる時代です。消費構造を見ても、安さや便利さだけでなく、ブランド力など『知識の価値』が購買の決定打になりつつあります」として、より高度な知識を得る必要性を語りました。

続いて、新設予定の3コースが紹介されました。ビジネスキャリア・コース、スペシャリスト・コース、グローバル・コースに分類され、「ビジネスキャリア・コースでは、経営学部以外からも進学者を受け入れ、高度な経営学の知識を得て社会へ送り出すことを目的としています。スペシャリスト・コースでは、後期課程を含めた5年間を想定し、経営学のスペシャリストとしてコンサルタント会社やシンクタンクで活躍できる人材を育成します。グローバル・コースでは、アジアや欧米から留学生を受け入れ、国際的な教育を実践します」と解説されました。各コースの特徴に加えて、カリキュラムや学習領域についても説明が加えられました。

Student's Voice

経営学研究科
博士前期課程
1回生
山本 五郎さん

私は飛び級制度を活用し、3回生を終えた春に大学院に進学しました。今後DMDP※を利用し、フランスのエセム大学に14ヶ月間留学する予定です。経営学に関する高度な教育機関として世界的に認められているエセム大学と立命館大学で2つの修士号を取得できるというのは、学びの質からもキャリア形成の上でも、非常に有意義だと考えています。1回生の今は、毎日授業を受ける他、自習や研究のための勉強に時間を費やしています。大学院生一人に一つの机やロッカーが割り当てられるなど、充実した環境で思う存分勉強に打ち込んでいます。

※ DMDP→P9参照

経済学研究科

古川 彰副学部長（大学院担当）が、経済学研究科を紹介しました。経済学研究科は「経済理論・政策」「税理・財務」「MPED」の3コースから成り立っています。「経済理論・政策コースは、経済学のプロフェッショナル、主に研究者の養成を目的としています。税理・財務コースは、税理士法に対応したカリキュラムを編成し、国際課税についても学習。修了者は、税理士試験の科目を一部免除されることもあることから、税理士の資格取得をめざす学生が数多く学んでいます」と説明されました。さらに国際的な高度専門職業人の養成を視野に入れたMPEDについても触れられ、授業、テキスト、レポート、修士論文などすべて英語で行われること、多くの留学生が学び、日本人学生にも門戸を開いていることが説明されました。

カリキュラム紹介では、必要な単位や科目が述べられた後、イギリスのランカスター大学と立命館の2つの修士学位を取得できるDMDP制度や、タイへの海外調査実習など、国際社会に触れる機会についても詳報がもたらされました。

就職についても言及。「一昔前は、理系以外の大学院進学者の就職は不利とされていましたが、近年は、経済や経営に関する高度な専門知識を持つ人材が企業でも求められるようになっています。キャリア形成の点からも、大学院進学は非常に意義あるものです」と語られました。

Student's Voice

経済学研究科
博士課程前期課程
2回生
久保 友美恵さん

博士課程前期課程進学については、当初親からなかなか理解を得られませんでした。就職やその後の進路にどうつながるのかと心配だったようです。私自身、就職活動をして実感したのは、大学院での経験をどう生かすかは自分次第だということです。2年間、経済学について専門性を深め、学部生にはない成長を遂げられました。それが内定につながったと思っています。

スキルアップ説明会

BKC

資格の取得や高度な外国語運用能力を身につけることを目的としたCLA（言語習得センター）より、個人のレベルや目的に応じた語学講座の紹介が行われた後、スキルアップや国家資格の取得をサポートするエクステンションセンターより、圧倒的な合格率を誇る各種講座について説明されました。

CLA講座

祐伯敦史総合理工学院生命科学部准教授より、CLAの目的、講座の特徴、キャリアアップに応じた具体的な講座内容が説明されました。「現在、CLA講座を受講する学生は、2300～2600名にのぼり、全学生の12～13人に1人が学んでいる計算になります。授業の空き時間を有効活用しながら、正課の授業＋αで英語力が身につけられるほか、経験豊富な講師陣による心強いサポートも受けられます」と解説。中でも英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価するTOEIC講座の人気が高く、就職時にもスコアが重要視されることから、CLAではTOEICの得点に応じたレベル別のクラス編成を行っていることが語られました。またTOEICテスト直前の対策講座や短期集中型のTOEICミニマム講座も紹介されました。

そのほか、「北米の大学や大学院の留学の際に必要なTOEFL講座や、衣笠キャンパスでは第二外国語講座を開講。資格試験に限らず、苦手な英語を克服するための少人数英会話講座、少人数ディスカッション講座などさまざまなスキルアッププログラムを用意しています」と述べられ、外国語の習得を志す学生を細やかにバックアップするCLAの体制が明かされました。

Student's Voice

情報理工学部
4回生
一柳 有希さん

将来留学することを考えて、CLA講座を受講しました。TOEFLのスコアがアップしただけでなく、モチベーションの高い友人ができ、図書室で勉強する習慣が身についたことが良かったです。その後、情報理工学部のIT研修プログラムを利用し、アメリカとインドで約1ヶ月間の短期留学を経験。将来は、英語力を生かせる仕事に就きたいと考えています。

エクステンション講座

エクステンションセンターより、学内で受講できる資格取得・スキルアップ対策の各種講座について紹介されました。現在、28種類のエクステンション講座が開講されており、BKC・衣笠両キャンパスを合わせて年間約7000名もの学生が受講しています。「講座は、大きく4分野に分けられます。宅建や旅行業など将来的な仕事に生かせる総合講座、金融・会計専門職講座、公務員講座、法曹・法律専門職講座です。それぞれが学生のキャリア開発と資格試験の合格をサポートしています」と述べられました。

「エクステンション講座は、総合的な人間力を形成する課外活動の一つと位置づけられています。受講料は発生しますが、学生の負担にならないよう市価の75％以下で受講できる体制を整えています。また各分野の第一線で活躍する優秀な人材を数多く講師に迎えるなど、徹底した指導を実施。それは、国家資格の全国合格率と比べて圧倒的な高さを誇る立命館大学の合格率が証明しています。学外にはサテライトによる遠隔授業を行うスクールもありますが、立命館大学では、すべてライヴで緊張感のある各種講座を受講できます。就職活動対策としてだけでなく、多くの知識を得る好機としても活用してください」と、解説されました。

Student's Voice

経済学部
4回生
上田 明範さん

高校生の頃から旅行が好きで、2回生の時に旅行業講座を受講しました。最初にテキストを8冊も受け取った時には少々不安になりましたが、担当の先生が海外渡航経験などを交えて解説してくれる授業が面白く、楽しみながら学ぶことができました。また授業を欠席した際、後日DVDで視聴できるバックアップシステムも大変役立ちました。

留学説明会

衣笠

「国際化の必要性」が叫ばれて久しいにもかかわらず、日本ではその対策がいまだ不十分な現状があります。お子さまが留学を希望する多数の父母が参加した留学説明会では、国際社会における日本人の存在感の薄さについて現状が解説された後、「世界に通用する人材育成」のため本学が推進するさまざまなプログラムが紹介されました。

「質」を重視する異文化交流へのススメ

立命館大学は、国内でいち早く海外留学カリキュラムを取り入れ、多彩なプログラムを用意していることでも知られます。近年では、毎年1500人以上の学生が留学を経験しています。こうした現状を踏まえ、まず中川優子国際部副部長があいさつの弁を述べました。次いで国際教育センターから、海外留学の意義や心構えが説明されました。

「留学で大切なこと」として特に強調されたのは、「現地で何を得たのか?」という「質」を追求することです。「近年は、非常に多くの学生が、短期・長期にかかわらず海外で学ぶ機会を得ており、ただ留学したということだけでなく、自分自身が行動して、何を得たのかという実感こそが大切です。そのためには、自分の学生生活における留学の位置づけを明確にし、その上で4年間で卒業するために必要な履修計画、留学の時期・期間を早い段階からしっかり考える必要があります。さらには留学生活を終えた後の就職活動のスケジュールも事前に確認しておくことも大切です」との説明がありました。すなわち「明確な動機・目的」「現地で自分について語れる知識」「帰国後のイメージ」をしっかり持って、海外留学をめざすことが成功のポイントだと語られました。

海外への留学は大きく成長するチャンス

次いで、立命館大学で実施されているプログラムの概要、応募資格や費用に関することに加え、㈠学生のニーズに合わせたプログラムが用意されている、㈡先輩から後輩への情報伝達が活発である、さらに㈢危機管理が行き届いているなどの特徴について説明されました。また「他言語の運用能力の向上」「基礎学力の向上」「異文化への適応」「精神的自立」といった面からも、海外留学は学生が大きく成長するチャンスであると語られ、「貴重な機会を与えてあげてほしい」と熱心に訴えかける場面もありました。

㈠に関しては、春季・夏季の休暇中を利用する4週間ショートステイ、1学期間の1セメスター、1～2年のロングステイの期間によるタイプ分けに加えて、イニシエーション型(初級)、モチベーション向上型(中級)、アドヴァンスト型(上級)といったレベルによるタイプ分けがあり、自分に合ったプログラムを見つけやすい工夫が行われているので留学アドバイザー(過年度留学プログラム参加学生)、募集要項やHPなどで情報収集を行い、有意義な学生生活を送るための重要な選択肢として留学を考えていただきたいとの説明がありました。

続いて「新型インフルエンザに関する本学の対応について」の報告の後、質疑応答が行われました。

Student's Voice

文学部
4回生
大石 貴之さん

2007年度にアメリカ・イリノイカレッジに短期留学しました。「大学生の間に自分のやりたいことをやろう」という気持ちで、海外文化の体験を決意。参加に際し、語学要件がない異文化理解セミナーを選びました。生活、ジェンダー、教育、政治など、さまざまな面から日本とアメリカの違いを知り、自分自身の価値観が変わったことが何よりの収穫です。

Student's Voice

国際関係学部
4回生
重田 紗希さん

2007年9月～08年12月まで、立命館・UBC・ジョイントプログラムと2年目派遣プログラムに参加し、カナダ・バンクーバーに長期留学していました。2年目派遣プログラムでは、UBCの現地学生と同じ立場で専門分野について学習し、多文化共生の先進国で移民論や都市論などの知識を深め、卒論のテーマも見つけることができました。

Student's Voice

法学部
4回生
上瀬 綾香さん

交換留学生として、アメリカのアルフレッド大学へ約10ヶ月間留学し、国際比較法を学びました。「英語力の向上」と「いろんな人の考え方を知りたい」という目的のため、大学の授業だけでなくサークル活動にも力を注ぎました。現地では、「考える」ことの大切さを実感。違いを認め合いながら意見を交換する力が身につきました。

キャンパス＆課外活動見学会

衣笠・BKC

A

B

C

F

D

E

G

▶衣笠キャンパス

以学館２号ホール [A/B/C/D/E]
学生たちの課外活動の成果を鑑賞。放送局（RBC）のアナウンス部員による司会進行で、課外活動団体がパフォーマンスを繰り広げました。世界大会への出場経験もある「dig up treasure」によるダブルダッチの華麗な技に続き、40年の歴史を誇る「書道部」が音楽に合わせパフォーマンスをおこない、最後に「おどりっつ」が京都学生祭典のオリジナル演舞である京炎そでふれを披露しました。

末川記念会館 松本記念ホール陪審法廷 [F]
戦前まで実際に京都地方裁判所で使われていた陪審法廷を移築したもの。日本には2つしか現存しない貴重な法廷です。法学部の模擬裁判授業で今も使用されています。法の歴史を物語る教室に足を踏み入れ、かつての陪審法廷の雰囲気を味わいました。

その他 [G]
保健センターや図書館、購買部や食堂など、ふだん学生がよく利用する施設を、学生ナビゲーターの案内で見学しました。

Kinugasa Campus

A

B

C

D

E

F

G

H

▶びわこ・くさつキャンパス

コラーニングハウスⅠ [A/B]
学部を問わず学生たちの利用頻度が高い大教室で、立命館大学放送局（RBC）が作成した課外活動の紹介映像を鑑賞した後、フリーミュージックサークル“PEACE”のダイナミックで元気のある演奏を楽しみました。

クリエーションコア [C/D]
情報理工学部の研究室や全国でも有数の360度スクリーン設備をもつクリエーションコアを見学しました。薬品が体に付着した時の緊急用シャワーなど珍しい設備を見て回りました。

メディアセンター [E]
理系図書を中心に40万冊以上の蔵書を誇る図書室と、常時開放されている120台のパソコンルームを有するメディアセンターを案内されました。

アクロスウイング屋上 [F/G/H]
雄大な自然に包まれたBKCキャンパスと、はるか遠くに琵琶湖を望む南草津の大パノラマを屋上から見渡しました。

Biwako Kusatsu Campus

=Parents' Voices=

当日は、数多くの父母が全国各地から衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスに来訪。各プログラムに熱心に参加するほか、子どもが学ぶキャンパスの雰囲気を味わう姿が見られました。ここではそんな父母の方々の声をご紹介します。

衣笠

小笹さん ご夫妻
国際関係学部1回生

英語科の高校に通っていた娘は、高校時代にも海外でのホームステイを経験。大学進学前から留学を希望していたため、最新の情報が知りたくて参加しました。娘が第一に希望しているフィンランドは、交換留学生の枠が1名しかないこともあって、現地に日本人も少ないでしょうし、すぐに飛んでいける距離でもないので、向こうでの生活が心配でしたが、寮の斡旋などもしていただけると分かって安心しました。今日の資料をもとに、娘といろいろ話し合いたいと思います。

衣笠

伊藤さん ご夫妻
法学部1回生

息子の学生生活を見てみたくて、ちょっとした旅行気分で参加しました。聞いたところ毎日、朝から晩まで学校にいて、食事はほとんど学食ですませている様子。一日の大半を過ごしている場所がどんなところか見ることができて良かったです。「健康診断をちゃんと受けないと単位がもらえないことがある」など、ナビゲーターの学生さんのお話もとても参考になりました。今日聞いたことを踏まえて、息子ともきちんとコミュニケーションを取っていきたいです。

BKC

森川さん ご夫妻
経営学部1回生

娘はまだ1回生ですが、経営環境が良いとは言えない今の世の中で、2、3年後どのような学生になっていれば良いのか、そのために今からどのような学生生活を送ればよいのか、ヒントをいただければと思い参加しました。講演会は大変興味深く、自分たちの時代とは異なる今の面接方法や企業の視点、就職活動する子を持つ親の役割を明確に教えていただき、社会の一員である私たち自身にとっても、とても参考になりました。

BKC

森さん
経済学部2回生

就職活動を念頭に、親としては何かしらの役立つ資格を取ってほしいと考えていました。スキルアップ説明会に参加して、まずは就職活動のためというよりも、資格の取得を通してさまざまな経験を積んでほしい、そしてさらなる人間性の向上に励んでほしいと考えるようになりました。本人はまだエクステンション講座やCLA講座を受講していませんが、充実した学生生活を送るためにも今日伺ったことを早速話してやりたいと思います。

2009 父母教育後援会総会

翌日にオープンカレッジを控えた5月16日(土)、「2009年度立命館大学父母教育後援会総会」が催されました。
大学選出役員、父母委員総勢93名の出席のもと、本年度の選出役員や事業計画などが報告・承認されました。
合わせて立命館大学教授による「総会記念講演会」も実施。
全国から参加した父母委員にとっては、大学の学びを垣間見る良い機会となりました。

■ 総会記念講演会

総会記念講演会では、木村一信文学部教授がノーベル賞作家・川端康成の代表作の一つ『古都』を取り上げ、物語をひもときながら、作品の多様な側面に光を当てました。木村教授によると、京都を舞台にしたこの小説の魅力は、双子の姉妹にまつわる「捨て子」「再会」の物語の面白さはもちろん、全編を通じて京都の名所、年中行事、風物詩がちりばめられていることだといいます。「むしろ京都を引き立てるために二人の物語があるともいわれるほど」だと語り、映画の映像と共に祇園や清水寺、葵祭、祇園祭など物語を彩る名所・風物を紹介しました。

また作品に描かれている昭和36年という時代は、社会の変革時期にあたります。京都の伝統文化の変化の兆しなど、時代背景をも物語に盛り込んだ点も、評価されました。加えて木村教授は、「観光的な側面」にも着目しました。「この作品を機に、映画や絵画が作られたほか、北山杉など観光客を意識した文化が創出されていきました」と解説。ふだんの読書とは一味違った文学作品の読み解き方を示して、講演は締めくくられました。

■ 総会・懇親会

講演会に続いて、父母教育後援会総会が行われました。最初に登壇したのは、父母教育後援会名誉会長である川口清史立命館総長・立命館大学長です。新型インフルエンザなど昨今の重要課題について大学の立場や対策を明らかにしたほか、大学教育の「質」の確保についても言及。「教学改革や教職員教育、新たな学問領域の創出などさまざまな改革に取り組んでいきます」と述べ、2010年にスポーツ健康科学部を新設する計画にもふれました。

次いで千 宗室父母教育後援会会長が挨拶し「新任役員と先達とが力を合わせ、ますます強固に学生を支援していく所存です。忌憚なく大学と話し合えるこうした機会に感謝するとともに、いっそう縁を深めたい」と語りました。

2009年度に選出された委員・役員が紹介された後は、千会長が議長を務め、各議題を進行しました。父母教育後援会の幹事長である石井秀則教学部長が、2008年度事業および決算を報告。さらに今年度の事業計画と予算案、機構改編に伴う部課名の変更による会則の一部変更が提示され、すべての議案が承認されました。

■ 2009年度 大学選出役員

（敬称略）

役職	学園役職	新任	氏名
名誉会長	総長・学長		川口　清史
副会長	副総長・副学長	○	上田　寛
	副総長・副学長		児島　孝之
顧　問	理事長		長田　豊臣
	教学担当常務理事		中村　正
	学生担当常務理事	○	國廣　敏文
	総務担当常務理事		森島　朋三
	法学部長	○	二宮　周平
	経済学部長		平田　純一
	経営学部長		齋藤　雅通
	産業社会学部長	○	佐藤　春吉
	国際関係学部長	○	板木　雅彦
	政策科学部長	○	本田　豊
	映像学部長		大森　康宏
	文学部長		木村　一信

役職	学園役職	新任	氏名
顧　問	理工学部長		坂根　政男
	情報理工学部長		大久保英嗣
	生命科学部長		谷口　吉弘
	薬学部長		北　泰行
幹事長	教学部長	○	石井　秀則
幹　事	教学部副部長	○	春日井敏之
	学生部副部長		白石　晴樹
	キャリアセンター副部長		高山　茂
	教学部次長（衣笠担当）	○	徳永　寿老
	教学部次長（BKC担当）	○	本村　廣司
	キャリアセンター次長	○	浅野　昭人
	図書館次長	○	武山　精志
	学生部次長		北田　正知
	国際部事務部長	○	相根　誠
	社会連携部次長		武田　敦

■ 2009年度 父母教育後援会役員一覧

（敬称略）

役職	都道府県	新任	委員氏名
会長	京都府		千　宗室
副会長	滋賀県		土野池正義
監事	滋賀県		桑原　淳子
	京都府		馬場　慶子
常任委員	京都府		今西　清裕
			小野　善三
			大矢須美子
	大阪府		日浦　良夫
			井上　寿美
	兵庫県	○	太田　勝之
			小山美知子
	奈良県		日吉　由実
			濱家　重信
委員	北海道		長江　千恵
			山﨑千恵美
	青森県		船水　重利
			飛嶋　信子
	岩手県		冨永久美子
		○	佐々木　稔
	秋田県	○	根田　明樹
			海本　宏一
	山形県	○	横山　敏子
			小田　隆晴
	宮城県	○	小山　順子
			大宮　邦枝
	福島県	○	星　俊光
			池上　典夫
	千葉県		中牟田満子
			黒川　恵美
	茨城県	○	井坂　正典
			今井　忠光
	埼玉県	○	沼田　好晴
		○	和田　有子

役職	都道府県	新任	委員氏名
委員	群馬県		鹿沼　玉代
			大澤　正代
	栃木県	○	大貫　昇
			中里　光江
	東京都	○	永井　勇
		○	松野　真弓
	神奈川県	○	小川　恭子
			高見澤恭子
	山梨県		鈴木　徳明
			内田　孔介
	長野県		西沢　弘
			北林　芳枝
	新潟県	○	坂井　信博
		○	皆川　卓夫
	富山県	○	上島　弘志
		○	吉井　哲三
	石川県	○	半座磨利子
		○	喜多　仁嗣
	福井県		前川　彰男
			川口　恭央
	岐阜県		岩井ひとみ
			市岡　伯子
	静岡県		深田　真紀
			寺尾　立
	愛知県		今井　常夫
			花井　義一
	三重県		中西　清司
		○	小村　寿郎
	和歌山県		三木　貴行
			丸田　栄一
	鳥取県	○	赤坂　葉子
			池淵　建夫
	島根県	○	寺本　稔

役職	都道府県	新任	委員氏名
委員	島根県	○	小村　健実
	岡山県	○	真砂　和己
			市川　昭
	広島県		坂田　睦子
		○	内海　結示
	山口県	○	西丸　隆
			山本　和毅
	徳島県	○	逢坂　伸司
			西野　陽一
	香川県	○	田邉　昌寛
			浪越　敬二
	愛媛県		越智由香里
			田中　教夫
	高知県		高橋　秀行
			杉本　美保
	福岡県		石津　博睦
			花田　泰典
	佐賀県		毛利　俊治
			諸岡　譲
	長崎県		木下健一郎
			川原　直勝
	熊本県	○	荒木　通
		○	坂本　省一
	大分県		平岩　美香
		○	豊村　浩子
	宮崎県	○	元日田　勉
		○	湯浅まき子
	鹿児島県		巻木　春男
		○	濵田　時久
	沖縄県		仲里　雅之
			島　貞夫

■ 2008年度 決算

収入の部

（単位：円）

項目	予算額	決算額
経常収入	361,065,000	364,469,728
会費収入	360,000,000	363,075,000
過年度分会費収入	0	0
卒業生父母資料費収入	200,000	280,000
預金利息収入	150,000	297,047
基金積立預金利息収入	50,000	152,681
有価証券利息収入	665,000	665,000
雑収入	0	0
前年度繰越金	86,715,115	86,715,115
収入の部 合計（A）	447,780,115	451,184,843

支出の部

（単位：円）

項目	予算額	決算額
懇談会・講演会開催費支出	104,600,000	92,562,628
会報・学園案内広報支出	29,700,000	20,753,411
学生教育支援事業	244,080,000	199,163,147
入学・卒業記念品作成費支出	11,400,000	11,083,559
会議費（総会・委員懇・常任委等）	15,000,000	11,380,315
事務費支出（含弔慰金）	4,050,000	3,217,109
人件費支出	21,000,000	20,448,727
予備費支出	7,950,115	
父母教育後援会基金積立金繰入支出	10,000,000	10,000,000
支出の部 合計（B）	447,780,115	368,608,896
次年度繰越金（A）－（B）	0	82,575,947

■ 2008年度 事業報告

（1）懇談会事業

1 総会

5月17日（土）＠京都全日空ホテル
全国47都道府県から92名の委員に加えて、大学役員など総勢131名が参加した。

2 オープンカレッジ

5月18日（日）＠衣笠・BKCの両キャンパス
「学生生活講演会」、「進路就職説明会」、「大学院説明会」等のテーマ別懇談会に加え、「キャンパス見学会」の企画を実施。両キャンパス合わせて、約2300名が参加した。

3 都道府県 父母教育懇談会

6月1日（日）～7月27日（日）
前年度は全国32箇所での開催であったが全国46都道府県47箇所で開催。全会場で約4000名を超える父母の方々が参加し、父母同士また大学教職員との交流も図られた。

4 秋季全国 父母教育懇談会

11月22日（土）＠衣笠・BKCの両キャンパス
午前に「学生生活講演会」、「進路就職説明会」を、午後に「学部別懇談会」を実施。両キャンパス合わせて約2100名が参加した。

5 アカデミック京都ウォッチング

11月23日（日）
デイコース10コース、トワイライトコース3コース、特別コース1コースにて実施。デイコース（496名）、トワイライトコース（187名）、特別コース（22名）の総勢705名が参加した。

（2）学生教育支援事業

1 正課等教育支援

①サブゼミアワー 活動支援
サブゼミアワーの活性化に向けて、クラス単位での学部学科の特色を生かした見学会、1回生全員対象の合宿のための交通費や入館料補助等を実施した。
②表彰制度支援
各学部・インスティテュートにおいて正課等で顕著な実績をあげた学生655名を表彰した。

2 課外活動支援

①全学行事支援
応援グッズ作成、全国大会に出場した駅伝や野球の応援バス、学園祭等の補助を行った。
②シャトルバス支援
ＢＫＣ－衣笠キャンパス間のシャトルバスの乗車料の補助を行った。
③地域交流・社会貢献支援
ヨット部のチャレンジヨット、サンクスデー等地域に根ざした取り組みに補助を行った。
④入学式典開催支援
入学式において、学生団体演奏・活動等援助金、出演学生交通費、受付・誘導学生スタッフ交通費の補助を行った。

3 進路就職支援

①就職活動支援
地域別就職合同セミナーの実施、SPI模擬試験受験料補助、PLACEMENT GUIDE、父母キャリアデザインブックの作成補助、CA懇談会、JA懇談会の開催の補助を行った。
②資格試験等 図書支援
進路・就職関係および資格取得図書、低回生からの社会観・労働観を涵養する図書、一般教養や読む力を育成する図書購入の補助を行った。

4 国際交流支援

①留学生支援
留学生の国民健康保険料の補助。申請のあった205名に補助を行った。
②国際交流支援
日本人学生と留学生との交流支援。国際交流バスツアー、立命館スポーツへの応援、留学相談アドバイザー活用等への補助を行った。

5 奨学金支援

①修学援助 奨学金支援
家計支持者の死亡により修学することが困難な学生への援助。
年間39名の出願があり、有資格者39名全員を採用した。
②家計急変 奨学金支援
家計支持者の病気・解雇・倒産等により家計が急変し、修学が困難な学生への援助。
年間179名の出願があり、有資格者87名を採用した。

（3）広報・通信事業

1 父母教育後援会だより（会報）

2008年8月、2009年2月に発行した。

2 『「時間割」と「成績」の見かた』

オープンカレッジ、都道府県父母教育懇談会、秋季全国父母教育懇談会で配布した。

3 キャリアデザインブック

オープンカレッジ、都道府県父母教育懇談会、秋季全国父母教育懇談会で配布した。
（作成：キャリアセンター）

4 Rダイアリー

オープンカレッジ、都道府県父母教育懇談会で配布した。（作成：学生オフィス）

（4）その他

1 その他

①入学記念品として、卓上キャンパスカレンダーを作成した。
②卒業記念品として、光学式マウスを作成した。

■ 2009年度 予算

収入の部

（単位：円）

項 目	09年予算額	説 明
経常収入	361,140,000	
会費収入	360,000,000	（年会費＠10,000円、入会金＠5,000円）
過年度会費収入	0	
卒業生父母資料費収入	250,000	卒業生父母の会
預金利息収入	250,000	
基金積立金利息収入	150,000	
有価証券利息収入	490,000	学園債権利息をもとに計上
雑収入		
前年度繰越金	82,575,947	
収入の部 合計（A）	443,715,947	

支出の部

（単位：円）

項 目	09年予算額
Ⅰ．事業費支出	342,000,000
1．懇談会開催事業支出	94,360,000
2．学生教育支援事業支出	194,850,000
3．会報・学園案内広報事業支出	23,190,000
4．その他事業支出	29,600,000
Ⅱ．管理費支出	39,700,000
Ⅲ．予備費支出	35,015,947
Ⅳ．父母教育後援会基金積立金繰入支出	
支出の部 合計（Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ）（B）	416,715,947
次年度繰越金（A）－（B）	27,000,000

■ 2009年度 事業計画

（1）懇談会事業

1 総会

5月16日（土）＠リーガロイヤルホテル京都
対象：父母教育後援会委員

2 春のオープンカレッジ（名称変更）

5月17日（日）＠衣笠・BKC両キャンパスで開催
対象：父母教育後援会会員

3 都道府県父母教育懇談会（会場数の変更・開催次第の一部変更）

5月31日～7月26日＠各都道府県49会場
（愛知および大阪は文社系と理系で別日程で開催）
概要：全体会終了後に、グループ別懇談会を実施する。
対象：父母教育後援会会員

4 秋のオープンカレッジ（名称変更）

11月21日（土）＠衣笠・BKC両キャンパスで開催
概要：午前「学生生活講演会」「進路・就職講演会」、午後「学部別懇談会」
対象：父母教育後援会会員

5 アカデミック京都ウォッチング

11月22日（日）
対象：父母教育後援会会員、卒業生父母の会会員

（2）学生教育支援事業

1 正課等教育支援

サブゼミアワーの充実、「学びのコミュニティ」の創造にむけての活動に対する支援、正課に関わる分野で著しい成果をおさめた取り組みを対象とした学生の表彰を行う。

2 課外活動支援

全学的な文化・スポーツに対する応援（応援グッズ、応援バス、応援学生派遣等）および父母や市民の共感を得られる行事や学園祭などの全学行事への支援、キャンパス間シャトルバスの運行や乗車料補助等への支援、体育会、学術・学芸団体による地域交流や社会貢献企画、京都歴史巡り等、地域に根ざした取り組みに対する支援、入学式典の企画・運営に参加する学生の活動に対する支援を行う。

3 進路就職支援

就職活動事業に対する支援、進路・就職関係および資格取得の資料、低回生からの社会観・労働観を涵養する資料、一般教養や読む力を育成する資料の購入等の図書購入事業に対する支援を行う。

4 国際交流支援

留学生の国民健康保険料補助への支援、国際交流バスツアー（日帰り、1泊）、スポーツを介した交流（春・夏のスポーツ応援）、外国語が苦手な学生と留学生との交流、留学アドバイザーによる留学支援企画等の国際交流事業に対する支援を行う。

5 奨学金支援

家計支持者の死亡により修学を維持することが経済的に困難な学生の学費等を援助することを目的とした「修学援助奨学金制度」および家計急変により修学を継続することが経済的に困難となった学生の学費・生活費を援助することを目的とした「家計急変奨学金制度」等の奨学金による援助を行う。

（3）広報・通信事業

1. 父母教育後援会だより（会報）の発行：年2回
2. ホームページのリニューアル
3. 『「時間割」と「成績」の見かた』の配布
4. キャリアデザインブック（作成：キャリアセンター）の配布
5. キャンパスカレンダーの配布
6. Rダイアリー（作成：学生オフィス）の配布

（4）特別事業

1 2009年度校友大会と連携した父母企画

9月27日（日）
講演：「日本の将来とひとづくり～ものづくりはひとづくり～（仮題）」
場所：名古屋国際会議場　センチュリーホール
※立命館大学父母教育後援会と立命館大学校友会の共催とする。

2 2010年度3月卒業者対象緊急就職支援

本学セミナー会場を利用した合同企業説明会を現状の月1回から月2回への拡充実施、採用中止・縮減企業が多数を占めている現状より招聘のための求人開拓、説明会時にあわせた集中相談要員の配置をする。

長崎県

都道府県
父母教育
懇談会

全国各地の父母の皆さまに立命館大学の教育や学生支援についてご理解いただくとともに、学生生活や進路状況についてお知らせするため、各都道府県で実施している父母教育懇談会。6月7日（日）には、長崎県で開催。グラバー園、オランダ坂など異国情緒あふれる地域に立つ長崎全日空ホテルグラバーヒルに県内各地から約40名の父母にお集まりいただきました。

全体会

川原直勝長崎県父母委員の司会で始まった全体会。まず立命館大学のキャンパスや学生が学ぶ姿、課外活動などがVTRで放映されました。VTRを通じて川口清史立命館大学総長も父母に向けてあいさつ。「2010年にスポーツ健康科学部を新設するのをはじめ、立命館の新たな変革にご期待ください」と述べました。

大学代表あいさつ

大学を代表して本田豊政策科学部長が登壇し、学生の学びと成長を支える父母に感謝の意を表するとともに、大学の近況を報告しました。特に今年春から近畿圏を中心に猛威をふるっている新型インフルエンザの問題について言及。「本学でも衣笠、BKCの両キャンパスで1名ずつ学生が感染し、やむをえず1週間の休校措置をとりました。しかし幸い2次感染はなく、現在は万全を期しつつ、通常の大学生活を再開しています」と語りました。さらには都道府県懇談会の意義として「学生生活・教育・就職状況について情報を共有する」「ご父母からの率直なご意見やご要望を聞き、大学運営に生かす」「ご父母同士が交流し、子どもへの理解を深める」という3点をあげ、今後も活発な交流への期待を述べました。

来賓ごあいさつ

小林駿介長崎県校友会幹事長が、「私自身OBの一人として、私学の雄となった立命館大学に誇りと確信を深めています」とあいさつし、多くの校友が現在長崎県で活躍していることを紹介。「皆さんのご子弟にも、先輩校友を乗り越えて、世界で活躍してほしい」と、励ましの言葉が続けられました。

総会・オープンカレッジ報告

木下健一郎長崎県父母委員から、去る5月16日、17日に催された父母教育後援会総会、および春のオープンカレッジについて報告されました。総会では、2009年度の父母教育後援会の事業計画が議論され、すべての議案が了承されたことが知らされました。さらに翌日、衣笠、BKC両キャンパスで開催された春のオープンカレッジには、全国から数多くのご父母が参加した様子が語られました。

就職状況報告

学生による就職活動体験談が披露された後、加藤義徳学事課職員が、2009年度の就職状況について説明しました。「ご存じのように、未曽有の不況の影響で、就職状況は厳しいのが現状です。特に筆記試験や最終面接で落とされる学生の多さが目立ちます」と報告しました。一方で、6月以降も7600件以上の求人が大学に寄せられるなど、まだ採用活動は続くことを解説し、大学側も、学生へのアドバイスや説明会の開催など、多方面からサポートしていく計画が明かされました。その他、公務員や難関資格合格者、大学院進学者が増えている現状も語られました。資格取得や進学は、それ自身がキャリアパスではないこと、「そこで何を得るかが大切」だと述べられ、「就職活動で求められるのは、人間力。これだけは負けないというものを身につけてほしい」とアドバイスされました。

履修・学生生活説明

長谷川哲産業社会学部事務長が、キャンパスダイアリーを手に時間割や成績表の確認の仕方や各種制度について説明しました。「言語習得、エクステンションセンターで開催される各講座、インターンシップ、ボランティア活動など、大学生活のすべてが進路選択に結びつきます」とし、主体的に学ぶ姿勢が説かれました。その他TOEICやTOEFL対策講座、海外留学制度、奨学金制度が紹介されたほか、学生生活や心の悩みを受け止める学生サポートルームについて解説されました。

グループ別懇談会

全体会の後は、文社系学部、理系学部に分かれてグループ別懇談会が開催されました。アットホームな雰囲気の中で始まった懇談会では、父母からさまざまな質問が寄せられ、大学職員や就職体験談を語った学生が応じました。就職の現状のほか、大学院進学についてなど多彩な質疑応答が行われ、有意義な懇談会となりました。

就職活動体験談

経営学部 4回生　北島杏奈さん　株式会社ゆうちょ銀行内定

長崎県出身ながら、私は全国に転勤する可能性のある株式会社ゆうちょ銀行に決めました。総合職を希望した時点から転勤を覚悟していたこと、また立命館大学で一人暮らしを経験し、住む場所にこだわりがなくなったことがその理由でした。

当初出版業界を志望していた私は、マスコミ講座を受けるなど、周囲の友達より早期から就職活動に備えてきましたが、次第に関心は出版業界から離れ、就職活動が本格化する4回生の1月頃からは、食品業界に興味を持つように。この頃は、大学の勉強との両立に苦労しました。2月はエントリーシートを出す一方で、企業の説明会に参加する毎日。平均睡眠時間が3時間しか確保できないなど疲労困憊しました。3月頃からは面接が始まります。この時期に必要なのは、企業の取捨選択をすることです。面接が同じ日に重なることがあり、自分がどんな企業に行きたいのか、改めて考える機会となりました。転機になったのは、金融業界の説明会に参加したこと。誇りを持って働いている魅力的な人に数多く出会い、銀行への就職を決意しました。

就職活動を振り返ると、やはり今年は厳しかったと実感します。エントリーシート提出段階や筆記試験で落とされる頻度も高く、昨年就職活動を経験した先輩のアドバイスが参考にならないことも。何より大きかったのは、自分自身の志望が刻々と変わったことです。けれど自己分析や就職活動を通して志望が変わったり、新たな適性に気づくことは決して珍しいことではありません。大切なのは、自分が本当に行きたい進路を見つけることなのです。

また経済的、精神的に大きな支えとなるのが親の存在です。ここにご参加のご父母の方々も、どうか厳しい現実に直面するお子さんを温かく見守ってほしいと思います。

■お集まりいただきました父母の方々の声

Parent's Voice

橋本さんご夫妻
法学部 1回生

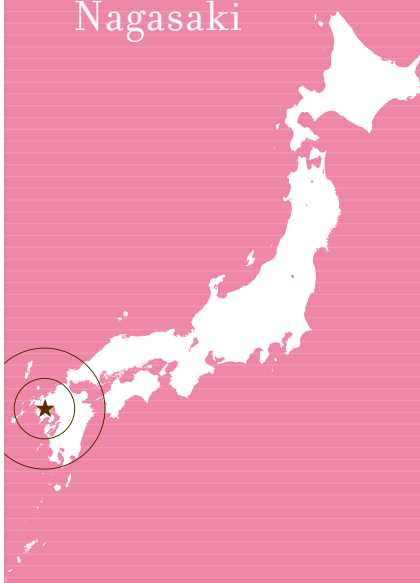
娘はこの春入学したばかり。時間割の見方など親も分からないことが多く、参加しました。高校時代、柔道をしていた娘は、大学でも勉強と両立しながら柔道を続けています。同じアパートに住む同じ大学の友達もできた様子で、安心しています。大学では幅広く勉強してほしい。今日はエクステンション講座などさまざまなプログラムについて聞けたことが参考になりました。

Parent's Voice

小柳さん
文学部 3回生

進路選択を前にした息子にどんなサポートをしてやれるのかを知りたくて、参加しました。大学で哲学を専攻し、学ぶおもしろさに目覚めた息子は、大学院進学を希望している様子です。子どもの夢を大切にしてやりたいと思いつつ、就職の厳しさも改めて実感しました。今日うかがったことを参考に、きちんと向き合い、具体的に話し合おうと思いました。

Social gathering in Nagasaki



東京都

都道府県
父母教育
懇談会

7月4日（土）、東京都で都道府県父母教育懇談会が開かれました。会場は、都心のビジネス、産業の起点として発展を続ける品川駅にほど近いグランドプリンスホテル高輪。約120名の父母にご出席いただき、賑やかな会となりました。

全体会

松野真弓東京都父母委員が司会を務め、全体会が始まりました。まず立命館大学放送局（RBC）が制作したVTRで大学生活を紹介。その中では、川口清史立命館総長・立命館大学長が「2008年に開設した映像学部、生命科学部、薬学部、さらに2010年に新設予定のスポーツ健康科学部といった学問分野が、立命館に新風を吹き込みます」とメッセージを伝える一幕もありました。

大学代表あいさつ

石井秀則教学部長・理工学部教授が大学を代表してあいさつしました。全国型の総合大学である立命館大学には、多様な学生が集い、互いの違いを理解し合いながら共に学び、成長しています。加えて近年は、地域や国際社会から学ぶことを重視。「留学プログラムなど海外に出て自らの殻を打ち破る機会を提供しているほか、地域の人々と一緒に地域の問題を考え、解決のために行動する『サービスラーニング』プログラムも用意しています」と述べました。合わせて立命館大学が、文部科学省より平成21年度「国際化拠点整備事業（グローバル30）」に採択されたことも報告。「今後はキャンパス内でも国際的な学びを得られる環境を整えていきたい」と抱負を語りました。

来賓ごあいさつ

仲宗根宋督東京校友会副会長が登壇。東京校友会には、清武英利読売巨人軍球団代表や、住野公一（株）オートバックスセブン相談役（前代表取締役CEO）をはじめ、各界のトップで活躍する精鋭が多数いることを紹介。西園寺公望の座右の銘であった「学びてしかる後足らざるを知る」という言葉をあげ、「現役学生にもそのスピリットを受け継いでほしいと願っています。またそれをサポートするOBが社会の各界にいることを忘れないでください」と大学で学ぶ後輩たちにエールを送りました。

総会・オープンカレッジ報告

去る5月16、17日に開催された父母教育後援会総会とオープンカレッジについて、永井勇東京都父母委員が報告しました。総会では、2009年度の父母教育後援会の事業計画が議論され、滞りなく了承されたこと、また衣笠、BKCの両キャンパスで開催されたオープンカレッジの様子などが語られました。

就職状況報告

父母の関心を最も集めた就職については、まず就職活動を終えた学生が、体験談を報告。その後、浅野昭人キャリアセンター次長が2009年度の就職状況について述べました。「世界的な不況の影響で、求人総数は昨年より約22万人減少、求人倍率も1.62倍と昨年度を下回るなど、採用の圧縮が進んでいるのが実情です。特にエントリーシートや筆記試験などで多数の受験者を振り落とす傾向が見られます」と解説。その上で「将来のビジョンを明確にし、それを実現し得る能力を培ってほしい。特別な活動をする必要はありません。学業や課外活動、アルバイトなど学生生活を全力で駆け抜け、それを通して成長したことを企業にアピールすることが重要なのです」と語りました。キャリアセンターでも今年の状況に合わせた支援プログラムを用意したり、4月以降に1万社を超える企業に求人を問い合わせるなど学生の就職をサポートする体制を整えていることが説明されました。

履修・学生生活説明

濱崎義朗経営学部事務室職員が、1年間の学習の流れや時間割、成績表の見方などを説明しました。父母には分かりにくい正課の学びの仕組みが明かされました。

グループ別懇談会

グループ別懇談会は、法学、経済、経営、政策科学の各学部、産業社会、国際関係、文学、映像の各学部、その他理工、情報理工、生命科学、薬学といった理系学部の3つに分かれて催されました。それぞれの分野、学部の特徴に応じて説明がなされたほか、父母からもさまざまな質問が出されました。父母と大学、また父母同士が情報を交換し合う良い機会となりました。

就職活動体験談

産業社会学部 4回生
山岡 桃さん　アメリカンホーム保険会社内定

就職活動は、体力的、精神的、また金銭的にも「本当にしんどかった」というのが感想です。特に今年は、どの企業も例年に比べて採用人数を絞ったため、受験資格となる説明会を予約するのにも大変な倍率。応募すらできないことも多く、それが辛かったです。

私は金融業界を中心に就職活動を行いました。学生時代は西園寺奨学金を得るなど学業に一生懸命打ち込みながら、アメリカンフットボール部の広報を担当するなどさまざまな課外活動にも挑戦。自己アピールには自信があったのですが、実際には厳しい現実にぶつかりました。1日に数社から不採用通知が届き、落ち込んだことも。そんな時、支えになったのは、同じく就職活動をする友達や家族でした。友達や両親と話をすることで、自分の強みを再発見したり、くじけそうな心を立て直すことができました。結果「自分に一番合っている」と思える企業から内定を得ることができました。

理工学研究科博士課程前期課程 2回生
作井孝至さん　トヨタ自動車株式会社内定

就職への意識が高まったのは、修士1回生の春にトヨタ自動車でのインターンシップに参加した時から。その後、同じ研究室の先輩から話を聞くなど早い段階から就職活動に備えていました。本格化する説明会やOB訪問の秋頃は、業界を絞らず、さまざまな企業を見て自分の関心を確かめることを重視。その中で自動車業界への志望の意を固くしました。

一般受験のほか、第一志望の企業は学校推薦で受けることに。学校推薦といっても高い競争率を突破しなくてはならないのは、一般受験と同様です。面接では、具体的な経験談を交えて志望動機や研究内容を語るよう心がけました。研究活動だけでなく、バンド活動などの課外活動を通じて多くの人と交流できたことが、採用試験でも評価されたと感じています。志望企業を決める際には、両親に相談しました。社会人として意見してくれたことに感謝しています。

■お集まりいただきました父母の方々の声

Parent's Voice

金光さんご夫妻
経済学部 1回生

4月に息子の入学式に参加。立命館大学の活気を肌で感じ、素晴らしい大学だと感心しました。息子はラクロス部に入部し、真っ黒に日焼けしながら頑張っている様子です。4年間、さまざまなことに挑戦し、ワクワクしたり、感動したりしながら成長してほしい。それを実現できる環境が整っていることを、今日参加して改めて実感しました。

Parent's Voice

本橋さんご夫妻
生命科学部 2回生

男の子だけになかなか詳しく話を聞かせてくれず、どんな大学生活を送っているのか知りたくて参加しました。お話を聞いて、大学全体が学生の成長を促し、高い能力と自信を与えてくれていると分かりました。全国からさまざまな学生が集まる大学で、多様な価値観にふれながら、どんな風に成長してくれるのか、楽しみです。

Social gathering in Tokyo

RITSUMEIKAN CAMPUS LANDSCAPE

新年度がスタートし、キャンパスは多くの学生たちで活気づいています。入学式での新入生の緊張した面持ち、そんな新入生を新歓祭典であたたかく迎える先輩学生、日々勉学やクラブ活動にいそしむ学生…。春から初夏にかけてのキャンパスと学生たちの様子をご覧ください。

入学式

新歓祭典

スプリング フェスティバル

衣笠キャンパスにて

びわこ・くさつ キャンパスにて

授業風景

連載 立命館のゼミナール訪問③

衣笠 春日井ゼミ（文学部）

春日井ゼミ 文学部教育人間学専攻 春日井敏之教授　**研究テーマ：臨床教育学の視点から学校教育の課題に迫る**

春日井ゼミでは臨床教育の観点から、教育にまつわる様々な課題に迫る研究が展開されるなど、「生きた教育現場」を意識したゼミが繰り広げられています。春日井教授のお話をうかがい、学生にゼミを紹介してもらいました。

ゼミ紹介

臨床教育学の視点から教育課題の本質と解決に迫る

文学部 4回生 **白波瀬李花** さん

春日井教授は23年間の中学校教諭経験をもとに、いじめや不登校など教育現場における様々な課題を研究され、また教育現場で起きる問題への予防的アプローチとして、ピア・サポートや学校カウンセリングといった教育支援のあり方、そして支援ネットワークづくりについて研究されています。

3回生では、前期に文献講読、後期に関心の高いテーマについてのグループ研究・報告を行いました。また、春には仁和寺へのお花見、冬には研修旅行の一環として東京の和光中学・高等学校の教育研究集会に参加し、授業見学や分科会討論を経験したほか、日光東照宮や奥日光の散策をするなど、ゼミ生同士の交流と理解が深まりました。4回生では卒業論文に向けて、関連する文献研究や自身のフィールド体験に基づく研究、さらに合宿研修での報告、論議などを行っています。

4回生のゼミ生は14名で、教員を目指している人、一般企業への就職や大学院進学を考えている人など様々です。ゼミ生の研究内容は学力問題、少年犯罪、自己肯定感、コーチング、障害のある子どものきょうだいに対する支援、日米の学校教育の比較研究、教育現場における「聴く」ことの意味、幼児の遊びと発達、中学校における外国人生徒への支援…など多岐にわたり、幅広く自由に取り組めます。自分の体験やサークル、ボランティア活動などそれぞれの研究に対してバックボーンを持つゼミ生も多く、自分なりの問題意識を持って課題と向き合っています。

春日井ゼミには、何を言ってもみんなが受け入れてくれるという安心感があると思います。そして、春日井教授は、時に方向性を見失いそうな私たちに鋭い指摘や示唆に富んだ助言をしてくださいます。私たちのゼミは「教育」をベースとして、人間と教育をめぐる様々な問題を多面的に捉え、考えることができる場です。この自由な雰囲気を尊重しつつ、これからもそれぞれが問題意識を持って教育現場をみつめ、学んだことを社会に活かしていきたいです。

春日井教授の指摘や助言により、学生の新たな気づきや発見が生まれています。

意見を受け止める安心感が築かれたゼミでは、活発な意見交換が繰り広げられています。

Interview

教育現場とリンクした実践的研究を

私は臨床教育学の視点から、「思春期の人格発達と支援関係」「学校教育相談と開発的カウンセリング」「教師の自己形成・自己変容プロセス」などを研究しています。23年間の公立中学校教員の経験があり、ゼミでは、こうした教育実践の経験を活かし、教育や対人援助の現場とつながりのある実践的研究を意識しています。現在も附属中高校を含め、毎月四カ所で先生方と事例検討会などを行っています。

このゼミの特徴は3回生の「学校訪問研修」など、教育現場にふれる機会が多いことです。研修は毎年秋に2泊3日で、小中高校を訪問する企画ですが、これまで北海道・沖縄・東京など、全国各地の学校を訪問しています。学校や教師の特色や課題は多種多様で、地域や教師の年代によっても異なります。ゼミ生は授業見学や研究会、教師との懇談といった“生きた教育現場”での学びと意見交換などを通じて、大きな刺激を受けています。人との出会いは、人生の財産になります。

また、この研修はゼミ生同士の絆を深める場にもなっており、夜の宿舎ではざっくばらんに自分を語り合う時間を設けるなど、毎年、ゼミ生同士が人間関係を深めるきっかけになっています。

大学の内外に出会いと学びのフィールドを

3回生時に各自が研究テーマを設定し、卒業論文の約半分を目安に「3回生論文」を書きます。そして、4回生でさらに研究や実践を深め、卒論に取りかかります。途中でテーマを変更する学生もいますが、そこに葛藤しながら成長する姿があります。

このように、学生たちは概してまじめです。一方で、あれもこれもと頑張り、疲れている姿も見られます。大学生活は高校生活の延長ではなく、今までの自分の枠を解体し、何か一つのことにこだわってほしいものです。自分とじっくり向き合い、出会いの中で、自己を再編してもらいたいのです。

進路では、教員を目指す学生が半数程度を占め、ほかに民間企業、公務員、大学院などの進路を選択しています。私のゼミでは3、4回生ともに、サークル活動やボランティアなど、課外活動に熱心な学生が多くいます。大学の内外を問わず、出会いと学びの場所は多くあり、希望するゼミ生には「実践フィールド」の紹介などもしています。そうした主体的な経験は、就職や進学など、人生の節目でも必ず活きてきます。

ゼミナールは学生同士をつなげる居場所

私の人生のキーワードは「つながりの実感」。子どもをはじめ、教員や保護者といった、日々の生活の中での様々な人とのつながりを大切にしてきました。ゼミナールとは「学生同士をつなげる居場所」でもあると思います。次世代を担う学生同士が、出会いと学びを通してつながり、お互いが励みになり、意味のある関係を築くことを大切にしたいものです。

また、次世代の教員の育成を自身の役割の一つと考えています。「いじめ」「不登校」「荒れ」などの問題に直接関わってきたからこそ、伝えられることがあります。学生には、現状の教育問題の本質や背景について考えながら、「子どもについての何故を自らに問う」姿勢を身につけてくれることを期待しています。

Student's Voice

ゼミ通じて強くなった教員になる夢

文学部 4回生
佐分美智子 さん

2回生の春日井教授の授業で「他者との関わりの中で自分を受け入れていく」というグループワークを体験したことが、春日井ゼミを選んだきっかけです。授業での学びを子どもの「自己肯定感」の向上に活かしたいと思いました。4月までは企業就職を希望し、内定もいただきましたが、あらためて将来について考え、そして春日井教授や職員の方のお話を聞く中で「やはり教員になりたい」と強く思いました。将来は小学校教員になって、子どもが自分や周りのことを受け入れられる環境づくりに力を入れたいです。

ゼミ生との意見交換が刺激

文学部 4回生
瀬嶋里奈 さん

私は中学校教員を目指しています。教員経験をお持ちの春日井教授のもとで、学校教育について視野を広げたいと思い、このゼミを選びました。ボランティアや部活動、サークルなど様々な経験をしているゼミ生たちと意見を交わすことは、私にとって大きな刺激で、楽しみの一つです。私の卒業研究テーマは「学校現場における聴くことの必要性」です。先日の中間報告ではゼミ生たちから率直な意見やアドバイスをもらい、さらに良い研究になる確信をしました。この研究やゼミで学んだことを生かし、温かい教師になりたいです。

Schedule<予定>

●3回生

2009.4	文献研究
2009.8	グループ毎のテーマ研究
2009.11～	3回生論文テーマ設定、作成
2009.11	学校訪問研修（2泊3日）
2010.2	3回生論文完成

●4回生

2009.4～	3回生論文発表
2009.10	卒論個別指導
2009.11	卒論中間発表合宿（1泊2日）
2010.1	卒論発表

編集後記

春日井教授らが京都府内で立ち上げた「不登校の親の会」が今年で19年目を迎えた。「親の会」で築いた父母との対等な人間関係が、今の自身の土台になっているという。今年4月、他大学から編入した学生が3回生ゼミに加わった。このように、他の専攻などから春日井ゼミに移る学生も少なくないという。丁寧な人付き合い、そしてつながり。多くの人々の“出会いと学びの場”として、春日井ゼミの門戸はいつも開放されている。

連載 立命館のゼミナール訪問④

BKC 八村ゼミ（情報理工学部）

八村ゼミ 情報理工学部メディア情報学科 八村広三郎教授　研究室名：画像システム研究室

八村ゼミでは人文科学と情報科学を融合した「人文情報学」をテーマに画像処理やCG、バーチャルリアリティーなどの可能性を追求しています。ゼミを取材し、八村教授にお話をうかがいました。

授業風景

画像処理がもたらす希望が詰まった研究室

学生17人をはじめ、大学院生を含む計24人が「情報科学」と「文化情報」を融合した「人文情報学」をテーマに、画像処理やCG、バーチャルリアリティーなどに関する研究に打ち込んでいます。3回生の後期から研究室に所属し、大学院生たち先輩の研究や八村教授の助言を参考にしながら、自身のテーマを設定します。

八村研究室は活気で溢れています。研究に関するプレゼンテーションでは学生、大学院生、留学生、教員が教室に集まり、その数は30人近くに上ります。発表後は質問やアドバイスの一方で、時には厳しい指摘もあり、学生はこうした環境でもまれながら成長しています。

研究テーマとして多くの学生が選択するのが絵画などの有形文化財や、歌舞伎などの無形文化財の"動き"をデジタル化して保存する「デジタルアーカイブ」の研究です。

有形文化財のデジタルアーカイブでは、浮世絵などの絵画を対象に多面的な研究が見られます。研究室では「浮世絵」の落款（書画の署名）を自動判定するシステムの構築に挑戦する卒研生など、それぞれが新たな発見に向けて奮闘しています。この研究は、昔の絵師の特定につながるほか、各絵師の年齢による字体の変化に対応できれば、描かれた年代が不明な絵の制作年を特定する可能性も秘めています。

また、無形文化財のデジタルアーカイブでは「モーションキャプチャ」という、現実の人物の動きをデジタルデータとして記録する技術を用います。実験では演じる人が特殊なボディースーツを着用し、体の数十ケ所にマーカーを付けて動き、若者のダンスや日本舞踊などの三次元の動作を計測し、データを取得します。この研究では、人間とCGの演者がダンスで共演するといった「仮想コラボレーション」の実現をめざし、そして古典芸能の“動き”の継承に役立つものとして、周囲の期待を背負っています。

近年、著しくコンピュータが発達しているとはいえ、画像処理の分野はまだまだ未発見領域が多いようです。八村教授が「文字は読めるが、浮世絵の魅力までは解析できない。そういった『感性』の解読など、チャレンジすることは多い」と話すように、大きな希望が詰まった研究室で学生は日々、目標に向けてパソコンと向き合っています。

学生は日々、パソコンと向き合っています。

プレゼンテーションの様子。

発表後は活発な意見交換が繰り広げられています。

Interview

文化のデジタル化から継承、そして発展へ

現代社会ではコンピュータを用いた「生活感の向上」への意識が高まり、それに伴って企業のコンピュータの用途についても変化が見られます。生産現場などで重視していた「効率」から、美しさや楽しさなどの付加要素を追求する流れへとシフトし始めました。

私の研究室では、こうした時代背景にマッチする「デジタルアーカイブ」の研究を中心に取り組んでいます。デジタル化したデータを単に保存するだけでなく、それを解析し、広く世界に発信するために日々、研究しています。

芸術分野に明るいエンジニアが人気

理系学生の就職市場は、芸術分野に明るいエンジニアを求める傾向が高くなっています。こうした背景から、この研究室で扱うテーマは学生のモチベーションの向上につながっていると思います。私のゼミの学生は七割が就職、三割が大学院に進みます。学生には、自身が選んだ研究室について説明できるよう忠告しています。それさえしっかり言えれば、面接も怖くないでしょう。

研究室では大学院生の発表を聞くなどしながら4回生の序盤に卒業研究のテーマを決めます。この時期から研究室内でのコンピュータのプログラミング実習も始まり、さらに就職活動も加わるなど、4回生前半は特に多忙となりますが、どんな状況であれ、ルールは守らなくてはなりません。"真似事"でも学術研究をやっているわけですから、それを意識して発表や資料作成に取り組んでほしいです。

情報処理から感性の"謎"に迫る

立命館大学では「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ（DH）拠点」というプログラムが、グローバルCOE（文科省の研究拠点形成等補助金事業）に採択されており、私はこの研究プロジェクトのサブリーダーと、この中の「デジタルアーカイブ技術研究班」のリーダーを務めています。人文系と情報系が融合したこのプログラムは、これまでの人文科学の研究を変えるチャンスだと思っています。

この研究室ではプログラムにかかわる教員たちが頻繁にゼミに顔を出し、教室は活気づいています。こうした機会が多いことも学生の学びに大きな影響をもたらしていると思います。

また、ゼミでは合宿や飲み会、鍋パーティーなどを学生や研究生が積極的に企画しており、毎回楽しみにしています。合宿は卒研の中間発表の後、バーベキューやドライブといったリフレッシュ企画もあり、いつも盛り上がっています。授業外の学生との付き合いは、色々なことを話せるひとときで、大切にしたいですね。

文化とIT融合の可能性に魅力

情報理工学部 4回生
上野恵 さん

私は文化や歴史に興味があり、IT を通してそれらに関わることのできる研究をしてみたいと考え、この研究室を選びました。日本文化である「浮世絵」や「能」の知識を習得しながら画像処理の技術を身につけるといった、その可能性にとても魅力を感じています。また、この研究室は八村教授だけでなく、他にも指導してくださる先生がおられるので、有意義に研究できるという点にも魅力を感じました。内定したメーカーでは、研究室で身につけた画像処理の技術や知識を、社会に役立てていきたいです。

「自ら考える」ゼミは有意義な時間

情報理工学部 4回生
大西啓太郎 さん

これから社会に出て働く中で、微力ながらも社会に影響を与える者の責任として必要なことは、その研究の意味や、実現するためのプロセスを具体的に示すことです。これまでの授業では大勢の学生とともに、良くも悪くも受動的に知識を得てきたように思います。しかしゼミでは、自分たちが学んできたことを基に自ら問題を見つけ、研究テーマを考え、目標を決めるといった「自ら考えること」を念頭に置いています。そういった環境で学ぶことができるゼミは有意義な時間です。

Schedule<予定>

2008.12	研究テーマの選択
2009.4	プログラミングの実習
	自己紹介プレゼン
2009.5	研究テーマ所信表明
2009.8	夏合宿（1泊2日）
	卒業研究の中間発表（1）
2009.12	卒業研究の中間発表（2）
	忘年会
2010.1	卒業研究の発表練習
2010.2	卒業研究発表

編集後記

険しい表情で学生の発表を聴いている。将来、誰もが直面するであろう社会の厳しさにいち早く順応できるようにと、養成期間である学生時代は厳しく指導、たくましさを要求する。その指導を受け、学生に自信が備わっていく。八村教授は医学や人文系の領域における画像解析など、これまでずっと「夢」とともに研究を続けてきた。併せて今、教育者として、社会の豊かさに貢献できる学生を一人でも多く育てたいという夢も持っている。

海外留学について

About Study Abroad

現代社会は、情報やモノだけでなく、ヒトも国境を越えて頻繁に行き来する時代。そんな社会でリーダーとして活躍するには、高度な国際性が不可欠です。立命館大学では、教育・研究の「国際化」を重要課題の一つと位置づけ、さまざまな国際教育プログラムを開発、提供しています。なかでも海外留学制度は、種類、規模ともに全国の大学でも屈指の充実ぶりを誇ります。多くの学生が海外での生活や学びを通して成長を遂げ、その後の学生生活や進路において大きな飛躍を遂げています。そんな立命館大学の多彩な海外留学制度をご紹介します。

立命館大学でできる海外留学の種類

立命館大学在学中に可能な留学の形態には以下のものがあります。

在学留学	本学に在学しながら留学することを指します。 長期留学の場合も留学期間は在学期間に算入されるので、4年間での卒業が可能です。 ただし、留学年次、留学時期、各自の単位取得状況によっては4年間で卒業できない場合もあります。
休学留学	その名のとおり休学をして留学する制度。休学期間は在学期間に算入されませんので4年間での卒業はできません。また、留学中に取得した単位の単位認定を本学に願い出ることもできません。

立命館大学主催	全学募集プログラム	全学部の学生を対象に実施されるプログラム。所属学部・回生等により、参加条件が限定されている場合があります。
	学部・教学機関独自の留学プログラム	各学部・教学機関が主催するプログラム。所属学部・回生等により、参加条件が限定されている場合があります。
個人手配	個別合意※に基づく留学	個人が自ら選択・出願し、入学が許可された大学に留学する場合。本人の申請に基づいて本学が留学と認定した場合をいいます。

※個別合意とは本学と先方の大学との合意

留学向けてのプランイメージ

学部での4年間という限られた学生生活のなかで「留学」を目指す場合は、留学についてだけでなく、4年間の学生生活のプランをしっかり立てることが必要です。ここでは、入学から留学準備、帰国までのおおまかな流れを示しています。

step 01 日々の学習 ▶ step 02 留学に向けての学習 ▶ step 03 留学への情報収集 ▶ step 04 プログラム選び ▶ step 05 出願・選考 ▶ step 06 準備 ▶ step 07 留学 ▶ step 08 振り返り

Student's Voice

人に流されず、“自分”を持つことの大切さに気づいた。

理工学部 河津 拓さん（参加時3回生）

1セメスター留学　アメリカ合衆国・ワシントン州／ワシントン大学

Q：留学の動機

僕は小学生の頃から吹き替えの海外ドラマをよく見ていて、彼らの楽しげな雰囲気に自分も入り込みたいと思っていました。また、町で道に迷っている外国人を見かけて、話しかけたことが何度かあったのですが、いざ実行してみるとうまく言葉が出てきません。もっとスムーズに英語が話せればいいなとそのたびに思いました。こうした経験から留学に行きたいという気持ちをずっと抱いてきました。ただ、留学に行くなら、3ヶ月以上の長期プログラムに参加したかったので、その間立命館大学での授業が受けられず、卒業に影響するため、なかなか申込みすることができませんでした。3回生になって、卒業に必要な単位を取ったのでついに留学に行こうと決心しました。期間が長いこと、平和学に以前から興味を持っていたことから、1セメスター留学のワシントン大学「平和学」プログラムへの参加を決めました。

Q：滞在中の授業や生活の様子

平和学の講義では、世界の紛争について紛争の原因を個人レベルやグループレベルといったレベル別に分けて紛争を考える授業と、アメリカの黒人差別の歴史を学び、どのように彼らが扱われ、また立ち上がってきたかを学びました。また、この二つの授業の復習や疑問に思うことを聞けるようにサポートクラスがあり、このサポートクラスのおかげで講義の内容が理解でき、授業についていくことができました。向こうの大学での授業はもちろんすべて英語なので初めの一ヶ月半は聞き取るのに苦労しました。また、聞き取って書き取るという作業はとても難しかったです。向こうの学生はまじめな学生が多く、図書館に行くといつでも学生が勉強していました。先生も熱心で、授業で先生の話を聞いていると先生の授業に対する熱意が伝わってきます。通学はバスを利用しましたが、バスは時間どおり来ることは少なく、30分待ちも当たり前でした。時間どおりに到着する日本の電車のすばらしさを実感しました。

できるだけアクティブに過ごしたしたかったので、休日も積極的に外出するようにしました。ホストファミリーや友人と一緒に出かけることもありましたが、一人でもいろいろなところに出かけました。こうした現地での生活全体を通じて感じたのは、生活が時間にせかされずゆったりしているということです。向こうの人たちはゆっくりと喫茶店でコーヒーを飲みながら話をしたり、勉強したりと落ち着いていました。

Q：現地での交流の状況

留学中は現地の人によく話しかけられました。バスを待っているとき、バスに乗っているとき、道端で歩いているときなど、あいさつから入って、「どこに行くの？」「どこから来たの？」など気楽に話しかけてくれます。通学中こうした会話を何度か交わすうちに、自然に親しくなり友達もできました。また、大学内のサークルにも参加していたので、そこで出会った人たちとも仲良くなりました。

Q：留学を通じて身についたこと・印象に残っている体験など

大学では日本に興味を持っている現地の学生と英語を学んでいる日本人の交流を目的とするサークルに参加しました。週に1回は集まって英語と日本語で日本についての話をしました。現地の学生が日本のことをどう見ているかを知ることができたばかりではなく、自分自身が日本について考えるよい機会となりました。なかでも最も印象に残っているのは、サークルのハロウィンパーティーです。サークルのメンバーはみな仮装してパーティーに参加しました。街中も仮装した人で溢れていたのが印象的でした。

Q：留学に行ってよかったと思われること

完璧ではないけれど日常会話程度なら英語を話せるようになりました。以前よりもスーッと頭に英語が浮かぶようになり、話すときに間が空かなくなりました。また、知らない人とよく話したので初対面の人でも話しやすくなりました。向こうでたくさんの人に出会い、いろんな人の考えを知り、いろんなこと学び、自分の中での考え方が少し変わった気がします。やりたいことをやり、自分の意見を持っている人に多く出会い、僕もあまり人に流されず、自分を持とうという意識が出てきました。

Q：後輩へのメッセージ・アドバイス

留学するということはとても大きなことと思いますが、それほど大きく考える必要はないと思います。僕も最初はそう思っていましたが、ただ向こうで生活するだけです。思い切って行ってしまえば誰でも行けることだと思います。その思い切りで得ることはたくさんあります。人からいろいろ話を聞きますが、やはり行ってみないとわからないことが多いです。自分で体験し、実感することが一番です。

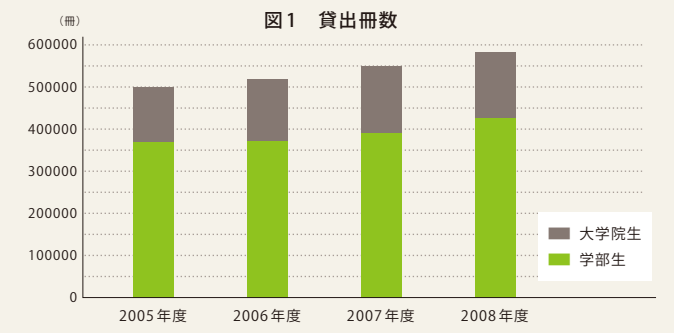
Library Navigator

図書館だより

立命館大学図書館の状況

本学には3キャンパスに6つの図書館があり、年間延べ260万人以上が利用しています。蔵書冊数は280万冊以上（立命館アジア太平洋大学含む）であり、全国の主要私立大学でもトップレベルです。

大学図書館の主な役割のひとつは、学生の「自主的、自立的な学習の意欲を引き出す」ことです。大学への進学率が50%を超え、学生が多様化する中で、本学図書館は、利用者教育の充実、レファレンスサービスの強化、蔵書冊数の増加、開館日数の増加、開館時間の延長等、学生の「自主的、自立的な学習の意欲を引き出す」さまざまな取り組みをおこなってきました。その結果入館者数・図書貸出冊数は順調に増加しており、学部生、大学院生が2008年度に借りた図書の合計冊数は578,784冊にのぼります。貸出総冊数を経年で比較すると、2005年度に比べ2008年度は1.15倍と増加しています。（図1）



図書館の教学サポート

▸図書館リテラシー教育

本学へ入学した学生の皆さんが「大学での学び」を深めるための一助として、本学図書館では図書館リテラシー教育を行っています。

図書館は学生にとって「学習の場」であり、「知的に元気になる場」です。単に閲覧室で本を読み、借りて返すだけでは学力を深め知的関心を広げることにはつながりません。膨大な資料の中、どれが自分の学習素材としてふさわしいのかを見つけ関連する図書へと対象領域を発展させることや、データベースの活用、多様な情報ソースからふさわしい情報を引き出す力を身につけることの教育を行っています。

授業や図書館開催のガイダンスなどを通じて、学生のみなさんにリテラシー教育を行うことで、大学でのレポート・論文作成のみならず、実社会において求められる「必要な時に必要な情報を効果的・効率的に探し出し、使うことが出来る能力」を有する人材となることを目的としています。

授業後に実施するアンケートでは、講義の内容に対して「大いに満足」「満足」が合計で80%以上の学部もあるなど、総じてどの学部でも授業内容に理解を得られていることが明らかになっています。

2009年度内には、インターネット上で利用できるリテラシー教育のページ（Ritsumeikan Academic Information Literacy 通称：RAIL）を運用開始予定です。このサービスが開始することにより、学生のみなさんは場所・時間を問わず、自己学習を進めることが出来ます。

今後も図書館では積極的にリテラシー教育を行い、本学学生の皆さんが高度な情報運用能力を身につけるためのサポートを行っていきます。

▸授業で使用する図書の蔵書検索サービス

本学では、授業を担当する教員がWEB上の「オンラインシラバス」で各学部の授業で使用する参考書を指定しています。本学図書館では指定の参考書を全て購入し、学生の利用に供してきました。

2009年度4月からはオンラインシラバスから図書館の蔵書検索システム（名称：RUNNERS）へリンクするシステムがスタートしました。学生のみなさんがオンラインシラバスで指定されている参考書名をクリックすれば、図書館での所在がわかり、より利用しやすくなっています。教科書のみならず参考書も積極的に活用することで、学習を深めていくことを期待しています。

進路就職コーナー、読楽（どくがく）コーナー

本学図書館では、各学部の講義や授業に関する学術資料が中心のため、学生のニーズの高い進路就職や資格取得関係の実用書は、父母教育後援会のご支援により成り立っています。2004年度より衣笠図書館、BKCメディアライブラリー・メディアセンターにコーナーを開設して以来、図書館の常設コーナーとして、学生に広く認知されています。6年目を迎えた現在では、年々学部生の利用が増加し、図書館内で最も利用されているコーナーとなりました。学生から一層の資料の充実と継続への強い要望が寄せられています。

「進路就職コーナー」では、就職活動に直面する3～4回生はもとより、自分の将来や就職について関心が高まっている1～2回生も利用できる資料を収集しています。2008年度からは、資格試験や3・4回生が主に利用する進路就職関係の資料だけではなく、「働くということ」を考える資料や、各学部の教学内容や進路就職にふさわしい分野の資料を提供しています。

また、2009年度からは、大学時代に読書習慣を定着させ、「読む力」「考える力」「書く力」を培うため、活字に親しむための図書（小説・エッセイ・評論など）を集めた「読楽（どくがく）コーナーのご支援をいただいております。このコーナーでは、芥川賞や直木賞などの文学賞受賞作品、一般書店売上上位の文芸書や教養書などを提供しています。

今後は、「進路就職コーナー」「読楽コーナー」を通じ、学生の就職活動に必要な図書の支援はもちろん、社会人として活躍していくための基礎力養成に向けた支援を進めていきます。今後ともご支援のほど宜しくお願いいたします。

学生ライブラリースタッフの紹介

利用者が返却した資料を書棚に戻したり、書棚を整理したりと図書館業務に携わるライブラリースタッフ。より多くの学生に図書館を利用してもらうため、さまざまな広報活動や、サービス向上のための提案なども行います。

Library Staff

衣笠キャンパス
学生ライブラリースタッフ
文学部3回生

濵田雅代さん

返却された資料の配架や書架の整理のほか、ポスター制作など、図書館により親しんでもらうようさまざまな活動に携わっています。図書館ではいつも、身近な存在として利用者の役に立てるよう心がけています。また私は、学生に図書館について説明するガイダンスの講師も担当しています。最初は人前で話すたびに緊張したけれど、最近はずいぶん慣れ、聞いている人により分かりやすく伝える方法を工夫するなど、話すことにおもしろさを感じるようになってきました。「こうすればもっと利用しやすいだろうな」「ここにこれがあればいいのにな」など、図書館をより良くするために考え、それを提案する機会もあります。図書館を利用する学生の皆さんにも、時にはそうした視点で図書館を眺めてほしい。きっと新たな発見があるに違いありません。

Library Staff

びわこ・くさつキャンパス
学生ライブラリースタッフ
情報理工学部4回生

出口明広さん

利用者から見ればライブラリースタッフも図書館職員の一人。図書館職員の1人として、しっかり自覚し、資料を配架する際には誤った場所に入れないよう何度も確かめたり、返却台に戻された資料はなるべく早く元の棚に戻したりと、責任を持って作業することを心がけています。ライブラリースタッフになって、資料や図書館に対する視野が大きく広がりました。たとえば月1度、ライブラリースタッフが集まってミーティングを実施。利用者が使いやすいよう図書館をどう変えていくべきかについて、皆で意見を交換します。思いもよらなかった改善点や課題が提案され、図書館の見方が変わることも少なくありません。こうした取り組みから更にサービスの充実につなげていきたいと思っています。

Information

父母教育後援会会員の皆様へ図書館利用ご案内

父母教育後援会会員の方には無料でライブラリーカードが発行され、図書館の利用が可能です（貸出含む）。最寄の図書館カウンターまでお越しください。詳細は図書館ホームページ内の「利用案内」をご覧ください。

立命館大学図書館ホームページ

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/lib/index.html

Ritsumeikan ★★★ Campus Life Report

輝き、成長する大学生活

課外活動に打ち込む原動力は、楽しむ気持ち!

衣笠 映像学部 映像学科 2回生　静岡県出身

才川翔一朗さん

CG制作がおもしろい!

映像にかかわるさまざまな分野を幅広く学んだ昨年と比べ、2回生になった今年は、専門科目がかなり増えてきました。授業は毎日けっこう詰まっていますが、昨年よりは選択の幅が広がり、自分の関心に合わせてカリキュラムを組み立てられるようになったので、どの授業も「しんどい」と思うことはありません。でも朝一番の1限の授業は少し減ったかも(笑)。

僕が興味を持っているのは、CG(コンピュータ・グラフィックス)。「CG実習」と呼んでいる「リニア映像制作実習」は特におもしろいですね。今は、例えば京都タワーなどの立体物の3D画像を作り、動かすことに取り組んでいます。実習では、世界的に知られたCGアニメのクリエイターが先生となって直接指導してくださるんです。それだけで胸躍る体験です。醍醐味はやっぱり頭に描いたイメージ通りのCGをプログラミングできた時。高度なアニメーションをつけたり、物体の質感を追求するなど、これからまだまだ新しい試みに挑戦する予定です。

▲プロが使う本格的な設備で、映像に効果音をつける実習にも挑戦。

課外活動にフル回転

「教室だけが勉強の場じゃない」というのが僕の信条。課外活動にも積極的に参加しています。その一つが、オリター団※の活動です。きっかけは、僕自身が昨年、オリターさんにずいぶん助けられたこと。どうやって勉強を進めたらいいのか、レポートはどう書くのかといった学業に関することはもちろん、アルバイトを探すならどの辺りがいいか、スーパーはどこにあるのかといった生活全般にわたってアドバイスしてもらいましたから。初めての町で暮らす上で、これほど心強い存在はありません。同じように新入生の支えになれたらと、オリター団に入りました。

今年は“CrIP”という新入生対象のキャンプを企画するグループの局長を務めました。1月頃からイベントを行う意義や効果を考え、企画を開始。1回生に映像学部についてよく知ってもらい、また学生同士の親睦を深めてもらうために、デジカメを使った紙芝居や運動会といったイベントを考案しました。宿泊場所の手配やイベントに必要な道具やプログラムの準備で春休みは連日会議や準備で大忙しでしたね。開催は5月。新入生に大いに喜んでもらうことができました。

また映画を撮るサークルにも所属し、週1、2回の割合で活動しています。去年の夏休みには広島県に1週間のロケを敢行し、映画を一本完成させました。他にもサッカーサークルやオープンキャンパススタッフにも参加。正直言って、目の回るような毎日です。けれど何より楽しいから、少しも苦になりません。

成長がサポートの恩返し

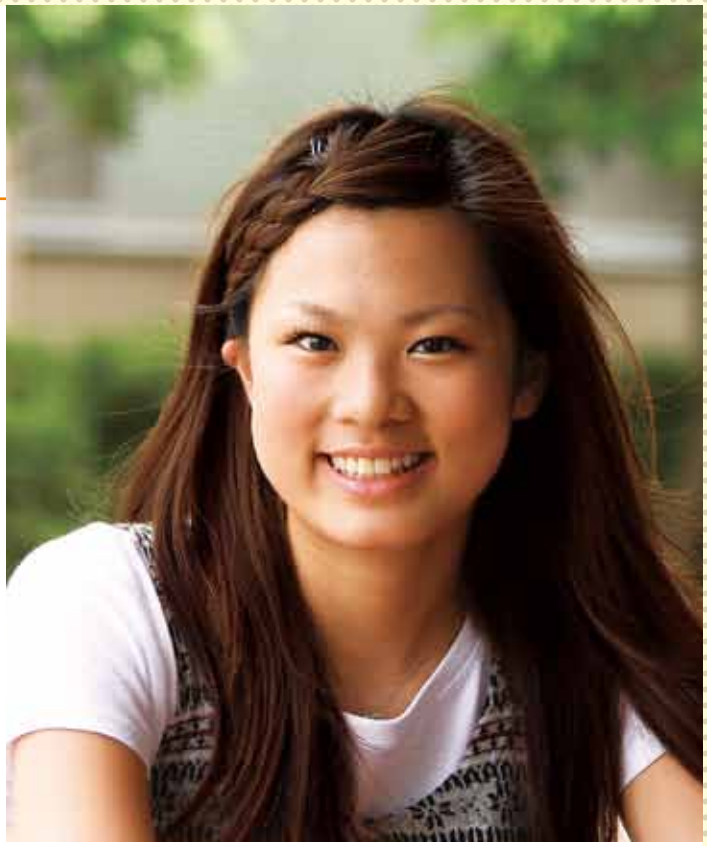
一人暮らしを始めて1年余り。授業に加えてさまざまな課外活動、さらにはアルバイトとめまぐるしい日々で、寂しさを感じることはあまりありません。同じく一人暮らしをしている友達もたくさんでき、家を行き来することもしょっちゅうです。だから部屋に帰っても、一人でいる時間は少ないですね。

それでも忙しくなればなるほど実感するのは、両親のありがたみです。深夜までアルバイトをして帰宅し、食事もとらずに寝てしまうような時は、何も言わず、食事の支度をして待っていてくれただけで、どれほどありがたいことだったのかと身にしみて感じます。もちろんアルバイトだけで大学生活を送れるわけではありません。授業料や仕送りにも感謝しています。たくさんのことを吸収し、成長することがささやかな恩返しかな、と今は思っています。連絡は月1、2回の母からの電話で。こちらからかけることは少ないけれど、家族の元気な声に安心し、励まされているのは、僕の方かもしれませんね。★

※**オリター**:新入生の大学での学びや学生生活をサポートする上回生。授業についてアドバイスしたり、クラスをまとめたり、さまざまなイベントの企画・運営を行う。

正課だけでなく、課外活動にも力を注ぐことで個性を伸ばし
“キラリ”と輝く学生たちの大学生活を紹介します。

勉強も、課外活動も、ますます充実度を増しています!



BKC 理工学部 ロボティクス学科 3回生　大分県出身

齊藤梨紗さん

難易度の高い授業に奮闘

高校時代、テレビで最先端のロボットを観て、「これからの科学技術は、こういうロボットが担っていくのか」と興味を抱いたのが、ロボティクス学科に進学するきっかけでした。

3回生になると、授業数は決して多くはないものの専門科目が中心で、正直、難しい! ついていくのに毎日必死です。特に私は、物理が苦手。授業中、分からない問題にぶつかって頭を抱えることもしばしばです。そんな時頼りになるのは、同じ学科の友達の存在です。解き方を教わったり、一緒に課題に取り組むなど、共に学ぶ仲間がいるのは心強いものです。

今は前期の中間考査のためのレポート作成に追われています。夜8時頃まで大学のパソコンルームに残って友達とパソコンに向かっています。帰宅後も深夜2時、3時頃までその続きに打ち込むことも少なくありません。一番の悩みは、もう少し寝る時間がほしいことですね(笑)

女子学生が少ないこともあり、特に女友達とはとても仲良くなりました。ランチを共にし、他愛ないおしゃべりをするだけでも楽しいです。

後期には、研究室に配属され、いよいよ本格的な研究がスタートします。それを前に「特殊講義」ではすべての研究室を見学します。そこで研究内容や雰囲気をしっかり見極め、どの研究室にするか、決めるつもりです。

モダンジャズバレエに熱中

勉強以外に、1回生から打ち込んでいるのが、モダンジャズバレエ部での活動です。秋の自主公演に向けて、6月から本格始動。週3回、平日は放課後から夜10時頃まで、土曜は日中と、かなりハードに練習しています。振りつけから衣装まで、すべて部員の手作り。昨年は、公演で披露する全6曲目すべての衣装を下級生である私たちが分担して作りました。授業の合間や練習の終わった深夜に仲間と黙々と針仕事。それでも直前のリハーサルにすべてを仕上げることができず、先輩から厳しく叱責されて涙したこともありました。けれど苦労した分、公演でその衣装を身につけて思いっきり踊り、喝采を浴びた時の感動は、口では言い表せません。公演後、観に来てくれた友達にねぎらいの言葉を掛けられた時には、もう、涙が止まりませんでした。

3回生になった今年は、私も振りつけを考える予定。実は、「どうしてもみんなで踊りたい」と胸に温めていたお気に入りの曲があるんです。それにピッタリの振りつけを構想中です。

家族は一番頼れる存在

大分県から立命館大学に進学して3年目。一人暮らしは快適だけれど、やっぱり夜遅く、誰もいない部屋に帰るのは寂しいものです。勉強やクラブがうまくいかなくて落ち込んだ時、温かく迎えてくれた両親の存在の大きさに、今更ながらに気づかされます。最初は遠方の大学に進学することに反対していた母が、今では一番の味方です。週1、2回、「今、何してる?」「ご飯、ちゃんと食べてるの?」と尋ねてくれる電話の声が、支えになっています。

今は、クラブと勉強、それにアルバイトもしていて、息つく暇もない毎日。でもそれだけに追われているわけにはいきません。そろそろ進路についても考え始める時期です。専門性をさらに磨いて、関西で就職できたら、と漠然とながら将来に目を向けるようになってきました。

大学生活は思った以上にあっという間。悔いのないよう、これからも思いっきりいろいろなことに打ち込むつもりです。★

▲2008年秋には学園祭で演技を披露。齊藤さんは中列右端。

▲2009年新入生歓迎公演。衣装もすべて手作り。齊藤さんは中列左端。

データに見る学生実態

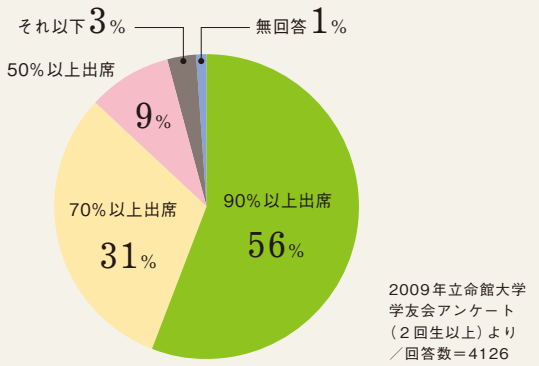
父母の皆様は、お子様がどのような学生生活を送っているのか関心をお持ちのことと思います。以下は本学で実施している様々なアンケートや統計データを抜粋したものです。これらのデータをもとに、学生生活の一部をご紹介します。

DATA 01

正課授業への出席状況

図1は本学の学生自治組織である学友会が2回生以上を対象に実施したアンケートからの抜粋です。在学生の半数以上が「90%以上」授業に出席し、8割以上が「70%以上」授業に出席するとの回答を寄せています。

図1



2009年立命館大学学友会アンケート（2回生以上）より／回答数＝4126

DATA 02

クラブ・サークルへの参加状況と得られる力

本学には現在、700を超えるクラブ・サークルが活動をおこなっています。これらのクラブ・サークルには、在学生の52%が参加し（2008年10月現在届出数）、活発な活動を展開しています。

これらの活動を通じて学生の皆さんはどのような力を身につけているのでしょうか。

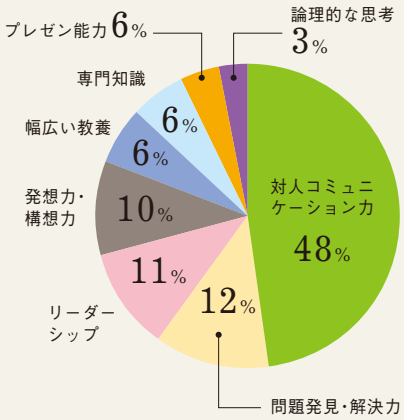
図2・3は、キャリア・オフィスが2004年度に卒業生全員を対象として実施した「卒業生アンケート」からの抜粋です。

アンケートの回答に見られるように、クラブ・サークル活動と正課教育（いわゆる授業）では、得られた力が異なっていることが分かります。クラブ・サークルで得られた力で多かった回答は「対人コミュニケーション力」、「問題発見・解決能力」、「リーダーシップ」でした。これらは、クラブ・サークル活動を通じて、自分たちで目標設定をし、活動方針を考えたり、学部・回生の異なる学生やOB等、学外の方々との交流を通じて培われたものであると考えます。

図4は、（社）日本経済団体連合会が2007年に企業会員1334社に対しておこなった、「新卒採用者に関するアンケート調査」のなかの「選考にあたっての重視点」という設問への回答です（回答数602）。この調査によると、採用するにあたって最も重視することは、「コミュニケーション能力」であると多くの企業が回答しています。

正課とクラブ・サークル活動双方での学びを通じて、バランスよく力をつけることが重要であると考えます。

図2 クラブ・サークル活動で得られた力



2004年度卒業生アンケート（立命館大学）より／全学部回答数＝3712

図3 正課教育で得られた力

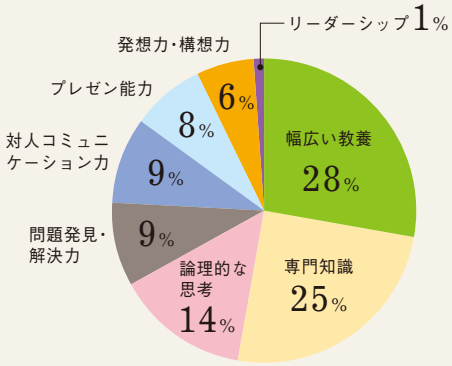
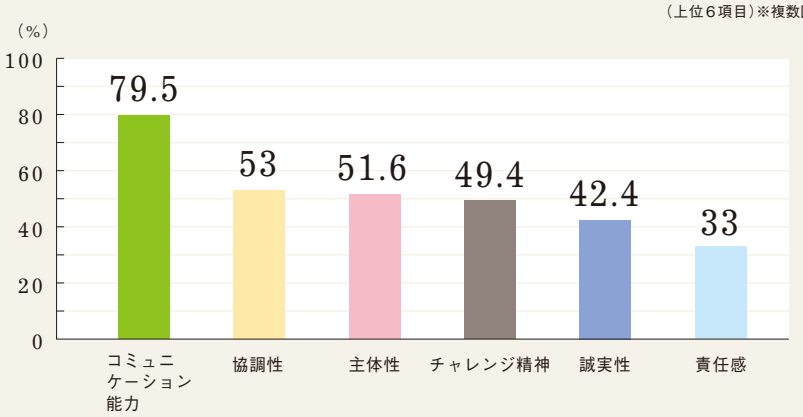


図4 新卒採用者を選考するにあたっての重視点

（上位6項目）※複数回答



2007年度の新卒者採用に関する企業アンケート調査結果（1334社）（社）日本経済団体連合会より／回答数＝602

DATA 03

学生生活を送る上での悩みや関心

表Aは2007年度に立命館生活協同組合が実施した「学生生活実態調査」のなかで、「（学生の皆さんが）日常生活で気にかかっていること」という設問に対する回答からの抜粋です。また、表Bは、本学が2008年に新入生の父母の皆様を対象に実施した「新入生父母アンケート」の「（ご父母の皆様が考えるお子様が）学生生活に関して心配されていること」という設問に対する回答からの抜粋です。

学生生活を送る上での悩みや関心は、回生によっても異なりますが、ほとんどの方が「生活やお金のこと」、「勉学のこと」、「就職のこと」について悩みを抱えていることが分かります。

ご父母の皆様には、お子様の悩みに耳を傾け、人生の先輩としてご自身の経験を踏まえながら、アドバイスをしていただきたいと思います。

表A 日常生活で気にかかっていること

（上位4項目）※複数回答

順位	設問	回答
1	生活やお金のこと	52.3%
2	勉学のこと	47.7%
3	就職のこと	42.7%
4	時間がたりないこと	41.0%

2007年度学生生活実態調査レポート（立命館生活協同組合）より／抽出調査回答数＝627

表B 学生生活に関して心配されていること

（上位4項目）

順位	設問	回答
1	学業について	35.8%
2	就職・進路について	23.8%
3	健康について	20.1%
4	一人暮らしについて	6.5%

2008年度新入生父母アンケート（立命館大学）より／抽出調査回答数＝1163

DATA 04

学生生活の費用・奨学金について

学生生活を送るうえでの1か月の費用（学費を除く）は、表Cのとおりとなっています。

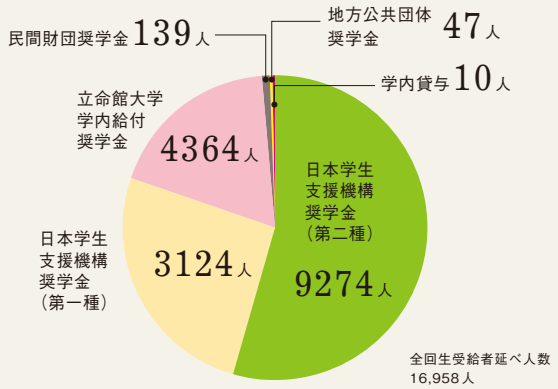
日本学生支援機構奨学金の受給者数は、延べ12,398名です。また、本学独自の奨学金は、延べ4364名が受給しており、地方公共団体、民間財団の奨学金受給者をあわせると、在校生の約2人に1人が奨学金を受給しています。（2009年3月1日現在。）

これらの奨学金の情報は、下記HPにて紹介していますので、ご参照ください。また、家計の急変などによって学費の納入などに不安を感じられた場合には、お早めに所属キャンパスの学生オフィスにご相談ください。

奨学金制度について

http://www.ritsumei.jp/scholarship/index_j.html

図5 2008年度 奨学金受給状況（全回生）



表C 学生生活を送るうえでの1か月の費用（学費を除く）

（単位：円）

	電話代	書籍・勉学費	交通費	教養娯楽費	食費	住居費	日常費	その他	合計
自宅	3,350	3,730	11,470	8,420	11,800	0	7,310	18,030	64,110
自宅外	4,870	3,490	2,680	7,510	25,900	56,340	8,800	14,940	124,530

2008年生活実態調査（立命館生活協同組合）より／抽出調査回答数＝635

TOPICS

2009年4月より、びわこ・くさつキャンパス（BKC）では、従来の連続時間割を見直し、衣笠キャンパスと同じく、共通の昼休みを設けた時間割がスタートしました。連続時間割の見直しによって、昼休み時間での学生団体やサークルよるさまざまな企画が可能となりました。

現在、びわこ・くさつキャンパスでは、立命館大学放送局による校内放送に加え、音楽系団体によるミニコンサート、体育系団体の試合に先立っての応援団による応援活動などが開催され、キャンパスが活気づくともに、賑やかさが増しています。

シャトルバスのご紹介

kinugasa campus - biwako kusatsu campus

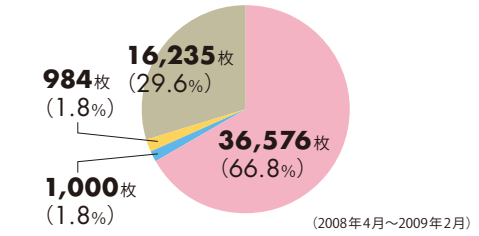
授業日を中心に、衣笠キャンパスと
びわこ・くさつキャンパスを結ぶシャトルバスを運行しています。
キャンパス間を効率的に移動できるので、
授業や課外活動のために多くの学生が利用しています。

2009.08

シャトルバスは、学生・大学院生のほか教職員が授業や研究、課外活動、業務等でキャンパス間を移動する際に広く利用されています。
中でも父母教育後援会からは、2008年度より課外活動の支援を目的に、シャトルバスの乗車料金の一部および利用者の多いダイヤのシャトルバス増便のための財政援助をいただいています。通常、片道運賃が300円であるところ、課外活動に参加する学生を対象にした特別回数券（10枚綴り1500円）を販売しています。

シャトルバスの乗車人数は年間のべ5万人を超え、乗車券売上げ枚数では、特別回数券を利用したものが7割近くを占め、課外活動の活性化に大いに役立っています。

2008年度シャトルバス乗車券売り上げ集計



● 課外活動のためにシャトルバスを利用している応援団チアリーダー部の石岡由衣さん（産業社会学部4回生）にお話を伺いました ●

――シャトルバスは主にどのような目的で利用していますか？

石岡　シャトルバスはチアリーダー部の練習がびわこ・くさつキャンパスであるので、平日はほぼ毎日、週に5～6回は利用しています。バスの中では音楽を聴いたり、休んだり、みんな思い思いの時間を過ごしています。

――やはり公共の交通機関を使うよりシャトルバスのほうが便利ですか？

石岡　衣笠キャンパスから京都駅に出るのもバスで行かなくてはならないので、ちょっと大変ですね。何よりも交通費がシャトルバスに比べてかなりかかるので経済的にもシャトルバスはかなり助かっています。また、乗り換えもないので少しの間ゆっくりできるのもいいですね。特別回数券は学生オフィスの窓口で購入しているのですが、1週間で1セットの回数券を使い切ります。課外活動をしている学生の多くはこの特別回数券を購入していると思います。

――課外活動で遅くまで練習されているのですね。

石岡　体育館の利用が21時までなので、その時間まで練習をしています。増便されてバスが2台ある日は食堂で食事をしてから帰りますが、1台だと席の確保のために並ばなければいけないんです。もうちょっと早い時間帯のバスがあればいいなぁと思っています。今年4回生で来春には卒業、チアリーダー部を引退する年明けまではシャトルバスのお世話になります。

活躍する立命館大生の紹介です

輝いています、ときの人

小野大助さん（文学部3回生）
立命館大学
ライフセービングクラブ 代表

「命を救う」ことを誇るのではなく、「事故をなくす」を目標に みんなが笑顔で遊べる海水浴場のために

夏休み真っ盛り。海や川に泳ぎに行こうと考えている人も多いのではないでしょうか？
そんな水辺の安全を守るのがライフセーバー。
立命館大学のライフセービングクラブでは、部員全員がライフセーバーの資格を取得し、
NPO法人のメンバーとして関西の海水浴場を中心に、水辺の安全を守るために様々な活動をしています。
今回は、代表である小野さんに、ライフセービングの魅力や、活動についてお聞きしました。

――ライフセービングとはどういうものなのでしょうか。小野さんが興味を持ったきっかけも教えてください。

小野 ライフセービングは、直訳すると「人命救助」ですよね。でも実は、「救助が必要な状況に追い込まないこと」が最大の使命なんです。子どもたちに海での命の守り方を教育したり、海水浴場での怪我を防止するために浜辺のゴミ拾いもします。他にも、迷子を親御さんに引き渡したり、お酒に酔った人に注意を促すこともあります。そういう事故予防も広い意味では「救助活動」なんです。もちろん、事故は100%防げるわけではないので、救助が必要な状況では全力で救助・救命にあたります。
また、ビーチフラッグスなど、競技としてのライフセービングもあります。競技をしながら実際に救助するスキルが上げられるという点が特徴です。
僕は長野県出身で、まわりに海もないですし、ライフセービングに関しては、名前を聞いたことがあるくらいでした。ただ、高校生の時に野球部に所属していて、練習中にひどい怪我をする人や、熱中症で倒れて救急車で運ばれる人を何人も見ていたので、救急や救命に興味はありました。それで、大学に入学してすぐの頃にたまたまライフセービングクラブのビラをもらった時、「これだ」と思ったんですね。即決でした。授業が始まって3日目には入部していました。

――立命館大学ライフセービングクラブの主な活動内容についておしえてください。

小野 普段は、西京極アクアリーナや伏見港公園プールで救助に必要な泳ぎ方の練習をしたり、陸トレといって、軽く筋トレをしたりしています。それから、専用の人形を使って、心肺蘇生法の訓練をすることもあります。週末になると、和歌山の海へ行って、海や救助機材を使ってトレーニングを行っています。
7月になると本格的にシーズンに入りますが、僕らは毎年、和歌山県の片男波海水浴場、白浜海水浴場、三重県の阿児の松原海水浴場の3ヶ所で監視活動を行なっています。海の日から8月31日までは、クラブでそれぞれの海岸の近くに宿舎を借りて、みんなで共同生活をするんです。これはすごく楽しいです。じゃんけんで負けた人がご飯を作ったり、掃除や洗濯もみんなでするので、自然と仲良くなりますね。
監視活動以外にも、ジュニアプログラムを開催して子どもたちに「自分の命は自分で守ろう、人の命はみんなで守ろう」と教えます。9月にはライフセービングの大会が始まります。学生ライフセービング大会には毎年参加しています。ただ、僕たちは、競技で得たものが、海水浴場での活動に結びつくかを大切にしているので、競技の結果ではなく、ひと夏の活動結果を大切にしています。

――ライフセービングの活動を通して感じることはありますか？また苦労したことがあれば教えてください。

小野 ライフセービングって本当に楽しいんですよ。すごく一生懸命になれるんです。子どもや地域の人とも交流できますし、他大学や社会人ライフセーバー達との繋がりもあります。そういった人たちと一緒に、「何も起こさない」という目に見えない目標に向かって頑張れるところに魅力を感じています。あとは、やっぱり感謝してもらえた時に「よし、頑張ろう」と改めて思います。
ライフセービングを通して「誰か特定の人のために頑張る」のではなく、「誰のためにでも頑張る」という姿勢を学びました。自分で考えて行動する必要な場面がたくさんあるので、人間的にはかなり成長できたと思います。
苦労といえば、日焼けしすぎるという事ですかね。基本的に楽しんで活動しているので、そう感じることはあまりないです。

――最後に、今後の目標と、この夏海や川に行く学生たちに向けてメッセージをお願いします。

小野 この夏、海や川に行くみなさんには、寝不足、飲酒での入水は控えてくださいとお願いしたいです。事故に繋がってしまうと楽しくありませんから。ルールは守って、楽しい夏休みにしてください。
僕自身は、ライフセービングを通して様々な知識や技術が身についたので、救命の道を進みたいと思っています。もっと広い範囲で人命を助けることのできる仕事につきたいという思いもあります。
最後に、ライフセービングクラブとしては、「one for all, all for one.」を目標に今年も頑張りたいです。全員がレギュラーであり、全員がスタッフとして、無事故という目標を達成していきたいですね。海に遊びに来てくれた人みんなが笑顔で遊んで、笑顔で帰れるようにしたいです。

ここに掲載されている内容は、学園の最新情報を学生向けに発信するウェブサイト「RS Web」内の「輝いてます、ときの人」から使用しています。

RSWEB ▸ http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/koho/rs/index.htm

キャリアセンター次長に訊く

親が気になる就職のポイント

子どもがどのようにキャリアを形成し、
進路を選ぶべきなのかは、親も気になるところでしょう。
今回は父母の方々から寄せられた進路選択や
就職に関する率直な疑問の数々に、
浅野昭人キャリアセンター次長がお答えします。

立命館大学
キャリアセンター次長
浅野昭人

「不安定な経済状況、子どもの就職が心配…」

Q1 昨今の不況の影響で、各企業が採用を控えていると聞きます。立命館大学の就職状況はどうなのでしょうか?

A1 2008年度を振り返ると、全国の民間企業の新規学卒者に対する求人総数は94.8万人と過去最高で、求人倍率は2.14倍でした。しかし従業員数1000人以上の大企業の就職倍率は0.77倍と、依然狭き門であることに変わりはありませんでした。今年度は、いっそう厳しさを増しているのが実情です。2009年4月現在の全国の民間企業の求人総数は73万人と、昨年より22万人近く減少。求人倍率も1.62倍と、0.52ポイントも下がりました。
一方、2008年度の立命館大学・大学院の就職希望者の就職決定率は95.2%、大学院進学者を合わせた全進路就職決定率は88.6%と、全国の大卒者の就職率67.6%を大きく上回る健闘ぶりでした。従業員数1000人以上の大企業に就職する割合も63.2%にのぼります。とはいえ就職状況の悪化の影響は、本学も無縁ではありません。2009年6月末時点での内定決定者の割合は、昨年の同時期より1割ほど減少。今年は特に女子学生が苦戦を強いられています。

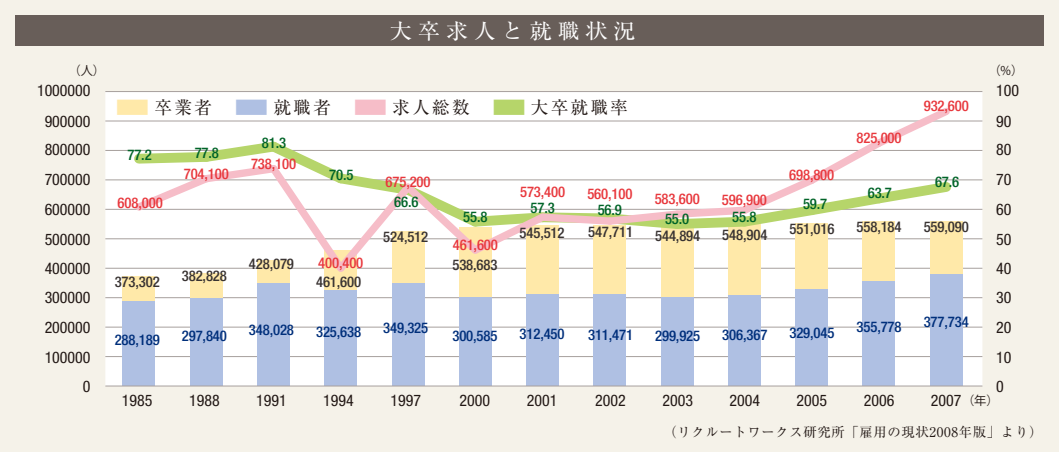
Q2 将来を考えると、やはり安定した公務員や大企業への就職を選んでほしいというのが親の本音。どうしたら満足できる進路選択ができるのでしょうか?

A2 現在の経済・社会状況に、不安を抱くご父母の方々も少なくないことでしょう。しかし世間の風評や求人倍率などの数値に一喜一憂しないでください。必ずしも世間的な指標が、一括採用に当てはまるわけではありません。図1の通り、求人総数の増減ほど大卒就職者数への影響は大きくなく、大卒一括採用は底堅いものがあります。
　ではどうすれば満足できる進路選択ができるのでしょうか?　たとえ大企業や有名企業、安定した仕事に就いたとしても、人生に満足感や充足感を得られるとはかぎりません。キャリアセンターの調査では、企業の規模に関係なく、最初の就職先に満足感を得ている人ほど、就職後の仕事や人生に満足する割合が高いという結果が出ています。すなわち就職先の規模の大小にかかわらず、「納得する」「満足する」進路を見つけることこそが、重要だといえるのです。それには、他人の意向に従うのではなく、苦労してでも自分で考え抜き、「自分の進路を自分で決める」というプロセスが非常に重要です。

Q3 就職活動を有利にするためには、留学を経験させたり、資格を取得させた方が良いでしょうか?

A3 学生自身に「やりたい」という内発的な意欲があるなら、ぜひ経済的、精神的に支援していただきたいと思います。何かに挑戦する経験が、人間的な成長や能力・スキルの獲得、進路や志望を見出すまたとない機会となるでしょう。しかし、ただ「就職のため」にという理由での留学や資格取得は、お勧めできません。実際近年は、留学経験や資格そのものが直接就職に有利に働くことは稀だからです。
採用試験で問われるのは、学生自身の人生観や世界観、職業観であり、そうした価値観を培う過程で獲得した職務遂行力です。つまり、働く目的・意味を理解しているか、仕事ができる力をもっているかということです。これらは対処療法的な取り組みで一朝一夕に身につくものではありません。正課の授業はもちろん、クラブやサークルといった課外活動、アルバイトなど、学生生活すべてを通して育まれていくものなのです。「就職活動は、大学での学びの総括を社会に公表する場」と表現した学生もいました。
またメキシコに留学した学生は、こんな話をしてくれました。ある農場を訪れた時のこと。舗装道路もなく、手入れの行き届かない農場のありさまを目の当たりにして、「農場や道路が整備され、トラックや耕作機械を導入することができれば、農作業の効率が上がり、人々の暮らしも豊かになるだろう。私にも手助けできることがあるのではないか」と思ったことを契機に、世界の国々の発展を支援する活動に関わりたいと考えるようになったといいます。重要なのは、留学した事実ではなく、経験を通して問題意識や価値観を形成し、それを将来のビジョンにまで高めることです。それができれば、就職活動においても大きな自信と糧になります。

図1



Q4 「インターンシップ」という言葉をよく聞きます。これはどんなものなのでしょうか？　子どもにも勧めた方が良いでしょうか？

A4 「インターンシップ」とは、いわゆる「就業体験」の場であると同時に、大学での学びを再確認する場でもあります。社会に出る前に、企業や団体で仕事を体験することは、仕事の実態を知り、「働くことの意味」を考える機会になります。また、学生が社会の仕組みを知る上でも有効な手段です。更に、大学での学びを実社会で生かす経験をする場です。
インターンシップを経験することで、大学での学びを見直し、大学に戻ってから学び見直すことができます。また、進路を選ぶ際には、自分の知っている狭い範囲で企業や仕事を判断しがちですがインターンシップで実社会を知ることで自分の適性や価値観に合った企業を見出す力を身につけることができます。ぜひインターンシップに挑戦し、さまざまな仕事や働き方があることを知ってほしいですね。

Q5 希望の進路を得るために、そのほか何に取り組めば良いのでしょうか？

A5 勉強も、課外活動も、学生時代の一瞬一瞬すべてが大切です。しかし何より友をつくり、喜びや苦しみを分かち合う経験を得てほしい。どんな取り組みも、自分のため、将来のためだけのものであれば、得るものは少ないでしょう。特に就職活動は、孤独な戦いだと考えがちです。ともすれば同じ学部やクラブの仲間がライバルに思えてしまうこともあるかもしれません。しかし仲間と励まし合いながら取り組むことで、希望の進路を獲得した例は少なくありません。仕事も同じです。さまざまな人と協力し合い、相手の気持ちをくみ取ることで成功にたどり着くものです。「他者を認識する力」「他者への共感能力」が、就職活動でも、社会に出てからも貴重な宝物になるに違いありません。

「キャリアセンターは、どんなサポートをしているのですか？」

Q6 子どもはどんな仕事や働き方に向いているのか。さまざまな進路の中でどのように適性を見出せばいいのでしょうか？

A6 それを考えることが、就職活動そのものです。例えば学生時代の取り組みを振り返り、なぜそれを選んだのか、どのように取り組み、どう成長し、あるいはどんな価値観や世界観を得たのかを考えます。その分析が、適性や職業観の自己認識に結びつきます。よく「自分は特別な活動を何もしなかったから」と言う学生がいますが、重要なのは取り組んだ内容の難易度だけではなく、その過程で「何を身につけ、習慣化できたか」です。それは、むしろ身近で日常的な取り組みの中でこそ培われます。何げない日々の努力の積み重ねの中にこそ成果ははあります。自分の人生や仕事について徹底的に考え抜き、「本当の自分」を発見してください。
また自分一人だけの「自己分析」には限界があります。友達や親と話をする中で、本人は気づかなかった長所や適性を発見することは往々にしてあるからです。自分ではマイナスだと思っている資質が、実は長所だったということも少なくありません。キャリアオフィスのスタッフに相談するのも一つの方法ですが、是非、親子でも話し合ってみて下さい。

Q7 キャリアセンターは、具体的にどのように就職を支援しているのでしょうか？

A7 入学直後に4年間の目標設定や学習計画を明確にするキャリアチャートの作成を指導するところからサポートは始まります。その後、「キャリア形成論」といった正課授業や学部専門科目を通して低回生からキャリア形成をサポートしていきます。3回生以降は、業界研究会や説明会の開催、エントリーシート作成指導や模擬面接指導など、社会の採用動向に合わせてさまざまなイベントやプログラムを催し、就職活動を後押しします。
また本学独自の仕組みである「スチューデンツ・ネットワーク」の果たす役割も大きいですね。これは3回生のゼミにおける就職活動をリードするプレイスメント・リーダー（PA）、進路が決まった4回生が就職支援をおこなうジュニ

図2

U・Iターン就職支援

■「Uターン・Iターン就職ガイダンス」

実際にU・Iターン就職活動を経験した先輩からの、体験談などを織り交ぜながら、U・Iターン就職をすすめるうえでのポイントなどを、わかりやすく説明します。

■「キャリアフォーラム」

立命館大学ならではの全国を網羅するネットワークをいかして、各地域の主要企業、地方自治体の人事担当者を招き、立命館大学の学生のみを対象とする採用セミナーを開催しています。2008年度は、全国11会場で450社を超える企業、そして1,100名を超える学生が参加しました。

■「全国優良企業データブック」

各地域の主要企業の情報を集めた「全国優良企業データブック」を発刊、U・Iターン就職を希望する学生がしています。

ア・アドバイザー（JA）、卒業生による就業体験を伝えるキャリア・アドバイザー（CA）から構成され、学生の就職活動をサポートする制度です。CAには、2500名を超える卒業生が登録。年間600名ものCAが休日を押してキャリアセンターが主催する「CA懇談会」に参加するなど、後輩のために尽力してくれています。また秋にはキャリアオフィス内にJAによる相談ブースを設けて、実体験をもとに就職のアドバイスをしています。立命館ファミリーとして結束し、後輩をサポートする強い絆こそ、立命館のキャリア支援最大の強みかもしれませんね。

「キャリアセンターは、気軽に利用できるんですね」

Q8 どんな相談をしたらよいのか分からず、キャリアオフィスに足を運びにくいと、子どもは言います。

A8 そんな学生にこそ、キャリアオフィスに訪れてほしいと思います。「何を相談したらいいのかわからない」「何から手をつけたらいいのかわからない」。そんな気持ちをキャリアオフィスの職員と話すことから就職活動は始まります。

年間延べ2万6千人の学生が、キャリアオフィスを利用していますので気軽にのぞいて下さい。午前中のみ予約も受け付けるなど、学生が利用しやすいよう工夫しています。また大学が独自に収集した求人情報は、年間1万6千件にも及びます。こうした情報も随時公開しているので、情報収集の場としてもぜひ活用してほしいですね。情報は、キャンパスWebでも公開しています。

「親子のコミュニケーションは必要？」

Q9 卒業後は地元に戻ってきてほしい、また公務員を受けてほしいなど、親の希望を伝えたいのですが…。

A9 親御さんの希望、子どもの意向、両方あってしかりです。どちらが正しいのかを他者が判断することはできません。大切なのは、きちんと話し合い、互いの意向を尊重し合うことです。経験を積んだ人生の先輩としての親の意見に子どもが納得することもあるでしょうし、また自分の希望を語るうちに、子どもの志望や考えが固まっていくということもあるでしょう。しかし最終的には、子ども自身が納得し、自分で進路を決めるということが重要です。企業の大小や有名かどうかではなく、自分にとって満足のいく進路選択かどうか考えてほしい。経験から言わせてもらえれば、言葉にはしなくても、案外学生は、親御さんのこともおもんぱかりながら、将来についてしっかり考えているものですよ。

もちろんその上でUターンやIターンを希望する学生のためには、そのための就職支援も手厚く行っています。（図2）

Q10 あまり話をしてくれず、心配は募るばかりです。

A10 就職活動中の学生は、厳しい試練に耐えて頑張っています。しつこく尋ねられることが、かえってプレッシャーになってしまう場合もあります。だからといって放置していては、本当に親としてのサポートが必要な時、そのサインを見落としてしまうかもしれません。ご父母に求められるのは、「心のドアを開けて待っている」という態度ではないでしょうか。子どもが意見やサポートを求めて来た時には、親としてのご意見をはっきりと言ってあげてください。そのほかは、「応援する姿勢で温かく見守る」ことも必要です。

ただしコミュニケーションは、就職活動が始まったからといって急に取れるようになるわけではありません。普段から自然に会話する関係を築いていることが重要です。「親子で考えるキャリア講座」という冊子も発行していますので、親子で話し合う際に活用していただければと思います。（P43参照）

キャリアオフィスからのインフォメーション

Information from Career Office

「PLACEMENT DATA 2009（父母版）」のご紹介

「春のオープンカレッジ」、「都道府県別父母教育懇談会」で参加されたご父母へお渡ししています PLACEMENT DATA では、2008年度（2009年3月卒）の就職状況についてデータをまじえて解説しています。

2008年度は企業の採用計画の圧縮や質を重視し計画数未満で採用を打ち切るなど厳選採用となり、内定取り消しなどが大きな問題となりました。

そのような中、本学では、学部・大学院の全卒業・修了者の99.2%の進路を把握し、就職決定者数を就職希望者数で割った就職決定率は95.8%（前年比、-0.4ポイント）、卒業者を分母とし、就職決定者数と大学院進学者を分子とする進路就職決定率は88.6%（前年比+0.1ポイント）となりました。従業員規模別就職状況では、巨大企業63.2、大企業11.0、中期業16.0、小企業6.3となっています。

公務員、教員、その他難関試験、大学院進学などに関する結果も掲載。

本社所在地都道府県別求人・就職決定状況表も掲載しており、一覧で、地元企業の過去10年間の採用実績をみることができます。

「親子で考えるキャリア講座」のご紹介

昨年度、ご自宅に郵送した「親子で考えるキャリア講座」は、日経新聞はじめ、全国紙各紙で取り上げられ、注目をあびました。親と子がともに向き合い、仕事と人生について語り合うきっかけをつくってもらうことを目的としてこの冊子を作成しました。

主なコンテンツは、「わが子の就職と親の役割」、「能力開発戦略としてのワーク・ライフ・バランス」、わが子の就職力評価、父と子が語る仕事と人生、キャリアオフィスのサポートなどです。

ホームページでも同じ内容が閲覧できますので、ぜひ、お時間のあるときにでも、お読みください。

ホームページURL http://www.ritsumei.ac.jp/mng/fubo/career/index.html

立命館大学キャリアオフィス

▸衣笠キャンパス

［開室時間］
月曜日～金曜日／9：00～17：30
（火曜日のみ13：00～17：30）

▸びわこ・くさつキャンパス

［開室時間］
月曜日～金曜日／9：00～17：30
（火曜日のみ13：00～17：30）

▸大阪オフィス（立命館アカデメイア@大阪）

［窓口時間］月曜日～金曜日／9：30～17：30

▸東京オフィス

［窓口時間］月曜日～金曜日／9：00～17：30

就職活動の流れと大学のサポート

model 01 student Kさん 法学部4回生 Course 地方金融機関内定

●…キャリアオフィスのサポート

学外での活動

- 自転車サークルで活動。サークル運営にも携わる。
- 公務員を目指して試験勉強。
- 公務員試験の勉強に区切りをつけ、民間企業への就職を決意。とはいえ1月は、定期テストの勉強、サイクリングサークルの活動に忙しく、就職活動には手をつけられなかった。
- ほぼ毎日、面接や説明会、採用試験に大阪へ赴く。体力的にも大変だった。
- 面接では、運営者の立場になって頑張ったサークル活動や、学業もおろそかにしなかったことをアピールした。

3回生

●各企業に郵送・WEBでエントリー（30～40社）

●企業説明会
●筆記試験
●面接
（金融・医療関係企業中心）

→ ●各企業面接

4回生

●金融機関内定

4月 9月 10月 1月 2月 3月 4月

学内での活動

●就職情報サイトに登録
●学内企業研究会

●自己分析シート作成
● SPI 問題集で勉強

●キャリアオフィスに相談

● OB 訪問

- 公務員試験の勉強で成績が思うように伸びず、「このままでいいのか」と不安に。キャリアオフィスに相談。「本当に公務員になりたいのか」と問われ、改めて「自分は何がしたいのか」と考えた。
- 学内の企業説明会にはできる限り参加。10月から12月にかけて、10回以上は出席した。「あなた自身が商品」と説明された金融業界に興味を覚える。
- エントリーシートを添削してもらったり、面接や自己分析の相談に乗ってもらったりと、月数回、キャリアオフィスに足を運ぶ。アドバイスをもらうことで、客観的に自分を見つめることができた。
- 内定後にOBを訪ねて仕事について聞き、本当にやりたい仕事かを見極めた。

「人生をいかに生きるか」を真剣に考えた結果が企業選びに

企業を選ぶにあたって最も考えたのは、「これから先の人生をどう生きたいか」ということ。地域に根をおろして長く働けるところに魅力を感じ、地方銀行を中心に就職活動をしました。地元の銀行を含め数社から内定をいただき、Uターンするか悩みました。考えた結果、自分の力で生活しながら仕事をする方が、私らしくイキイキと輝いていられると思い、実家から少し離れた企業への就職を決めました。

model 02 student Aさん 理工学研究科博士課程前期2回生 Course 自動車部品メーカー内定

●…キャリアオフィスのサポート

学外での活動

- 3週間、製造や性能実験の現場を見る。自動車業界への興味が膨らんだ。
- 大阪の他、地元愛知県で自動車業界を中心に、20社以上の企業説明会に参加。企業への往復は、体力的にも金銭的にも大変だった。
- 初めての面接で、思うように話せず、結果は不合格に。
- 地元名古屋での面接日には、実家に宿泊。食事を用意してくれたり、その日の報告を聞いてもらうことが、支えになった。
- 面接で、資料を用意して研究の専門的な内容を分かりやすく説明するなど、しっかり自分をアピールできた。

●自動車メーカーでのインターンシップに参加

修士1回生

●企業説明会（自動車業界中心）

●エントリーシート、履歴書送付

●学校推薦で自動車メーカーの採用試験に応募

●学校推薦で自動車部品メーカーの採用試験に応募、面接→●内定
●各種企業一般採用面接

修士2回生

8月 11月 12月 2月 3月 4月

学内での活動

●エントリーシート作成講座受講
●キャリアオフィスに相談

●エントリーシート作成

●模擬面接

- 修士論文執筆に向け、研究に打ち込む
- キャリアオフィスに毎日のように通い、エントリーシートや志望動機を添削してもらった。
- 研究室の先輩や就職活動を一緒にする友達から情報を得たことが役立った。
- キャリアオフィスの模擬面接でアドバイスをもらう他、友達同士で面接練習を繰り返した。

地元名古屋で、誇りを持って働ける企業への就職を初志貫徹

自動車業界への就職活動は、昨今の不況の影響で、学校推薦の中でも狭い採用枠に挑まなければならず、非常に厳しかったというのが実感です。採用試験では、自分の研究内容を知らない相手に以下に分かりやすく伝えるかに腐心しました。いくつか内定をいただきましたが、最終的には、面接で話した技術者の方から楽しく、誇りを持って働いていることが伝わってきたことが企業を選ぶ決め手になりました。

いつから就職活動を始めるのか、どのように取り組めば良いのか、学生やその父母の不安や心配は尽きません。
このページでは、今年度の就職活動を経て希望の進路を獲得した4名の学生が登場。
開始時期から各段階での取り組み、キャリアオフィスの活用法までを実際の活動に沿ってご紹介します。

model 03　student Tさん 経済学部4回生　Course 食料品等メーカー内定

●…キャリアオフィスのサポート

学外での活動

- アルバイト先で営業目標を立て、達成のためにチームみんなで奮闘。
- 3回生
- ●新聞社でのインターンシップに参加
- 「世界をフィールドに働きたい」と考え、グローバルに事業を展開する企業を中心に応募。
- ●各企業に郵送・WEBでエントリー
- ●エントリーシート送付（30～40社）
- 「毎日就職活動をする」を目標に、説明会や試験、面接のスケジュールを組んだ。1日に2、3社を回ることも。大阪で時間が空いた時は、キャリアセンターの大阪オフィスを活用。食事をしたり、情報収集するのに役立った。
- ●企業説明会 ●筆記試験 ●面接
- 面接ではアルバイトで営業活動をした経験を話した。集団面接でも、ハキハキと論理的に話すよう心がけた。
- ●各企業面接
- 4回生
- ●第一志望企業内定

学内での活動

- 6月：新聞記者を志望。エクステンションセンターの「報道ジャーナリスト養成塾」を受講。
- ●就職情報サイトに登録 ●自己分析セミナー ●学内企業研究会
- ●自己分析シート作成
- ●キャリアオフィスに相談
- 企業説明会などで話を聞くうち、「報道よりも、営業の仕事の方が好きかもしれない」と思うようになった。
- ●エントリーシート作成
- 「社会人」として尊敬する両親とよく話をした。「働くとはどういうことか」を考える上で貴重なアドバイスをもらった。
- 内定後、社員の方とざっくばらんに話をする機会を設けてもらい、海外で働けるチャンスがあることなどを聞いて、入社の意を固くした。

アルバイト経験を通して成長したことをアピール

大学1回生から、インターネットサービスを提案する営業のアルバイトを続けています。仕事は、相手に冷たくあしらわれることもある厳しいもの。その中で成果と上げ、チームの売上を県下一にまで押し上げたことも。採用試験では、アルバイトを通して得た自信や成長を語りました。世界をフィールドに働くことが目標に幅広い業界、企業にアプローチした結果、希望通りの企業を選ぶことができました。

model 04　student Nさん 産業社会学部4回生　Course インフラ系企業内定

●…キャリアオフィスのサポート

学外での活動

- ボーイスカウトの指導者として活動。新しいプログラムなどにも積極的に挑戦。
- 3回生
- ●新聞社でのインターンシップに参加
- 公益性が高く、しかも社会や経済に大きな影響を与えられる仕事の可能性に惹かれ、インフラ系企業に関心を持った。
- ●各企業説明会
- ●エントリーシート送付（約50社） ●筆記試験 ●面接
- インフラを中心に、食品メーカーや銀行など幅広い業界の企業にアプローチ。
- ●企業説明会 ●筆記試験 ●面接
- 面接では、ボーイスカウトの指導経験、サークルなどの活動を通して、自分がどう成長したか、それを就職後どう生かせるかを論理的に語った。
- ●各企業面接
- 京都、大阪、名古屋を10回以上も行き来し、就職活動。体力的、金銭的にハードだった。2月中旬から2ヵ月近く、休みは一日もなかった。
- 4回生
- ●第一志望企業内定

学内での活動

- 6月：●SPI問題集で勉強
- 9月：●就職情報サイトに登録
- 10月：●SPI問題集で勉強 ●自己分析 ●業界研究
- ●キャリアオフィスに相談
- 12月：●自己分析シート作成 ●学内企業研究会
- 1月：●エントリーシート作成
- 2月
- 3月
- 4月
- 「筆記試験の勉強をしておいた方がいい」とテニスサークルの先輩にアドバイスされ、腕試しを兼ねて勉強を開始。
- サークルの仲間と互いを分析し合うことで、自分では気づかなかった長所や志向を発見した。
- 練習を兼ねて、多くの企業のエントリーシートを作成。書くことで自分のことや企業への関心がより明確になった。
- 愛知の実家に帰るたびに親とよく話した。社会人の視点からのアドバイスが、進路選びに役立った。
- 疲れた時、落ち込んだ時は、サークルの友達や先輩と飲みに行き、話しをすることが気分転換になった。

一緒に取り組む仲間がいたから厳しい就職活動を乗り切れた

早い段階から自己分析を行い、数多くの企業のエントリーシートを書いたことが、希望の進路をつかんだ勝因の一つです。けれど何より大きかったのは、サークルの仲間や先輩の存在。励まし合ったり、情報を共有したり、アドバイスをもらったり。「みんなで就職活動を乗り切った」という気持ちが強いです。社会や経済を動かす大きな仕事ができるインフラ業界で、しかも愛着のある地元企業に就職を決めました。

エクステンションセンターってどんなところ？

**エクステンションセンターでは、
衣笠キャンパス、びわこ・くさつの2拠点、朱雀キャンパスの計4カ所で、
約28の講座を開講。
年間延べ約7,000人の学生が受講しています。
ここではエクステンションセンターの学びや特徴をご紹介します。**

エクステンションセンターとは？

エクステンションセンターでは、資格取得を目指すものから、国家公務員や司法試験など難関試験のための支援講座、パソコンやビジネスマナーなどのスキルアップを想定したプログラムまで多種多様な講座を開講。いずれも外部から専門の講師を招聘したり、専門学校と提携するなど各分野に特化した質の高い講義で、目標達成を力強くサポートしています。講義は正課の授業時間外に行うため、学業と両立させながら新たな力を身につけることが可能。各種資格はもちろん、難関試験においても高い合格率を誇っています。

またエクステンションセンターの窓口では、スタッフが進路や開講講座、学び方など、学生のさまざまな相談に応じ、情報を提供しています。

各種講座を受けることを通じて手にできるのは、資格やスキルだけではありません。目標に向かって勉強に打ち込む力や集中力、成果を出した時の達成感や自信など、数多くの能力や経験を得ることができます。正課だけでなく、多様な学びの場を提供することは、学生の人間的成長にも役立っているのです。

合格者の声

提携する専門学校に通い、3回生で難関試験突破

公認会計士試験合格者　経営学部4回生　赤木亮元さん

大原簿記法律専門学校に通える「公認会計士講座」があると知り、エクステンションセンターに足を運んだのは、1回生の秋のこと。高校時代から公認会計士を志望していた私にピッタリの講座でした。長期にわたる受験勉強では、「継続すること」が一番の力になります。思うように成績が伸びず、机に向かうのが辛い時期もありました。そんな時も週1、2回、放課後に専門学校に通うことで、生活のリズムを乱さず、勉強を投げ出さずに続けることができました。

情報が充実していることや、格安の受講料で専門学校の講義を受けられるなど、エクステンションセンターを活用して良かったことはたくさんあります。講座の受け方や、試験までのスケジュールに沿った勉強の取り組み方など、さまざまな相談に乗ってもらえる講座サポート窓口も、心強い存在でした。おかげで学業と両立しながら勉強を続け、3回生で受験した初挑戦で、公認会計士試験に合格することができました。

学生の本音 ～受講生へのアンケートより

■エクテン講座受講の目的

自分の進路の選択肢を広げる、進路・就職に有利だから、将来の人生設計に役立てたい、資格に関連する業界に就職したいからなど就職活動時や卒業時に発生する不安を払拭したいという気持ちが現れています。

■エクテン講座を受講して起きた生活の変化

学生の「学びたい」という気持ちがそのまま学生生活にも変化を及ぼしており、学習時間が増加した、進路・就職目標が明確になった、集中力が高まったなど自主性が身についているという結果となっています。

▶エクテン職員によるコメント

エクステンションセンターは資格取得や難関分野の就職を目指す学生のために講座を展開しています。学部・回生を問わず、受講できる環境となっています。
ご子息から進路・就職についてご相談を受けられた際は是非エクステンションセンター活用などのアドバイスをお願いします。

進路・就職を視野に入れた講座の案内

エクステンションセンターでは、学生の理想の進路・就職を実現するために資格取得や難関就職対策の講座を提供しています。学部での授業に加えてエクステンション講座もキャンパス内で受講できる環境は学生にとって大きなメリットです。合格率も高く、市場価格よりも安価で受講できることも魅力です。

Extension Center Course Information 01

公務員講座

立命館大学学生に特化した講座プログラムを開発し、キャリア官僚と呼ばれる国家公務員Ⅰ種試験を始め、国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級職などを目指す講座を提供しています。

Extension Center Course Information 02

法曹・法律専門職講座

法曹（裁判官、検察官、弁護士）になるための法科大学院進学プログラムや司法書士、弁理士、行政書士といった法律のプロフェッショナルになるために、正課授業復習・応用が効率的にできるカリキュラムを提供し、各種資格試験対策を行っています。

Extension Center Course Information 03

金融・会計専門職講座

金融や会計の基礎となる簿記の学習を始め、様々な金融・会計に関する資格（公認会計士・税理士・証券アナリストなど）を目指す講座を提供しています。びわこ・くさつキャンパスでは2007年度から学内で公認会計士試験対策講座を開講しています。

Extension Center Course Information 04

総合講座

国家資格や公的資格など、学生の多様な進路・就職に対応できるよう各分野において役に立つ資格対策講座や、民間就職においても難関分野の業界に特化した就職対策講座を展開しています。

2008年度合格実績

〈国家公務員採用試験合格者数〉

- 国家公務員Ⅰ種 合格実績……36名
- 国家公務員Ⅱ種 合格実績……150名

〈国家資格実績の一例〉

- 新司法試験 合格者数……59名
- 公認会計士試験 合格者数……71名
- 通関士試験 受講生合格率……64.7％（全国合格率 17.8％）
- 宅地建物取引主任者資格試験 受講生合格率……32.5％（全国合格率 16.2％）
- 国内旅行業務取扱管理者試験 受講生合格率……72.7％（全国合格率 32.2％）
- 総合旅行業務取扱管理者試験 受講生合格率……64.7％（全国合格率 34.3％）

（エクステンションセンター調べ）

保健センター健康通信

秋以降も要注意の新型インフルエンザ

本学でのこれまでの対策

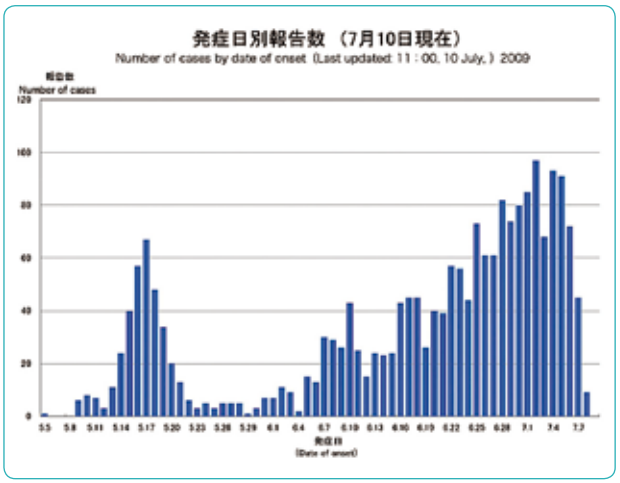
強毒性鳥インフルエンザ（A/H5N1）（以下、新型H5とします）がヒト型に変異し新型インフルエンザとして流行することを懸念して、立命館大学では感染症対策委員会を中心に昨年度からその対策を検討して参りました。これを基に、今回の豚インフルエンザから発生した新型インフルエンザ（A/H1N1）（以下、新型H1とします）が4月24日（金）にメキシコ・米国で流行していることが報道されてからは、総長を筆頭とする緊急対策本部を立ち上げて迅速な対策に当たってきました。

神戸において国内初の感染が5月16日（土）に発表されたわずか4日後の20日（水）に、本学の学生が滋賀県初の感染者として発表されました。大学生の感染者としても国内第1号でした。滋賀県が県内すべての学校を休校とし、本学へもその要請があったため、社会的影響を考慮してBKCでは1週間の休校を判断するとともに、即日、管轄保健所と協力して濃厚接触者を特定し、全員から健康状態などの聞き取り調査を行ったうえで、健康観察・自宅待機を要請しました。2次感染者は出ず、大きな流行に発展しなかったことは幸いです。京都市では、市内で初の感染者（小学生）が21日（木）夜に発表され、深夜に大学へ休校要請があり、翌22日（金）より1週間の休校と致しました。25日（月）には、1人の学生より感染したとの報告がありました。当該学生は21日（木）より発症し、講義に出席して600人以上の接触者があったことが判明しましたが、すでに休校していたことが幸いし、大きな混乱や二次感染の発症もなく経過いたしました。この間、父母の皆様にはご心配をお掛けいたしましたが、冷静にご対応・ご理解を賜りましたことを感謝いたします。

現在の流行状況とこれからの予測

新型H1については、報道の焦点が経済・観光への影響などにシフトし、6月5日には京都府からは「安心しておこしやす」宣言が発表されるなど、世間では感染そのものはもう終わったかの様に受け取られています。しかしながら、まだ決して終わったわけではなく、世界ではまだこの流行は拡大し続けており、6月12日（日本時間）には世界保健機関（WHO）は「感染状況について異なる複数の地域（大陸）の国において地域（コミュニティ）での持続的な感染が認められる」として、2009年改訂ガイ

●図1：発症日別報告数（7月10日現在）



ドラインに基づくWHOフェーズ分類を6とし、「世界的なまん延状況にある（パンデミック）」と宣言しています。特に、冬季に入った南半球（オーストラリアやチリ）での感染が急速に拡大しています。北半球でも、イギリスでは再び5月中旬から学校を中心に感染者数が再上昇しています。また、最初はメキシコだけに重症・死亡例が多くみられましたが、時間の経過と共にアメリカ・カナダ・アルゼンチンなどでも死亡者がみられ始め、現在、致死率は世界全体で0.4%と推計されます。新型H5に比べると弱毒性ですが、誰もが免疫を持たないため感染力が強く、侮ることはできません。

日本においても、いったん終息したかに見えた感染者数は6月に入ってから再び増加に転じ、気温が30℃を超えても感染が継続しています（図1）。海外渡航歴のある者が端緒となる散発事例や、学校における集団発生事例、さらにこれ以外にも散発事例が全国の都道府県で報告されているのが実情です。7月中旬以降、本学でも散発例が続いています。このようなことから、「秋冬に向けて、いつ全国的かつ大規模な患者の増加を見てもおかしくない状況であると考えられる」と厚生労働省は発表し、引き続き注意・対策が必要であると指摘されています。大学では、いかに集団感染を早期に発見して食い止めるかが肝要です。

発熱＝インフルエンザの疑い：流行期の即席診断

新型H1の症状は、基本的には季節性インフルエンザと変わりません。遺伝子の検査（PCR）をしなければ区別ができません。しかしながら、これから蔓延期に入ると全例にPCRを行うことは合理的でないことから、①重症化する恐れのある基礎疾患を有している者、②学校などで感染者が複数存在する場合などを例外として、原則はPCRを行わないこととなりました。新型H1が流行しているか否かを知るすべは限定されます。

そこで、立命館大学では①37.5℃以上の発熱がある人は登校しないで、②医療機関を受診すること、③その旨を学部事務室などに連絡すること、を学生のみなさんにお願いしています。インフルエンザ様症状で欠席している学生が多数存在すれば、その時点で新型H1の流行を疑い、疫学調査を保健所にお願いすることになります。

保健センターからのお願い『体温計を持たせてください』

お子様には、体温計をぜひ持たせてください。毎朝検温する習慣をつけてもらうのも良いでしょう。

体調不良時、特に体温が高い時には登校せずに医療機関を受診するようご指導ください。なお、保健センターは大学構内に存在します。学内に感染症を持ち込まないためには、外部の医療機関をご受診いただきますようご理解ください。

●インフルエンザの感染予防

① 体調管理：栄養・休養
② 衛生管理：手洗い、うがい
③ 感染防御：
（ア）人ごみに出ない
（イ）濃厚接触の危険時：マスク着用
（ウ）手洗い、うがい
④ 感染拡大防止：
（ア）咳エチケット
（イ）自宅安静：発熱時には登校しない
（ウ）医療機関受診
（エ）学校へ報告・連絡

詳しくは、下記の保健センターのホームページをご覧ください。

※立命館保健センター
http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hoken/medical-j.html
立命館大学ホームページ → 各センター等 → 保健センター

学生のスポーツ&イベント

SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075−465−7863

陸上競技部

関西学生陸上競技対校選手権大会
男子陸上競技部が
12年ぶり2度目の優勝!
総合得点　169点

女子陸上競技部は準優勝!
総合得点　126点

（4月30日〜5月17日
西京極総合運動公園陸上競技場、長居第二陸上競技場）

4月30日、5月8、9、16、17日 の5日間にわたって開催された第86回関西学生陸上競技対校選手権大会にて、男子陸上競技部が12年ぶり2度目の総合優勝を果たした。

また、女子陸上競技部も同大会にて総合得点126点を記録し、準優勝した。

主な成績

▶男子ハーフマラソン
優勝　西野智也（経済4）
▶女子10,000m
優勝　小島一恵（経営4）
2位　沼田未知（理工2）
▶男子100m
優勝　小谷優介（経済2）
▶男子400m
優勝　小野利明（経済3）
▶男子400mリレー
優勝（大会タイ記録：39秒86）
堀江新太郎（経済1）
小谷優介（経済2）
坂本兼玲（経済3）
土手啓史（経済4）
▶男子110m障害
優勝　玉井秀樹（経営4）
▶男子走り高跳び
優勝　佐々木竜一（文4）
▶男子1500m
優勝　今崎俊樹（経営1）

●女子陸上競技部

金栗記念選抜陸上中長距離熊本大会
（4月4日 熊本県民総合運動公園陸上競技場）

大学の部
▶女子5000m
優勝　メリー・ワンガリ・ワンジョイ
（立命館アジア太平洋大学APS 5）
3位　小島一恵（経営4）

高校の部
▶女子3000m
優勝　伊藤 紋（立命館宇治高校3年）

重量挙部

第6回全日本学生
ウエイトリフティング選抜大会
（4月19日 さいたま記念総合体育館）
▶女子63kg級
優勝　木下ちひろ（産社2）

自転車競技部

全日本学生選手権クリテリウム大会
（4月26日 びわこ・くさつキャンパス（BKC）外周道路）
▶優勝　石井 愛（経済2）

全国の大学から約150名の選手が参加し、女子の部は外周道路7周回で行われた。

大会では、併設のRitsクリテリウム大会も盛大に行われ、強風と時折の小雨にもかかわらず、3歳児からプロ選手まで総勢600名の選手が、BKC構内を駆け抜けた。また、当日は、オープンキャンパスも同時に行われ、昼休み時には高校生や父母の方々もレースを観戦していた。

アメリカンフットボール部

第59回長浜ひょうたんボウル
（4月29日 滋賀県立長浜ドーム）
▶日本大学フェニックスに快勝!
○42−16　日本大学

柔道部

京都学生・学生女子大会
（5月3日 京都産業大学第2体育館）

女子の部
▶団体優勝　リーグ戦3戦全勝
（4年連続7度目）

フランスジュニア国際大会女子
（5月9日〜10日 フランス・リヨン）
▶52kg級
優勝　堀井江梨子（産社1）

水泳部

第85回日本選手権水泳競技大会
シンクロナイズドスイミング競技
（5/2〜5/5 東京辰巳国際水泳場）
▶ソロ
2位入賞　乾友紀子（経営1）
▶チーム
日本優勝
▶デユエット
優勝　小林千紗（経済4）
乾友紀子（経営1）
8位入賞　上南侑生（経済2）
松本千尋（経営3）

競技はソロ、チーム、デュエットの順で行われ、ソロには上南さん、乾さんが出場。乾さんがテクニカルルーティン（技術点）、アーティスティックインプレッション（芸術点）ともに安定した演技で2位入賞を勝ち取った。チームでは、小林さん、乾さんがメンバーとして参加する日本チームが、2位に大差をつけて優勝。

デュエットは乾・小林組、上南・松本組が出場し、乾・小林組が優勝。上南・松本組も8位入賞と力強い演技で会場の注目を集めた。

7月26日からローマで開催される世界選手権へは小林さん、乾さん両選手がチーム・デュエットでの代表参加が見込まれ、更なる活躍が期待される。

アーチェリー部

第38回全日本フィールドアーチェリー選手権大会

（5月3日～5日 群馬国際フィールドアーチェリー）

▶リカーブ部門女子個人
優勝　林 享美（政策3）

硬式野球部

関西学生野球六大学春季リーグ戦

（4月4日～6月3日 わかさスタジアム京都 他）

▶3位
ベストナイン
柳田一喜（法4）
上内辰哉（文4）

CULTURE/ARTS 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075−465−8167

2009年度新歓祭典を開催!!

（4月25日 びわこ・くさつキャンパス）

今年は「新歓祭典～君と創る祭～」という

テーマで新入生・在学生・地域住民の方々等を対象に、参加された全ての人が楽しめるものを目指した。

サークルや有志団体による企画・展示には、色とりどりの衣装に身をつつんだ新入生や、親子連れの地域住民の方々が行列を作った。

クライマックスには、セントラルアーク内にあるステージで立命館大学吹奏楽部応援団によるパフォーマンスが行われ、素晴らしい演奏に参加者の心がひとつになった。

考古学研究会

文献に記されていない、平安時代前期頃と推定される未知の寺院の存在を証明する遺物を発見!!

考古学研究会が、松尾山（京都市西京区）山中での調査中に文献に記されていない、平安時代前期頃と推定される未知の寺院の存在を証明する遺物を発見した。遺物は、平安時代のものと思われる瓦や須恵器で、遺物に加え人工的に造成されたひな壇上の平坦地なども見つかった。

近年、考古学研究会は、松尾山古墳群の分布・測量調査に取り組んでおり、日頃の地道な努力が中世期の遺物の発見という大きな成果につながった。今後の益々の活躍が期待される。

バトントワリング部

第34回全日本バトントワリング選手権大会

（3月27日～29日 大阪市中央体育館）

▶チームA　団体優勝
▶チームB　3位入賞

本大会の結果を受けて、8月6日から9日までオーストラリア・シドニーにて開催される「第5回WBTFインターナショナルカップ」に、日本代表として本学バトントワリング部チームA・Bが共に出場することが決定した。

将棋研究会

第38回全国支部将棋名人戦東西決戦

（5月6日 東京「将棋会館」特別対局室）

▶支部名人
優勝（2連覇）　古屋皓介（文4）

第41回草津宿場まつり

立命館大学課外活動団体が多数参加!!

（4月26日 JR草津駅周辺）

このイベントは毎年、地域の方によって開催されるもので、旧草津宿の歴史や伝統を身近に楽しむことができ、草津市の春の風物詩としても知られている。

様々なイベントが開催される中、本学からも多くの課外活動団体が参加した。

美術研究部は無料で来場者の似顔絵を描くイベントを行った。多くの来場者が列をつくって並び、1時間待ちになる程の人気だった。美術研究部の森川摂さん（文3）は「毎年多くのお客さんが並んでくれています。大学と地域の距離が近づくと感じられるので頑張っています。」と笑顔で語った。

京都新聞社 編集局長 上野孝司氏が講義

5月21日(木)、衣笠キャンパスで、産業社会学部「ジャーナリズム論」(担当:柳澤伸司教授)の講義が行われました。今回は京都新聞社 編集局長 上野孝司氏を講師に迎え、「新聞作りの現場から見た現代社会」をテーマに講義を行いました。上野孝司氏は立命館大学法学部の卒業生です(1976年卒)。

講義では、当日の京都新聞・朝刊を教材として使いながら、現代社会の実像に対してアプローチ。日本の政治・経済、国際情勢、格差社会、医療現場の不安、犯罪の変化、人間関係の希薄などのキーワードから、現在の状況を詳細に分析しました。そのうえで、閉塞状況が極まる日本は昭和10年代の様相と似ていると指摘。かつての日本はこの状況を打破するために戦争を起こしたと現在の状況について危機感を示しました。

また、「現在のメディアは、新聞だけではなく、テレビ、ラジオ、書籍・雑誌、ネット、モバイルなど多様化している。今後は電子新聞、動画利用などが予想される。新聞は100年に一度の危機と言われている。しかし、新聞は社会正義を目指した『論陣』を張ることができるし、『ニュースの分析・展望』、『総合的な知識を得る』ことができる。新聞は朝刊分で新書1冊分の情報量がある。4年間で新聞を読むことを習慣づけてほしい。新聞は100年後の読者に対して、歴史を刻む崇高な仕事である。若い学生の皆さんはぜひとも新聞記者を目指して欲しい」と後輩にエールを送りました。

受講した学生は約90名。受講後は「現役の第一線で働いている方のお話が聞けて有意義であった」、「新聞づくりの大変さが実感できた」、「インターネット社会において、最もジャーナリズムを発揮しているのが新聞だということがわかった」、「幅広い知識を得るためには新聞を読まなければならないことを学んだ」など、多数の感想が寄せられました。

銭湯を英語で紹介 政策科学部生が冊子「The Sento: Japanese Public Bathhouses in Kyoto」を作成

日本固有の文化である銭湯に外国人にも親しんでもらおうと、英語で京都市内の銭湯を紹介した冊子「The Sento : Japanese Public Bathhouses in Kyoto」を政策科学部の学生が作成しました。外国人には分かりにくい入浴の仕方やマナーも丁寧に解説しています。

政策科学部では、2007年度から専門教育と連携した新しい英語教育の一貫として、地域貢献型英語教育プログラム“Decoding Kyoto Project”(【decode】は「暗号を解読・翻訳する」の意味)を開始しました。

“Decoding Kyoto Project”は、学生の自主的活動、フィールドワーク、グループワークに基づいて研究を行なう2回生のゼミナールのプロジェクトの一つです。これらに英語の実践的学習の要素を加え、外国人住民や観光客にとって京都をもっと暮らしやすく楽しめる町にするために、重要な情報の英語翻訳を行なっています。

2008年度は京都市に多く点在し、一つの文化となっている「銭湯」をテーマに、学生が独自の調査を重ねました。

冊子はB6判72ページ。金閣寺、清水寺やJR京都駅などの観光スポットや駅に近い23店舗を紹介しています。営業時間や定休日、タオルの貸し出しの有無などの一覧表、薬湯やタイル絵などの特徴も記載しています。

10人の学生が1年がかりで作成しました。

冊子は紹介した銭湯や、外国人向けの観光案内所などに置いてあります。内容は立命館大学ホームページからも閲覧できます。問い合わせは、立命館大学広報課 TEL 075-813-8300。

産官学で映画人材育成 松竹京都撮影所 新施設が完成

3月10日、松竹京都撮影所(京都市右京区)のリニューアルに伴い、同撮影所内に映像学部生が使用する実習施設が完成しました。実習施設はスタジオ2棟、編集施設、教室、メディア収蔵庫などからなり、2009年度から主に3回生が使用しています。

施設は歴史と伝統を誇る時代劇撮影所に隣接しており、学生たちはプロの制作現場に実際に身を置きながら、映像制作を学んでいきます。

松竹(株)と立命館は、京都府の支援もえて、映像産業の発展を担う人材育成および映画・映像技術の研究開発、京都を中心とした文化の創造・発展への寄与を産学連携により行っていくことを目指しています。今回の松竹京都撮影所内への立命館実習施設の設置は、その施策の一つです。

当日はこの実習施設が公開され、関係者約400人が最新の設備を見学しました。

竣工式では、松竹の迫本淳一社長が「日本でも珍しい産学公の連携施設。人材育成や技術開発に対応できる」とあいさつ。長田豊臣理事長も「この実習施設ならプロのスタッフの中で学べる。制作もプロデュースもできる人材を育てたい」と意欲を示しました。

東京大学、京都大学、慶應義塾大学、早稲田大学と日米研究インスティテュートを開設

このたび立命館大学は東京大学、京都大学、慶応義塾大学及び早稲田大学とアメリカ・ワシントンD.C.にNPO法人「日米研究インスティテュート」を共同で設立しました。複数大学共同による法人設置は初めての取り組みです。

国際社会の構造的変化の中、日米両国は様々な課題に直面しています。こうしたグローバルな問題を解決するため、「日米研究インスティテュート」は、学術的な研究基盤に立ちながら、現実的なニーズに応える研究を発信します。また、世界の研究者との共同研究を通じ、新しい時代の要請にこたえる日米の若手研究者を育成していきます。

政策論争と政策情報の中心であるアメリカ/ワシントンD.C.で、独立した視点から、日米の大学の研究ネットワークを駆使し、日米の大学、実業界からの人材をフルに活用した研究活動を行い、従来にない成果を挙げていくことを目指します。

高齢者の運動量 電子タグで把握 島川博光・情報理工学部教授がシステム開発

島川博光・情報理工学部教授と（株）ゴビ（京都市下京区）は、電子タグを利用して高齢者の生活状況を把握するシステム実験の成果を発表しました。一日の行動や運動量の変化が数値で把握でき、今後は高齢者の介護や安全確保に生かせるよう実用化を進めていきます。

島川教授は防災システムリサーチセンター（BKC）内に、高齢者が生活すると想定した1LDKの部屋を再現し、床やふすま、生活用具や家電類などに3000枚以上の薄い電子タグ（約5センチ四方）を張り付けました。

高齢者の両腕と足に小型の読み取り機を付け、タグと電波をやりとりすることで位置や移動経路が分かるようにしました。家電類や布団など持ち運びするものにもタグを付け、掃除や布団の上げ下ろしといった生活状況を幅広く記録できます。

実験は、介護や生活面の安全確保などに活用できるといい、将来的には、老人ホームや住宅への導入を見込んでいます。

学生がデザインした「新フードコート」がオープン

びわこ・くさつキャンパス（BKC）に、学生がデザインやメニュー作りに参加した「新フードコート」がオープンしました。

従来の食堂の混雑が激しいことから、ユニオンスクエア2階の事務室なども「新フードコート」として改装。学生からキャンパス整備スタッフを募集し、延べ約1130人にアンケートするなどして意見を反映させました。

室内の床や天井は木目調で、テーブルや椅子（922席）をゆったりと配置。空間デザインを担当した経済学部2回生 藤沢直人さんは、「これまでの食堂の無機質な印象を一新し、温かみを感じてもらえるよう工夫を凝らした」と語ります。BKCの約550人の留学生にも配慮し、特定の動物の肉を使わないメニューなども用意。体育会運動部員向けに、必要なカロリーや栄養素を計算したアスリート食もあります。

メニュー作りを担当した経済学部3回生 岡田紗知さんは「多くの要望を新鮮味のある献立やデザートに生かした。楽しく過ごせる食堂になったと思う」と話しました。

村上正紀・立命館副総長が紫綬褒章を受章

村上正紀・立命館副総長は「化合物半導体デバイス用のオーミック・コンタクト材料の開発」が評価され、紫綬褒章を受章しました。専門は金属薄膜学。金属と化合物半導体との間に「コンタクト材」と呼ばれる中間層を入れると電気が流れやすくなる現象を発見しました。この成果はその後、携帯電話の小型化、軽量化などにも活用されました。

村上正紀副総長は大学院を修了後は、20年近くアメリカで研究をしていました。コンタクト材の開発に成功したのはIBMワトソン研究所の部門マネジャー時代。偶然、理論に反して金属と化合物半導体に電気が通りやすくなる現象を見つけました。「共同研究者に恵まれました。彼らとの共同受賞です」。研究に対する信条は「挑戦は前進、満足は後退」。また、「物事を考える際にはまずは孤独になり、一人で考え抜くことが重要だと思っています。共同研究では異なった意見を大きな耳を持って聞くことを心がけています」と語ります。

2007年に京都大学から立命館へ。立命館副総長とともに、立命館グローバルイノベーション研究機構（R-GIRO）の機構長代理を務めています。

本の出版

立命館アジア太平洋大学（APU）誕生秘話が書籍化

このたび「立命館アジア太平洋大学誕生物語～世界協学の大学づくり～」が中央公論社より出版されました。

本書は、世界81カ国・地域から約2600人の留学生が集い、日英2カ国で授業を行っているAPUがどのような経緯で開学したのか、また、開学当時の学生たちが何を期待し、いかに奮闘したのかなどについて綴っています。

主に綴られているのはAPU創設に向けて第一歩を踏み出した1994年から開学を迎えた2000年4月頃までと開学からの2年間。1期生、2期生の奮闘を中心に描いています。

日本にとって緊急の課題である大学のグローバル化を進めるAPUの歴史を知る上でも非常に興味深い内容となっています。

- APU誕生物語編集委員会 著
- 体 裁：新書判
- 定 価：1,208円（本体1,150円）
- 発 行：中央公論新社

立命館京都文化講座「京都に学ぶ」ブックレット第1期（4冊）を発行

このたび立命館大学文学部は、京都文化講座「京都に学ぶ」ブックレットを発行しました。

このブックレット第1期（4冊）は、2007年度に東京キャンパスで行なわれた「立命館京都文化講座」の講義内容を書き下ろし、テーマごとにまとめたものです。

京都を「京の色彩（いろどり）」、「京の乱」、「京の荘厳と雅（しょうごんとみやび）」及び「京の生活（くらし）」といった視点から考察・解説。「京都」について、いけばな、公家の生活、芸能、映画、文学、絵画、動乱の歴史など、さまざまな切り口で考察しております。

執筆は、華道次期家元 池坊由紀氏、冷泉家25代当主 冷泉為人氏や立命館大学文学部教授陣などです。

- 書 名：立命館大学京都文化講座「京都に学ぶ」
  ①京の色彩（いろどり）、②京の乱、
  ③京の荘厳と雅（しょうごんとみやび）、④京の生活（くらし）
- 定 価：各750円（税込）
- 体 裁：A5判　並製　ブックレット　112頁
- 発 行：（株）白川書院

RITSUMEX'09 in 名古屋　オール立命館校友大会

立命館大学父母教育後援会共催

プレミアムトークショー

場所：センチュリーホール（10:00開場）／参加無料：事前申込制
申込期間：7月1日（水）～8月31日（月）必着

張 富士夫 氏

オープニングパフォーマンス／11:00～11:10

立命館大学在学生によるオープニングパフォーマンス

開催記念講演会／11:10～12:10

テーマ：日本の将来に向けたひとづくり（仮）
講師：張 富士夫 氏（トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長）

トークセッション／12:30～14:00

テーマ：求められる人物像（仮）
コーディネーター：本郷 真紹 氏（学校法人立命館副総長）
パネラー：張 富士夫 氏（トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長）
川口 清史 氏（学校法人立命館総長）
古田 敦也 氏（プロ野球解説者 元ヤクルト監督）
武田 美保 氏（元シンクロナイズドスイミング日本代表）

古田 敦也 氏（'88・経営）

武田 美保 氏（'99・産社）

主催／立命館大学父母教育後援会、立命館大学校友会、立命館大学愛知県校友会・三重県校友会・岐阜県校友会・静岡県校友会　共催／立命館大学、立命館アジア太平洋大学　後援／愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社他

同時開催

オープンキャンパスin名古屋

どなたでも参加OK

場所：イベントホール
13:30～17:30（受付13:00～）

※入試相談、模擬講座、立命館大学各学部のPRコーナーも設置!

プログラム

2009　9月27日［日］ 11:00 ▶ 18:00　場所 名古屋国際会議場

プレミアムトークショー お申込方法

希望者は住所、代表者氏名、年齢、職業、電話番号、学生氏名、学生所属学部・回生、参加人数、を明記の上、下記までお申し込みください。
順次参加証をお送りいたします。

1. ハガキの場合 …… 〒461-0004 名古屋市東区葵3-15-31 住友生命NTビル14F オール立命館事務局宛
2. FAXの場合 …… 052-937-7822
3. e-mailの場合 …… fubo@denko-ag.co.jp

申込締切：8月31日（月）

■交通アクセス（駐車場に限りがございますので、公共交通機関をご利用ください）

名古屋駅	JR東海道本線 JR中央本線 名鉄線	金山駅	地下鉄名城線（左回り） 地下鉄名港線	西高蔵駅 日比野駅	徒歩 約5分	名古屋国際会議場	所要時間 約30分
名古屋駅	地下鉄東山線	栄駅	地下鉄名城線（左回り） 地下鉄名港線	西高蔵駅 日比野駅			
名古屋駅	地下鉄桜通線	久屋大通駅	地下鉄名城線（左回り） 地下鉄名港線	西高蔵駅 日比野駅			
中部国際空港（セントレア）	名鉄空港特急	金山駅	地下鉄名城線（左回り） 地下鉄名港線	西高蔵駅 日比野駅			所要時間 約40分

■お問い合わせ　立命館大学父母教育後援会事務局（校友・父母課）
〒604−8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel 075-813-8261
http://www.ritsumei.ac.jp/mng/fubo/index.htm

"名古屋開府400年プレ記念事業イベント"

RITSUMEX '09 in 名古屋 オール立命館校友大会2009プレイベント

どなたでも参加OK

9月26日㊏ 12:00～18:00　名古屋栄 久屋大通公園 もちの木広場

～未来に向けて～ 環境への意義・重要性、産業観光の発展、歴史観光の良さをアピールしていきます。

ステージアトラクション

学生による楽器演奏、合唱系のアトラクションあり、ダンスパフォーマンスあり、パワーあふれるステージのほか、環境PRやピンクリボン運動PRのトークショーなどが繰り広げられ、イベントを盛り上げます。

出展ブース

立命館関係（環境への取り組み、大学PR）、京都観光紹介のほか、名古屋のイベントPR、ピンクリボン運動PRなど盛りだくさんのブース出展を予定。

ユンソナ来場！

主催／立命館大学校友会、立命館大学愛知県校友会・三重県校友会・岐阜県校友会・静岡県校友会、（財）名古屋観光コンベンションビューロー
共催／立命館大学、立命館アジア太平洋大学　後援／名古屋市、名古屋開府400年記念事業実行委員会、中日新聞社
■名古屋開府400年祭パートナーシップ事業

各種講座のご案内

◎2009年度後期 京都文化講座「大阪・京の色彩（いろどり）」

大 阪

コーディネーター：木村一信（立命館大学文学部長）、永田 靖（大阪大学文学部教授）

［開講期間］2009年10月5日（月）～2009年12月14日（月）
［時　間］14：00～15：30
［会　場］立命館アカデメイア＠大阪 6Aセミナールーム
［受講料］8回 13,000円（1回 2,000円）
［定　員］80名
［お問合せ］立命館大阪オフィス　tel. 06-6201-3610
［共　催］大阪大学21世紀懐徳堂、立命館大学文学部、立命館大阪オフィス
［後　援］大阪府、大阪市教育委員会（申請予定）

	開催日	プログラム	講師名
第1回	10月 5日（月）	「花のこころ」	池坊由紀（華道池坊次期家元・立命館大学）
第2回	10月19日（月）	「大坂を舞台にした能－世阿弥の『難波梅』を読む」	天野文雄（能楽研究・大阪大学）
第3回	10月26日（月）	「祇園祭と北野祭」	三枝暁子（日本中世史・立命館大学）
第4回	11月 2日（月）	「上田秋成の大阪」	飯倉洋一（日本近世文学・大阪大学）
第5回	11月 9日（月）	「京の美術・絵画」	西林孝浩（東洋美術史・立命館大学）
第6回	11月30日（月）	「文学と映画～大阪の色、京の色」	上倉庸敬（美学・日本映画・大阪大学）
第7回	12月 7日（月）	「文人たちの京都―花街とその周辺で―」	加藤政洋（地理学・立命館大学）
第8回	12月14日（月）	「近代大阪の絵画と色彩」	橋爪節也（日本美術史・大阪大学）

◎2009年度 立命館大阪オフィス講座

大 阪

［開講期間］2009年9月9日（水）～2010年3月24日（水）
［時　間］14：00～15：40
［会　場］立命館アカデメイア＠大阪 6Aセミナールーム
［受講料］1回1,000円（20回以上の一括申込 20,000円）
［定　員］各90名
［お問合せ］立命館大阪オフィス　tel. 06-6201-3610

	開催日	講演タイトル	講師名		
1	2009年 9月 9日（水）	テレビが今大きく変わる!?	川端 義明	（財）NHKサービスセンター NHKホール支配人（'75年 法学部卒）	
2	2009年 9月16日（水）	日本の所得税	浪花 健三	法学部 教授	
3	2009年 9月30日（水）	家族介護者支援のリアリティ ―男性介護者の研究から―	津止 正敏	産業社会学部 教授	
4	2009年10月 7日（水）	運動で生活習慣病を予防しよう	浜岡 隆文	鹿屋体育大学 教授	スポーツ健康科学部（2010年4月開設構想・設置認可申請中）テーマ「健康の科学 ～健康で長生きするために」（4～7：4回シリーズ）
5	2009年10月14日（水）	健康づくりと運動ガイドライン	田畑 泉	独立行政法人 国立健康・栄養研究所 健康増進プログラムリーダー	
6	2009年10月21日（水）	筋力トレーニングで若返り	藤田 聡	経済学部 准教授	
7	2009年10月28日（水）	健康づくりと食生活	海老 久美子	国立スポーツ科学センター スポーツ医学部研究員	
8	2009年11月 4日（水）	金融危機と会社財務	松村 勝弘	経営学部 教授	
9	2009年11月11日（水）	国際社会と日本の人権	田島 義久	弁護士（大阪弁護士会）（'74年 法学部卒）	
10	2009年11月18日（水）	国際政治とラテンアメリカの新しい流れ	松下 冽	国際関係学部 教授	
11	2009年11月25日（水）	光を神経シグナルに変換する網膜の成り立ちと機能	小池 千恵子	薬学部 准教授	薬学部・生命科学部 テーマ「ライフサイエンスの最前線」（11～14：4回シリーズ）
12	2009年12月 2日（水）	極限環境微生物の探索と利用	今中 忠行	生命科学部 教授	
13	2009年12月 9日（水）	バイオシミュレーションとは	野間 昭典	生命科学部 教授	
14	2009年12月16日（水）	シアノバクテリアで解き明かす体内時計のしくみ	寺内 一姫	生命科学部 准教授	
15	2010年 1月13日（水）	京料理解体新書	高橋 拓児	「木乃婦」三代目若主人（'90年 法学部卒）	
16	2010年 1月20日（水）	中国農業の現状とその問題点	高屋 和子	経済学部 准教授	
17	2010年 1月27日（水）	パルグループ 発展の秘密	井上 英隆	株式会社 パル 代表取締役会長（'59年 法学部卒）	
18	2010年 2月 3日（水）	第1回：機能性食品	西野 輔翼	グローバル・イノベーション研究機構 教授	健康食品の展望（18～20：3回シリーズ）
19	2010年 2月10日（水）	第2回：食品因子を活用したがん予防			
20	2010年 2月17日（水）	第3回：健康食品の社会的位置付け			
21	2010年 2月24日（水）	新経済大国インドを知る100分間	小田 尚也	政策科学部 准教授	
22	2010年 3月 3日（水）	ニュースを映画館で観た時代	川村 健一郎	映像学部 准教授	
23	2010年 3月10日（水）	機械のストレスを測る	岩清水 幸夫	理工学部 教授	
24	2010年 3月17日（水）	減災を実現する情報技術	仲谷 善雄	情報理工学部 教授	
25	2010年 3月24日（水）	教えられたこと限りなし	川本 八郎	学校法人立命館 顧問	

◎2009年度 立命館東京キャンパス京都文化講座

東 京

過去2年好評だった東京キャンパス「京都文化講座」を今年も開講します。テーマ型の連続講座で、9月～10月に2テーマ、後期（12月予定）に2テーマ、合計4テーマを開講する予定です。　＜資料請求＞ 東京キャンパス 03-5224-8188　http://www.ritsumei.jp/tokyocampus/index_j.html

■『徒然草』と御室仁和寺の風景＜土曜日：全4回 11：00～12：30＞

コーディネーター：中本 大（立命館大学文学部教授）

開催日	講演タイトル	講師名
9月 5日（土）	私たちは『徒然草』を読めているか ―『徒然草』の謎に迫る―	中本 大（文学部教授）
9月19日（土）	『徒然草』と仁和寺 ―兼好と弘融の交流を軸として―	横山和弘（京都文化博物館学芸員）
10月 3日（土）	中世仁和寺の歴史と文化	米田真理子（大阪大学講師）
10月17日（土）	『徒然草』を通して見る洛北の歴史的風景	中本 大（文学部教授）

■激動の政治空間・幕末京都に迫る＜火曜日：全5回 時間未定＞

コーディネーター：山崎有恒（立命館大学教授）

	講演タイトル	講師名
第1回	幕末の京都と徳川将軍家の動向（仮）	奈良勝司（立命館大学講師）
第2回	薩長同盟再考（仮）	家近良樹（大阪経済大学教授）
第3回	幕末の京都と薩摩藩の動向（仮）	佐々木克（京都大学名誉教授）
第4回	坂本龍馬をめぐる新視点（仮）	青山忠正（仏教大学教授）
第5回	政治空間としての幕末京都	山崎有恒（立命館大学教授）

学生部による
父母教育後援会だより

誌上相談室

学生部に寄せられるご相談のなかから、よくある内容を類型化してお伝えします。
お子さまとのコミュニケーションのお役に立てば幸いです。

Q 大学に入学してから子どもの帰りが遅く家庭内でのコミュニケーションができません。様子を聞こうとしても素直にこたえてくれず、様子の変化にとまどっています。

A 親元を離れ一人暮らしをはじめたお子さまをお持ちの父母の方も、自宅から通学するお子さまをお持ちの父母の方も、大学生となったわが子の変化を感じておられることと思います。また、自宅生も上回生となり正課や課外活動のため下宿するケースもありますが、親としては「危なっかしくて見ていられない」というのが正直なお気持ちではないでしょうか。

一回生は、正課だけでなく課外活動、アルバイトなど、新たな出会いや経験をする機会がおおきく広がります。また、上回生になるとゼミやサークル・アルバイト先で責任ある立場を任されるなど、明確な目的意識や責任感を自覚するようになっていきます。

大学生活が始まったばかりの一回生は、大学での小集団授業（基礎演習や研究入門など）やサークルなどでの新しい人間関係に目が行くため、これまでは家族の間で話していた話題も友人や先輩との対話が中心となり、家族に対する態度が変化したようにみえますが、決して家族への思いがなくなったり冷たくしようとしているわけではありません。

ご家族の方々も戸惑いどうすればよいかと心配だとは思いますが、学生自身にとって、これら人間関係の量的な広がりと質的な変化は、自立していく過程での大切な経験となりますので、慌てず焦らず見守ってあげていただきたいと思います。

ただし、まだまだ未熟な面はありますので、お子さまを信頼して任せる部分と規律や約束事を守らせる部分のバランスをとりながら、「いつでも味方でいるよ」という姿勢で接してみてはいかがでしょうか。

学生サポートルームからひとこと

子どもが大学生となって、帰宅が遅くなったり、語りかけてもコミュニケーションをとることを嫌がったり、親としてはまだまだ「未熟なわが子」を心配しているにもかかわらず、子どもは「もう大人だからほっといて欲しい」と親のことを煩わしく思うこともあります。

生活環境の変化は、これまでの日常生活を一変させることもあり、親も子どもも期待と不安のあいだで揺れる場合もあります。

また、これまで、親の目の届く範囲で生活していた子どもが、急に目の届かない所に行ってしまったと感じられ、子どもが何を考えているのかわからなくなる不安や気苦労が絶えないことでしょう。

しかし、お子さまが、自分で考え行動するという貴重な経験を自らの選択でするようになっていると考えてみてはどうでしょうか。子どもが大学生となり、自分の人生を自分の足で歩み始めたことは、「大人と子どもの関係」から「大人と大人の関係」へと続く道程の第一歩でもあります。

まだまだ社会経験も乏しく、ともすれば取り返しのつかない失敗をするのではないか、という心配はお持ちでしょう。であれば、なおのこと親としてできることは、お子さま自身が納得いく選択を自分でできるようアドバイスすることではないでしょうか。

先ほども申し上げたように、「大人と大人の関係」を築くには、親の子離れ、子の親離れが必要です。その過程では、親の言い分と子どもの言い分が衝突することもありますが、双方がお互いに納得できる話し合いを重ねることで解決していくことが大切です。

こんな場合はここへ

各種取扱い窓口のご紹介

事　項	内容例	取扱い窓口	摘　要
カリキュラムについては	卒業に必要な単位が知りたい	各学部事務室	学部ごとに学則・履修規定で定められています。履修要項を熟読してください。わからない点は気軽にご相談ください。
	成績について知りたい		年1回、ご父母にあてて前年度の成績表をお送りしています（2回生以上は5月に前年度1年間、1回生は10月に前期セメスターの成績を送付）。
	教員免許状をとるためには（教職課程の履修について）		1回生からの計画的履修と自主的自発的な努力が必要です。各時期のオリエンテーションには必ず出席するようお子さまにご助言ください。
各種変更届出は	学生の現住所・電話番号などの変更		「Campus web」より学生本人が随時更新してください。
	保証人または学費請求先の変更（住所、姓名など）	【衣笠】各学部事務室 【BKC】学びステーション	学生本人が窓口にて所定の変更届を提出してください。保証人のみの情報変更についても、左記の窓口で受け付けますのでご注意ください。
学籍や進路に関する相談は	休学・復学・退学・再入学	各学部事務室	各学部（研究科）履修要項を参照してください。
	転学部・転学科・転コース・転学系		
	海外留学したい	国際教育センター 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	留学プログラムの相談窓口です。募集要項の配布、協定校の情報提供をしています。
	卒業後も勉学を続けたい	各学部（研究科）事務室	大学院進学相談・資料請求ができます。また、聴講生・科目等履修生の制度もあります。
	就職について相談したい	キャリアオフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	回生にかかわらず、適宜相談してください。
	難関国家試験・資格試験等に備えたい	エクステンションセンター 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	各種試験対策講座や、スキルアップのための講座を開講しています。
学費や経済的な相談は	学費納入方法についての問い合わせ	財務経理課	郵送される「学費案内」に同封の振込用紙で銀行からお振込ください。納入期限にご注意ください。
	学費納入が困難なとき	学生オフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】 または各学部事務室	お早めにご相談ください。
	奨学金を受けたい	学生オフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	日本学生支援機構奨学金をはじめ、学内奨学金その他民間奨学財団奨学金等があります。父母教育後援会の奨学金についてもこちらにお問い合わせください。
課外活動について	課外活動上の問題など	学生オフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	入・退部や練習・合宿などの日常の問題はキャプテンまたは先輩などに相談してください。相談しにくい問題は部長・顧問の先生または学生オフィスやスポーツ強化オフィスにご相談ください。
事故・事件・トラブルなどの相談は	交通事故、訪問販売、盗難、災害などのトラブルに見舞われたとき	学生オフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	秘密厳守でお子さまの相談にのります。

お子さまの学生生活について、疑問やご相談にお応えする窓口をケース別にご紹介します。
お子さまがお悩みの際には以下の取扱い窓口に行くようご助言ください。

事　項	内容例	取扱い窓口	摘　要
からだやこころの相談は	けが、病気になったとき	保健センター【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	保健センターは診療所を併設し、診療や応急処置を行っています。 なお、診察には保険証が必要です。（朱雀を除く）
	こころとからだに悩みがあるとき		どんな小さな問題でも相談に応じます。 他の病院への紹介もします。
	悩みや相談があるとき	学生サポートルーム【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	お子さまの立場に立って一緒に考えたいと思います。個人の秘密は守ります。
その他	落し物をした・落し物をひろった	キャンパスインフォメーション【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	毎日、非常に多くの落し物があります。所持品の管理には十分ご注意いただくようお子さまにご助言ください。持ち主のわかる落し物については、本人に連絡をしています。 ●落し物をした場合 学内での落し物については次のように取り扱います。 1. 持主の分かる拾得物は、各学部事務室またはびわこ・くさつキャンパス管理室受付で保管を。学部事務室掲示板に呼び出し掲示もしくはBKCキャンパス事務課よりメールにてお知らせします。 2. 持主の不明な拾得物については、キャンパスインフォメーション（BKCはキャンパス管理室受付で保管・返却等を扱っています（落し物は、拾得日から6ヶ月間保管します）。 学生証の再発行は各学部事務室で手続きが必要です。
	父母が本学の図書館を利用したい	【衣笠】衣笠図書館 【BKC】メディアセンター メディアライブラリー	父母教育後援会会員であることを条件に、図書館の利用が可能です。利用手続等については、衣笠図書館またはメディアセンター・メディアライブラリーへお問い合わせください。

各窓口連絡先（電話番号）

衣笠キャンパス	
法学部事務室	075-465-8175
産業社会学部事務室	075-465-8184
国際関係学部事務室	075-465-1211
政策科学部事務室	075-465-7877
文学部事務室	075-465-8187
映像学部事務室	075-465-1990
学生オフィス（衣笠）	075-465-8168
キャリアオフィス（衣笠）	075-465-8172
エクステンションセンター（衣笠）	075-465-8297
保健センター（衣笠）	075-465-8281
学生サポートルーム（衣笠）	075-465-8168
国際教育センター（衣笠国際教育課）	075-465-8229
キャンパスインフォメーション（衣笠）	075-465-8144
衣笠図書館	075-465-7880
朱雀キャンパス	
財務経理課	075-813-8164

びわこ・くさつキャンパス		
経済学部事務室		077-561-3940
経営学部事務室		077-561-3941
総合理工学院教学課	理工学部	077-561-2625
	情報理工学部	077-561-5202
	生命科学部・薬学部	077-561-5021
学びステーション		077-561-4972
学生オフィス（BKC）		077-561-2854
キャリアオフィス（BKC）文系担当		077-561-3942
キャリアオフィス（BKC）理工系担当		077-561-2626
エクステンションセンター（BKC）		077-561-2853
保健センター（BKC）		077-561-2635
学生サポートルーム（BKC）		077-561-2854
国際教育センター（BKC国際教育課）		077-561-3946
キャンパス管理室（BKC）		077-561-2617
メディアセンター		077-561-2634
メディアライブラリー		077-561-5059

秋のオープンカレッジ・アカデミック京都ウォッチング開催のご案内

秋のオープンカレッジ

2009年11月21日（土）

［場所］衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス　［内容］講演会・学部別懇談会

アカデミック京都ウォッチング

2009年11月22日（日）

■父母教育後援会会員様には別途ご案内を送付いたします（10月上旬発送予定）。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

2009年度 立命館大学入学記念アルバム｜FRESH BOOK 2009

入学時の貴重な思い出が詰まった保存版アルバム

◎ 価　　格：10,000円（消費税・送料込み）
◎ 発　　行：立命館生活協同組合
◎ 協　　力：立命館大学広報課
◎ 掲載内容：学長の祝辞、入学式、衣笠・BKCキャンパス風景、
入学式会場付近での喜びのスナップ写真、
2009年度新入生クラス集合写真、立命館大学の歴史
◎ 申込み締切：8月31日（月）

限定200冊

お申し込み・お問合せ先
立命館生活協同組合内 アルバム刊行委員会
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1　TEL. 075-461-1600　［受付時間］月～金 10:00～17:00

立命館大学夏期一斉休暇のお知らせ　8月13日（木）～8月21日（金）は夏期一斉休暇のため、事務室を閉室いたします。

父母教育後援会ホームページのご案内
http://www.ritsumei.ac.jp/mng/fubo/index.htm

立命館大学のホームページアドレスからは…
「保護者の皆さまへ」▸「立命館大学父母教育後援会」をクリック

会員様の住所変更について
本誌は、登録されいている学生の保証人住所に送付しております。住所を変更された場合は、学生本人による住所変更の手続きが必要です。お子様に学生証をお持ちの上、所属の学部事務室（BKCは学びステーション）まで届け出ていただきますようお伝えください。

■最近、立命館や、関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会をいかなる団体にも一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

立命館大学父母教育後援会だより 2009年 夏号
2009年8月発行　立命館大学父母教育後援会　〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1　Tel. 075-813-8261　Fax. 075-813-8262